

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八三二	天保3	1/2~	いなり社内	生写朝顔話 読本十二冊	大内館の段(口 志那、おく 芝)、松原の段(跡国)、宇治川の段(湊)、茶店の段(佐賀事 中)、岡崎の段(口 理、切 久)、明石船別れの段(重)、弓之助やしきの段(口 頼母、おく 江戸住事 内匠)、大磯揚屋の段(口 谷、切 長門)、小瀬川の段(口 谷、おく 久)、摩耶ヶ嶽の段(口 中、切 むら)、浜松の段(口 湊、おく 長門)、島田宿やの段(口 谷、切 重)、駒沢閑居の段(中)、山岡屋舗の段(口 久、切 長門、むら)、多々羅浜の段(かけ合 由良・富士・高・力)。 ※角書「秋月の手造／駒沢の嗣蔓」。 ※語り「宇治のほたる狩にこがれ初た川船の舳綱二結びもせのかたらひは古来まれなる老女の■(手偏に勾)引箱入娘の恋路に二世とちかひしかね言を立通したる深雪が貞節／浜松の笠宿に回りあふた主従の縁の糸うたふしやうがの葬節はたぐひまれなるやつこが忠義秘蔵子の蘇生に一世とかぎる親の跡目を立継せたる春雄が智略」。	老女荒砂(門蔵)、宮城阿曾次郎・駒沢治郎左衛門(金四)、娘みゆき・あさがほ(国八)、めのとあさか(東十郎)、萩野祐仙(金四)、岩代多喜太(清七)、戎屋徳右衛門(門蔵)。
一八三八	天保9	9/晦日~	稲荷社内東芝居	生写朝顔話 真盛十二本	大内館の段(小松)、松原の段(琴)、宇治川の段(陸)、茶見世の段(叶)、岡崎の段(口 巴磨、切 久)、明石舟別れの段(重)、弓之介屋敷の段(口 三根、おく 勢イ見)、大磯揚屋の段(口 琴、中 咲、切 大隅)、小瀬川の段(口 叶、おく 島)、摩耶ヶ嶽の段(口 越、切 若)、浜松の段(靱)、島田の段(口 島、切 重)、大井川の段(跡 久)。 ※角書「秋月の手造／駒沢の嗣蔓」。 ※語り「宇治のほたるがりにこがれ初た川舟の遊綱を結びもせのかたらひは古来まれなる老女の■(手偏に勾)引箱入娘のこひちに二世とちかひしかねごとを立通したる深雪が貞節／浜松の笠宿に廻りあふた主従の縁の糸うたふ唱歌の葬ぶしは類ひまれなるやつこが忠義秘蔵子のそせいに一世とかきる親の跡目をたてつがせたる春雄が智略」。	老女あら砂(門蔵)、宮城阿曾次郎・駒沢治郎左衛門(金四)、娘みゆき・あさがほ(辰五郎)、乳母浅香(辰造)、はぎの祐仙(勝造)、岩代滝太(勝造)、戎や徳右衛門(徳造)。
一八四二	天保13	8/16~	北ノ新地芝居	生写朝★語 四段目	宿屋の段(音羽=九蔵・琴 定吉)。 ※番付の日付は「八月吉日」であるが、『浄瑠璃大系図』の記述によって改めた(『義太夫年表 近世篇』)。 ※この番付には人形役名と遣い手の対応が明確でない部分がある。 ★(白のしたにハ)	駒沢治郎左衛門(喜十郎)、みゆき(国八)、祐仙(金花)、多喜太(虎造)、徳右衛門(門造)。

「生写朝顔話」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八四三	天保14	3	名古屋 若宮御社内	傾城朝★日記	浜松ノ段（口 寿）、宿屋ノ段（中 咲、切 巴）。 ★（白のしたにハ）	駒沢治郎左衛門（重八）、あさかほ（清十郎）、祐せん（与吉）、岩代滝太（清七）、徳右衛門（与吉）。
一八四三	天保14	9	道頓堀若太夫芝居	朝 顔 日 記	宿屋の段（口 要、切 音羽、跡 峰）。 ※『浄瑠璃大系図』は初日を「九月九日」とするが、「八月下旬より」とも記す。	駒沢治郎左衛門（才二）、あさがほ（清十郎）、岩代滝太（文五郎）、徳右衛門（新吾）。
一八四四	天保15	1	道頓堀若太夫芝居	朝 顔 日 記	宿屋の段（口 要、切 音羽、跡 峰）。 ※道頓堀若太夫芝居では、この正月に「祇園祭礼信仰記・他」（番付の日付は前年12月吉日であるが、実際の初日は正月2日）、「鎌倉三代記・他」（正月29日初日とされる）の二興行が行なわれており、『染太夫一代記』の記述からみても、この二興行の前後又は間に、この興行が行なわれた可能性は極めて少ない。しかも、この番付に見える出演者のうち、綱太夫、長登太夫、九蔵、吉川才二など主たる者が、正月吉日よりの京宮川町芝居の番付にもみえる。よって、この興行は実際には行なわれなかったかと推定される（『義太夫年表 近世篇』）。	駒沢治郎左衛門（才二）、あさがほ（清十郎）、岩代滝太（文五郎）、徳右衛門（新吾）。
一八四四	天保15	3	京 左女牛北側芝居	けいせい朝顔日記	浜松之だん（文）、宿屋之だん（中 綾、切 巴）。	駒沢治郎左衛門（才治）、朝かほ（辰蔵）、朝香（吉之介）、岩代滝太（文五郎）、藤や徳右衛門（金三）。
一八四四	天保15	4/16	西宮 西ノ宮今在家芝居	朝 顔 日 記	宿や（瑠璃）。 ※「夏げしきみどりの見台」の内。	
一八四四	天保15	4	道頓堀竹田芝居	生写朝顔話 つゞき十二段	大序 大内やかたのたん（口 米、おく 今）、松原のだん（若尾）、宇治川のだん（口 小、次 是）、茶店のだん（要）、岡崎のだん（口 峰、切 絹、多満）、明石船別れだん（靱）、弓之助やしきのだん（口 当久、奥若）、大磯揚屋のだん（口 多賀、中 是、切 咲）、小瀬川のだん（口 要、次 当久）、摩耶がだけのだん（中 絹、切 若）、浜松小家のだん（茂）、島田宿やのだん（口 当久、中 多満、切 靱）、大井川のだん（跡 咲）。 ※「茶店のだん」「小瀬川のだん」の豊竹要太夫を豊竹朝香太夫とし、「弓之助やしきのだん」の「奥」を「切」、「大井川のだん」の「跡」を欠き、人形役割の祐仙を吉田喜十郎とする別番付の写しがある。	老女白たへ（徳蔵）、阿蘇次郎・駒沢次郎左衛門（門蔵）、みゆき・朝がほ（国八）、うば浅香（清十郎）、萩の祐仙（正三）、岩代多喜太（喜十郎）、戎や徳右衛門（徳蔵）。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八四四	天保15	9	京 四条南側大芝居	けいせい朝顔日記 つゞき十式だん	大内やかたのだん（弥生、登代、美寿、照）、松原のだん（若尾）、宇治川のだん（口照、ヲク是）、下川原茶店之段（浅香）、岡崎貸座舗之段（口若尾、切多満、絹）、明石舟別れ之だん（氏）、弓之介屋舗之段（口当久、切文字）、大磯揚や之段（口浅香、中是、切咲）、小瀬川のだん（浅香、当久）、磨耶ヶ嶽のだん（中絹、切若）、浜松小家之段（茂）、島田宿や之段（口絹、中多満）、大井川のだん（切氏）。 ※別番付では「竹本照太夫」を「竹本輝太夫」とする。	老女白たへ（国八）、阿曾次郎（辰之助）、駒沢次郎左衛門（金四）、娘みゆき（咲蔵）、朝かほ（国八）、乳人浅香（重八）、萩祐仙（冠三）、岩城多喜太（新五郎）、戎や徳右衛門（国五郎）。
△	一八四四	天保15	阿波 井の内	朝顔日記	通し。 ※『元木家記録』、『染太夫一代記』に拠る。	
	一八四四	天保15	兵庫 兵庫芝居	けいせい朝顔日記 つゞき十二段	大内館の段（登賀）、松原のだん（住尾）、宇治川の段（峰）、下川原茶やノ段（高麗）、岡崎貸座敷の段（口和田、切島）、明石舟別れノ段（巴）、弓之介内のだん（多賀）、大磯揚屋のだん（口巴枝、中磯、切大住）、小瀬川のだん（大登）、摩耶ヶ嶽ノ段（口多賀、切錦木）、浜松小家ノ段（高麗）、島田宿やのだん（口和田、中島、切巴）。	老女あらたへ（喜十郎）、阿曾次郎（福之助）、駒沢治郎左衛門（門蔵）、娘深雪・朝かほ（辰造）、乳母あさか（清十郎）、萩の祐仙（冠四）、岩代滝太（喜十郎）、徳右衛門（文三）。
	一八四五	弘化2	堺 堺新地北の芝居	生写し朝顔日記	宿屋場より大井川まで（口巴枝、中綾、切音羽）。	駒沢治郎左衛門（兵吉）、朝かほ（国八）、岩城滝太（文五郎）、徳右衛門（国五郎）。
	一八四五	弘化2	四ツ橋南へ入浜	朝 貌	宿や（恵見）。 ※「みどり浄瑠璃番組」の内。	
△	一八四五	弘化2	尾州 大津町正万寺	あさかほ	※『小寺玉晷記録』に拠る。	
	一八四五	弘化2	伊勢 古市常芝居	朝 が ほ	宿屋場ノだん（バカ）。	
	一八四六	弘化3	京 左女牛北側芝居	朝 ★ 日記	宿や（中）。 ★（白のしたにハ）	
	一八四六	弘化3	道頓堀竹田芝居	生写朝顔話	浜松小家の段（越）、島田宿やのだん（口千代、中島、切大住）。	駒沢治郎左衛門（金四）、朝かほ（辰造）、乳母朝か（弥三郎）、萩の祐仙（咲蔵）、岩代滝太（新五郎）、戎や徳右衛門（喜十郎）。
	一八四七	弘化4	京 京四条北側大芝居	生写朝顔日記	浜松のだん（口大見、おく津賀）、宿屋のだん（口広、切山登）。	宮城阿そ次郎（才治）、娘みゆき（三吾）、乳母あさか（冠三）、萩野祐仙（文三）、岩代滝太（文五郎）、戎や徳右衛門（徳蔵）。
	一八四八	嘉永1	名古屋 清 寿 院	朝 ★	宿屋之段（小田美=卯之介）。 ※子供浄瑠璃。 ★（白のしたにハ）	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
一八四九	嘉永2	3/7~	名古屋 若宮御社内	朝 ★ 日記	宿屋の段（八才 染戸）。 ※子供浄瑠璃。 ★（白のしたにハ）		
一八四九	嘉永2	閏4/8~	京 左女牛北側芝居	朝 顔	宿や（錦木）。 ※素浄瑠璃。		
一八四九	嘉永2	5	西よこぼり清水 町浜	生写朝顔話	宿屋のだん（口 梶さ=燕二、切 富司=清四・こと 藤次郎）。 ※豊竹古靱太夫（山城少掾）旧蔵番付に「口節大切朝かほ宿やの口五月十日より小人形口候但し此節人形入の初也其人形遣ひ吉田三吾 吉田虎造 吉田喜十郎 吉田音吉 吉田友五郎」との書込みがある。		
一八四九	嘉永2	5	兵庫 兵庫定芝居	けいせい朝顔日記	浜松の段（伊達）、宿屋の段（中 三根、切 錦木）。	駒沢次郎左衛門（文三）、朝かほ（辰造）、萩の遊仙（小竹）、岩代太喜太（金吾）、宿や徳右衛門（国八）。	
一八四九	嘉永2	7	道頓堀若太夫芝居	生写朝顔話 全部五冊	大内やかたのだん（三住、大房、直、尾上）、松原のだん（都）、宇治川のだん（口 住戸、おく 桐）、茶店のだん（市）、岡崎のだん（口 二見、切 多満、時）、明石舟別れのだん（口 住戸、おく 大住）、弓之介やしきのだん（口 梶サ、おく 梶）、大磯揚屋のだん（口 二見、中 浪、切 咲）、小瀬川のだん（口 都、おく 町）、摩耶ヶ嶽のだん（口 是、切 梶）、浜松のだん（伊達）、島田宿やのだん（口 桐、中 多満）、奥さしきだん・大井川のだん（切 大住=清八）。 ※別番付には「大内やかたのだん」の竹本三住太夫、「岡崎のだん」の豊竹時太夫の名がなく、「摩耶ヶ嶽のだん」の「口」を「中」とする。	老女白妙（門蔵）、宮城阿曾次郎・駒沢治郎左衛門（門蔵）、娘みゆき・朝かほ（辰造）、うば浅香（新五郎）、萩の祐せん（東作）、岩代滝太（玉造）、戎や徳右衛門（当蔵）。	
△	一八五〇	嘉永3	1/3~	西横堀御池ばし	朝 ★	四（森）。 ※「緑浄留里」の内。 ※『弥太夫日記』に拠る。 ★（白のしたにハ）	
△	一八五〇	嘉永3	2/7	伊予 西条新居浜慈明寺	朝 顔	かけ合（徳右衛門一梶・他）。 ※『染太夫一代記』に拠る。	
	一八五〇	嘉永3	3/3~	名古屋 若宮芝居	生写朝顔話 島田宿屋の段	笑ひ葉の場（口 大和）、奥ざしきのだん（切 大隅=清八・清次郎・琴 栄次郎）。 ※操り歌舞伎打交ぜ興行。	
△	一八五〇	嘉永3	夏頃	播州 大 咲	朝 頭 日記	四（小埜）。 ※『弥太夫日記』に拠る。	
△	一八五〇	嘉永3	夏頃	播州 姫路戎町	朝 顔 日記	（左乃）。 ※『弥太夫日記』に拠る。	
△	一八五〇	嘉永3	夏頃	播州 網 干	朝 ★ 日記	四（小埜）。 ※『弥太夫日記』に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
一八五〇	嘉永3	8/1~	新築地清水町浜 文楽小家	朝 顔	宿屋のだん（錦木＝楠六・琴 竜虎）。 ※「みどり浄瑠璃」の内。		
一八五〇	嘉永3	11/14~	堺 さかい新地南芝 居	朝 顔	宿や段（染戸）。 ※子供浄瑠璃。		
△	一八五一	嘉永4	7頃	江戸 小 引 町	朝 ★	やどや（登乃）。 ※『弥太夫日記』に拠る。 ★（白のしたにハ）	
一八五一	嘉永4	8/1~	清 水 町 浜	あ さ が ほ	浜まつ（実戸＝清三郎）。 ※素浄瑠璃。		
△	一八五一	嘉永4	8/10	江戸 両 国	朝 ★	やどや（錦の）。 ※『弥太夫日記』に拠る。 ★（白のしたにハ）	
一八五二	嘉永5	閏2/6~	京 四 条 道 場	朝 ★	宿屋（竹文字）。 ※「かげゑ」浄瑠璃。 ★（白のしたにハ）		
△	一八五二	嘉永5	4/23	紀州 大 島	朝 顔	（登の）。 ※『弥太夫日記』に拠る。	
一八五二	嘉永5	8/1~	京 寺町寅やくし	朝 ★	浜松之たん（豊浪）。 ※「かげゑ」浄瑠璃。 ★（白のしたにハ）		
△	一八五二	嘉永5	9/15~	法 善 寺	朝 が ほ	宿屋（貴咲＝文二郎）。島田（巴木＝清左）。 ※『弥太夫日記』に拠る。 ※演目、配役に異同があり、日程も明確でない（『義太夫年表 近世篇』）。	
一八五二	嘉永5	10/10~	京 寺町四条道場	生 写 朝 顔 話 島田宿	宿屋のだん（寿玉斎）。 ※「かげゑ」浄瑠璃。		
一八五二	嘉永5	11/1~	新築地清水町浜 小家	生 写 朝 顔 話 続本十冊	大内館の段（喜左、鳴戸、咲代）、宇治川の段（咲美、輝）、真葛ヶ原の段（三国）、岡崎のたん（口 塚、切当久）、明石船別れ段（田喜）、大磯揚やの段（口 三国、切 咲）、小瀬川の段（久）、摩耶ヶ嶽の段（中 むら、切 綱）、浜松のだん（口 田喜、奥 むら）、島田宿やの段（口 久、中 当久、切 三光斎）。 ※角書「秋月の手造／駒沢の嗣蔓」。 ※『弥太夫日記』11月4日の見物記には「岡崎隠家（当久＝仙八）、大磯揚屋（三国、咲＝仙八）、摩耶ヶ嶽（口 むら、切 綱＝燕三）、浜松小屋（むら＝清兵衛）、わらひくすり（当久＝仙八）、島田宿屋（三光斎＝団平）」とある。		

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八五三	嘉永6	2/1~	道頓堀若太夫芝居	生写朝顔話 大序ヨリ 四段目迄	大序 大内館の段（成勢、綱子、卯）、松原の段（なが子）、宇治川の段（口音賀、跡登志）、茶見せの段（二見）、岡崎の段（口久我、切多満、千賀）、明石舟別れ段（巴）、弓之介やしきの段（口佐賀、おく組）、大磯揚やの段（口賀、中二見、切中）、小瀬川の段（口直、おく町）、摩耶ヶ嶽の段（口理、切湊）、浜松の段（富司）、島田宿やの段（口佐賀、中多満、切巴=団平）。 ※『弥太夫日記』に掲げる役割は「大序（三尾=亀吉、成勢=竜二）、あらたへ語のだん（宇=鶴まつ、綱子=寛七）、多々羅のだん（長子=柊二郎）、宇治川のだん（音賀=八造、登志=新二郎）、茶店のだん（二見=万八）、岡ざきのだん（久我=梅二郎、千賀=寛十郎）、明石舟別のだん（巴=団平、カハリ久我=団十郎）、弓之介屋敷のだん（佐賀=万八、組=寛十郎）、大磯揚屋のだん（賀=梅二郎、二見=万八、中=文さく）、小瀬川のだん（直、町=団十郎）、摩耶嶽のだん（理=泰二郎、湊=勝右衛門）、浜まつのだん（富司=エン二）、島田宿屋のだん（佐賀=泰二郎、多満=団十郎、巴=団平）」。	老女白たへ（才治）、阿曾次郎・駒沢治郎 左衛門（才治）、娘みゆき・あさがほ（三吾）、うば浅香（小竹）、祐せん（才治）、岩代たき太（才治）、戎や徳右衛門（文蝶）。
△	一八五三	嘉永6	3/3	道頓堀若太夫芝居	朝 顔 話 多々羅濱（長子）。 ※子供首振り操芝居。 ※『五世弥太夫 芸の六十年』に拠る。	
△	一八五三	嘉永6	11/26	播州 明石平松山	朝 顔 日 記 四（登の）。 ※『弥太夫日記』に拠る。	
△	一八五三	嘉永6	11/30~12/1	播州 明石平松山	朝 か ほ （田名）。 ※『弥太夫日記』に拠る。	
	一八五四	嘉永7	1/2~	道頓堀法善寺境内	朝 ★ 日 記 宿や之段（口津磨=徳造、切氏=徳太郎）。 ★（白のしたにハ）	
	一八五四	嘉永7	10/13~	京 四条北側大芝居	朝 か ほ 宿や（津賀）。 ※素浄瑠璃。	
	一八五五	安政2	2/2~	京 寺町とら薬師寺内	あ さ ★ 宿や（浪=源平）。 ※「かげ絵」浄瑠璃。 ★（白のしたにハ）	
	一八五五	安政2	3	名古屋 清寿院御境内	朝 顔 日 記 宿屋のだん（文字=庄治郎）。	
	一八五五	安政2	8/24~	京 四条北側芝居	朝 が ほ （巴津=広市）。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八五五	安政2	9	新築地清水町浜	生写朝顔話 大序より 四段目迄	大内館のだん（灘、喜志）、多々羅浜の段（音の）、宇治川蚩狩のだん（口 曾根、次 音賀、おく 佐賀）、真葛が原のだん（田喜）、弓之介閑閑の段（中 久、切 当久）、明石船別の段（むら）、大磯揚屋のだん（口 当勢、中 佐賀、切 弥）、小瀬川のだん（口 和国、おく 久）、摩耶ヶ嶽の段（中 当久、切 湊）、浜松のだん（口 理、おく 弥）、島田宿屋の段（中 田喜、おく 多満、切 長登）。 ※角書「秋月の手造／駒沢の嗣蔓」。 ※『弥太夫日記』には「九月朝かほ 大井川まで 付物内匠」とあるが内匠（田組）太夫の名は番付に見えない。	
一八五五 ～ 一八五六 頃	安政2 ～ 安政3 頃		京 蛭子屋吉郎兵衛 座	朝 か ほ	宿や之段（飛蝶軒＝安二郎）。	
一八五七カ	安政4カ	9/24～	京 四条寺町道場北 新席	朝 ★	浜松（巴津）。 ★（白のしたにハ）	
一八五七	安政4	11上旬～	名古屋 若 宮	朝 顔 日 記	（豊＝吉造）。	
一八五八	安政5	5/5～	京 四条道場北小家	朝 顔	浜松のたん（磯登＝辰之助）。 ※「かげゑ」浄瑠璃。	
一八五八	安政5	5	名古屋 橘町常芝居	増補朝★日記	浜松ノ段（芝）、宿屋ノ段（阿蘇）。 ※「花競四季寿」（みどり）の内。 ※上演年次は番付書込みに拠る。鈴木光保「近世後期の地方芝居番附をめぐって一名古屋・吉田を中心に一」（『名古屋大学国語国文学』第42号）は安政4年と考証。 ★（白のしたにハ）	駒沢次郎左衛門（金枝）、朝かほ（東三）、岩代滝太（清八）、徳右衛門（正平）。
△ 一八五八	安政5	12/12	紀州 和 歌 山	朝 が ほ	四（春松、長子）。 ※『弥太夫日記』に拠る。	
一八五九	安政6	1	京 四条南側大芝居	朝 ★ 日 記	宿やノ段（大筆＝広兵衛）。 ★（白のしたにハ）	
△ 一八五九	安政6	3/11	泉州 深 日	生写朝顔日記	（長子）。 ※『弥太夫日記』に拠る。	
△ 一八五九	安政6	9/4	紀州	朝 か ほ 日 記	宿や（所）。	
		9/5	道成寺門前小家	朝 か ほ	四ノ口（所）。 ※『弥太夫日記』に拠る。	
一八六〇	安政7	1/2～	道頓堀法善寺小家	朝 顔	浜松（巻＝仙三郎）。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八六一	文久1	3	御霊裏門	生写朝顔話 大序より 四段目まで	大内館のだん(富司玉)、宇治川のだん(富司尾)、岡崎のだん(千歳)、明石船別のだん(鳴瀬)、弓之助館のだん(加賀)、小瀬川のだん(内海改 吾妻)、摩耶ヶ嶽のだん(三国、泉)、浜松のだん(春戸)、笑葉のだん(富司尾、い)、嶋田宿屋の段(富司)。 ※首振り芝居。	
一八六一	文久1	7中旬	紀州 建かし芝居	あ さ が ほ 宿屋場より 大井川まで	浜松のたん(大内)、宿屋場・大井川のたん(口 八木、切 絹)。 ※番付の太夫役割欄には「生うつし朝かほ」とある。 ※人形役名と人形遣い名の対応関係には明確さを欠く所がある。	次郎左衛門(紋左衛門カ)、みゆき(清十郎カ)、あさか(大五郎カ)、多喜太(岸之助カ)、徳右衛門(辻右衛門カ)。
一八六一	文久1	7	座摩社内	生写朝顔話 大序より 四段目まで	大内ノだん(菊、曾我)、松原ノだん(尾上)、宇治川のだん(口 勝、おく 鶴尾)、茶店のだん(尾上)、岡崎のだん(口 妻、切 茂)、明石舟別レノ段(富司)、弓之助やしきノ段(口 妻、おく 司)、大磯揚やノ段(口 茂、切 鰻、津賀)、小瀬川ノだん(浪)、摩耶が嶽ノ段(口 阿蘇、切 長尾)、浜松のだん(伊達)、島田宿やの段(口 鶴尾、中 鰻、切 春=吉弥)。	老女白たへ(清七)、宮城阿曾次郎・駒沢次郎左衛門(兵吉)、娘みゆき・朝かほ(辰造)、乳母浅香(金四)、萩ノ祐仙(小兵吉)、岩代多喜太(清七)、戎や徳右衛門(兵花)。
一八六一 ~ 一八六二	文久1 ~ 文久2	11~3	宮島カ	朝 顔 日 記	(内匠)。	
一八六二	文久2	8/4~	いなり社内東ノ 小家	生写朝顔話 大序より 四段目迄	大内館のだん(左馬、竜、弥増、咲花、小松)、多々羅浜ノ段(岩戸)、宇治川螢がりの段(口 和、おく 音賀)、真葛か原の段(佐土)、秋月弓之介閑居の段(中松尾、切 筑前)、明石舟別レの段(佐賀)、大磯揚屋の段(中 実、次 長枝、切 弥)、小瀬川の段(佐賀)、摩耶が嶽の段(中 長枝、切 咲)、浜まつ段(口 音賀、奥 住)、島田宿やの段(中 音羽、次 多満、切 湊)。 ※角書「秋月の手造ノ駒沢の嗣蔓」。 ※番付の日付は「八月吉日より」であるが、番付の三本に「来ル(八月)四日より」と書込みがあり、石割松太郎による『近世邦楽年表 義太夫節之部』書入れも「四日」とするので改めた。ただし『浄瑠璃大系図』は「一日」とする(『義太夫年表 近世篇』)。	老女荒妙(才治)、宮城阿曾次郎・駒沢次郎左衛門(玉造)、娘みゆき・朝かほ(松江)、乳母浅香(新五郎)、萩ノ祐仙(玉三郎)、岩代多喜太(文三)、戎や徳右衛門(喜十郎)。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八六四	元治1	5	あみだ池境内	生写朝顔話 大序より 宿や迄	宇治の段(富田羽=燕勝)、真葛か原ノ段(寅=燕一)、岡崎の段(千年=万二)、あかし舟別れだん(鳴瀬=燕一)、弓之介やしきノ段(百合=寛十郎)、小瀬川ノ段(文=寛造)、摩耶がたけの段(口 鳴瀬=万二、切 塚=勝市)、浜松の段(文=寛造)、笑ひ葉の段(口 寅=燕勝、中 富=燕二)、宿やの段(切 富司=燕三)。 ※首振り芝居。	
一八六四	元治1	7	天満戎門	生写朝顔話 大序より 四段目迄	大序(入、河内)、宇治川の段(富田羽)、茶店の段(艶)、岡崎の段(富田羽、尾上)、明石船別の段(鶴尾)、弓之介やしきノ段(寅、百合)、小瀬川の段(鶴尾)、摩耶が嶽ノ段(中 鳴門、切 長尾)、浜松の段(富司/伊達、右役場一日かはりニ相つとめ申候)、宿屋の段(口 谷、中 鳴門、切 富司/伊達=燕四、右役場一日かはりニ相つとめ申候)。	
一八六四	元治1	9	御霊うら門	生写朝★日記 大序より 四段目迄	大序(宝、福、い寿)、宇治川の段(伊登)、茶見世のたん(滝尾)、岡崎の段(口 若美、切 富)、あかし舟別れの段(鶴尾)、弓之介やしきの段(口 滝尾、切 其)、小瀬川の段(鶴尾)、摩耶が嶽のたん(口 伊登、中 巴津、切 内匠)、浜まつノ段(い)、島田宿やの段(口 若美、中 巴津、切 伊達)。 ★(白のしたにハ)	老女荒たへ(源十郎)、宮城阿曾次郎・駒沢次郎左衛門(兵吉)、みゆき・あさがほ(門造)、乳母浅香(小兵)、萩のゆう仙(冠吉)、岩代多喜太(源十郎)、徳右衛門(文三)。
一八六五	元治2	1/5~	京 四条道場北ノ小 家	朝 が ほ	宿やノ段(滝=団六)。 ※素浄瑠璃。	
一八六五	元治2	1/9	紀州 大 川	朝 か ほ	立会 大序里ト、真葛ヶ原、明石舟別、摩耶嶽(米)、浜まつ、笑葉の段(米)、琴歌(長子)。 ※『弥太夫日記』に拠る。	
一八六五	元治2	3	天満戎門	生写朝顔日記 大序より 四段目迄	大序(入、鶴)、宇治川の段(弥尾)、真葛原ノ段(谷)、岡崎の段(口 三芳、切 千鳥)、明石舟別の段(鳴門)、弓之助やしきノ段(口 春栄、切 音の)、小瀬川ノ段(谷)、摩耶か嶽段(口 千鳥、切 氏)、浜松の段(百合)、宿やの段(口 春栄、中 鳴門、切 津賀)。	老女白妙(源十郎)、宮城阿曾次郎・駒沢次郎左衛門(小兵吉)、娘みゆき・あさかほ(兵吉)、浅香(源十郎)、萩ノ祐仙(源十郎)、岩代多喜太(松助)、戎や徳右衛門(米三郎)。
一八六五	元治2	3	伊丹宮ノまへ	生写朝顔話大序より 四段目迄	大序(音尾=豊七)、宇治川ノ段(三芳=重吉)、弓之介やしきノ段(上総=福助)、摩耶がだけのたん(巴津=燕二、泉=吉二郎)、浜松の段(上総=吉之助)、笑ひ葉ノだん(巴津=燕二)、宿やの段(音の=豊作・琴ツレ 福助)。 ※首振り芝居。	

△

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八六五	慶応1	閏5	京 四条道場北ノ小 家	生写朝顔話 大序より 四段目迄	大内館のどん(▲(兵十萬)=亀吉)、松原のどん(定=藤之助)、宇治川蚩かりのどん(緑=常吉、小賀=庄之助)、真葛か原段(蝦尾=伝吾)、岡崎のたん(切島=団六)、明石舟別レの段(阿蘇=三根造・ツレ 亀吉)、弓之介やしきノ段(伊達=万八)、大磯揚屋の段(カケ合 駒沢次郎左衛門一長尾・岩代滝太一島・赤星雲八一蝦尾・浅井順蔵一緑・傾城瀬川一阿蘇・大内義興一宮戸=吉左衛門・ツレ 三吉)、小瀬川の段(伊達=三根造)、摩耶が嶽のどん(口 相模=団六、切 宮戸=兵吉)、浜まつのどん(阿蘇=万八)、島田宿やの段(口 小津賀=玉造、切 長尾=吉左衛門・琴 三吉)。 ※角書「秋月の手造ノ駒沢の嗣蔓」。 ※別番付では「大磯揚屋の段」の「鶴沢吉左衛門」を「野沢庄次郎」、「摩耶が嶽のどん・口」の「竹本相模太夫」を「竹本小賀太夫」とする。	
一八六五	慶応1	9/9~	京 伏見ほうき町芝 居	朝 ★ 日記	宿やノ段(伊達=吉兵)。 ★(白のしたにハ)	
一八六六	慶応2	3/23~	京 四条道場北ノ小 家	朝 ★ 日記	浜松ノ段(春戸=鶴太郎)。 ★(白のしたにハ)	
一八六六	慶応2	6/18~	京 四条北側大芝居	朝 ★ 日記	宿や之段(賀シ和=弥一郎)。 ★(白のしたにハ)	
一八六六	慶応2	7/15~	江戸 米沢町芝居 結 城 座	生写朝顔日記 四段目まで	宇治川蚩がり之段(亀代、靱木、美寿、成瀬)、真葛か原の段(武)、岡崎之だん(口 雛、切 都)、明石舟別之段(菊)、弓之介やしき之段(口 和田、奥 大島)、大磯揚屋のだん(カケ合 越前・都・う・菊)、小瀬川之段(政子)、摩耶ヶ嶽の段(中 靱、切 越)、浜まつのだん(中)、宿やのだん(翁)、大井川の段(靱=六兵衛)。 ※角書「秋月ノ唱歌ノ駒沢ノ智仁」。	宮城阿曾次郎・駒沢次郎左衛門(六二)、娘深雪・朝がほ(国五郎)、乳母浅香(小兵)、萩野祐仙(門十郎)、岩城太喜太(清四)、夷や徳右衛門(栄二)。
一八六六	慶応2	9/9~	京 四条道場北の小 家	朝 ★ 日記	宿やノ段(齡山翁=芦調・琴 三吉)。 ★(白のしたにハ)	
一八六七	慶応3	5上旬~	名古屋 若宮御境内	朝 ★	宿屋の段(須磨=友五郎)。 ※人形役名と遣い手の対応関係には不明確なところがある。 ★(白のしたにハ)	次郎左衛門(寿勝)、岩四郎(勘治郎)、徳右衛門(太八)。
一八六七	慶応3	7/23~	京 四条道場北ノ小 家	朝 ★ 日記	摩耶ヶ嶽段(長尾=鱗糸)、宿やノだん(津賀=豊吉・琴 虎次郎)。 ★(白のしたにハ)	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八六七	慶応3	10	名古屋 若宮御社内	朝 顔	浜松ノ段（須磨）、宿屋ノ段（宝）。	駒沢次郎左衛門（清七）、あさかほ（鹿蔵）、こし元朝香（清八）、岩城郷助（歌録）、藤や徳右衛門（金旭）。
一八六八	慶応4	8/28～	京 四条道場北ノ小家	朝 ★ 日記	宿や之段（賀シ輪＝直吉）。 ★（白のしたにハ）	
一八六八	明治1	12/6～	京都 四条北側芝居	朝 ★ 日記	浜松（須磨＝直吉）。 ※「外題一日替りニ相勤申候」（番付）。 ★（白のしたにハ）	
一八六九	明治2	5/5～	いなり東芝居	生写朝 ★ 晰	舟別のだん（染子）、浜松のだん（口 春戸、奥 住）、宿屋のだん（中 理久、次 浪、切 春）、山岡屋敷の段（常）。 ★（白のしたにハ）	駒沢次郎左工門（玉造）、娘みゆき（辰造）、乳母あさ香（玉造）、萩の祐仙（小玉）、岩代多喜太（玉之助）、亭主徳右工門（喜十郎）。
一八六九	明治2	5/5～	京都 道場北ノ小家	生写朝顔話	大内館ノ段（浜尾＝団吉）、松原之たん（小須賀＝小時）、宇治川蚩狩のたん（浜尾＝団吉、須廣＝時助）、岡崎のたん（口 薫＝小時、切 三国＝小熊）、真葛原ノ段（小須賀＝時助）、明石のだん（勢見＝喜代七・小時）、弓之介やしきノ段（紋＝庄七）、大磯揚屋のだん（駒沢次郎左衛門一長尾・けいせい瀬川一勢見・赤星雲八一須廣・大内義興一山城掾・浅井順蔵一小須賀・亭主佐左衛門一小賀・岩代滝太一津賀＝庄次郎・小時）、小瀬川の段（三国＝小熊）、摩耶ヶだけ之段（口 小賀＝時造、切 長尾＝鱗糸）、浜松のだん（勢見＝時造）、嶋田宿やの段（中 寿＝喜代七、切 三光斎＝庄次郎・小兵）。 ※角書「霞の／ひぬ／間の」。	
一八六九	明治2	9	御りやう芝居	生写朝顔話 全部五冊	大序 大内の段（巴儀）、茶店の段（雛、三保）、岡崎の段（口 岸、中 尾木、切 文字）、明石舟別の段（国）、大磯揚やの段（口 三国、切 駒、鞆）、小瀬川の段（口 越戸、切 巴勢）、摩耶ヶ嶽の段（中国、切 対馬）、浜松のだん（巴勢）、嶋田宿やの段（中 三根、切 越）。	老女荒妙（東十郎）、宮城阿曾次郎（小兵吉）、駒沢次郎左工門（伝七）、娘みゆき・朝がほ（兵吉）、うば浅香（文三）、萩のゆう仙（千次郎）、岩代瀧太（光造）、戎や徳右工門（東十郎）。
一八六九	明治2	12/10～	京都 北側大芝居	朝 か ほ	浜まつ（春戸）。 ※典拠とした番付には興行年次に関する記述が見当たらないが、次のように推定した。竹本山四郎の山城掾からの改名が明治2年6月であること、竹沢喜代七の野沢への改姓が明治4年1月であることから、この興行が明治2年あるいは明治3年に行われたことがわかる。さらに、明治3年12月吉日からの兵庫での興行に越路太夫が出演しているので、ここでは仮に明治2年のこととした（『近代歌舞伎年表 京都篇』）。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八七〇	明治3	3/3~	京都 道場北ノ小家	朝 顔 話	宿やノ段（津賀＝豊吉・直吉）。	
一八七二	明治5	4/8~	京都 北側大芝居	朝 顔 日 記	宿や（盛葉＝福三郎）。 ※素浄瑠璃。	
一八七二	明治5	9	松嶋文楽座	生 写 朝 顔 話 鉢植十一品	大序 大内館のだん（う、桂、靱登、梶代、春馬）、宇治川のだん（口 左馬、奥 三根）、真葛ヶ原の段（梶）、秋月閑居の段（中 豊、切 中）、明石舟別の段（春栄）、大磯揚やの段（中 頼、切 実、染）、小瀬川のだん（口 九、奥 田関）、摩耶ヶ嶽のだん（中 弥、次 中、切 越）、浜松の段（口 豊、奥 梶）、嶋田宿やのだん（中 左馬、次 三根、切 越路）。 ※角書「秋月の手造ノ駒沢の嗣蔓」。 ※「九月廿七日ヨリ卅七日間」（『義太夫年表 明治篇』）。	老女荒妙（玉造）、宮城阿曾次郎（光造）、駒沢次郎左工門（玉造）、むすめ深雪・朝かほ（玉造）、乳母浅香（辰五郎）、萩野祐仙（玉助）、岩城多喜太（玉治）、戎や徳右工門（喜十郎）。
一八七四	明治7	5/1~	京都 亀の家席	朝 ★ 日 記	宿やノ段（久＝吉左衛門）。 ※素浄瑠璃。 ★（白のしたにハ）	
一八七四	明治7	7	堀江芝居	生 写 朝 顔 話 大序より 四段目迄	大序（古、糸、木尾、鞆）、宇治川のだん（十三、古勢、梶登）、真葛ヶ原の段（梶摩）、岡崎閑居の段（口織の、切 津）、明石船別れの段（かけ合 古靱・織）、秋月やしきの段（口 浅尾、次 沢、奥 春戸）、大磯揚屋のだん（口 靱登、中 春子、切 梶）、小瀬川のだん（口 古勢、奥 頼）、摩耶ヶ嶽の段（中 小賀、切 長尾）、松原のだん（梶摩）、浜松小屋の段（口 織尾、奥 文字）、笑葉のだん（口 靱登、次 山四郎）、宿屋より大井川まで（切 古靱）。	老母荒明（門造）、宮城阿曾次郎・駒沢次郎左工門（光造）、娘みゆき・朝かほ（東十郎）、うば浅香（小辰造）、萩野祐仙（兵三）、岩代瀧太（玉枝）、戎や徳右工門（喜十郎）。
一八七四	明治7	9	松嶋文楽座	生 写 朝 ★ 噺	浜松の段（雛、重）、嶋田駅宿やのだん（絹、弥、住）、駒沢次郎左工門やしきの段（梶）。 ※「九月廿四日ヨリ」（『義太夫年表 明治篇』）。 ★（白のしたにハ）	駒沢次郎左工門（玉助）、朝かほ（辰造）、乳母浅香（鹿造）、萩野祐仙（玉造）、岩代多喜太（玉治）、戎や徳左工門（兵吉）。
一八七四	明治7	11/1~14	名古屋 末広座	朝 額(マ) 日 記	浜松ノ段（登和）。 ※浄瑠璃身振り。 ※初日と千鶴樂は『勾欄類見聞』に拠る。	
一八七五	明治8	5	名古屋 亀の家座	朝 か ほ (生写朝顔話)	宿や（浅尾＝重吉）。 摩耶ヶだけ（長尾＝庄次郎）。 ※「浄瑠璃大寄」の内。	
一八七五	明治8	7	名古屋 亀の家座	朝 ★ 日 記	浜松之段（八木＝重吉）。宿やの段（茂＝伝吉）。 ※「浄瑠璃大寄」の内。 ★（白のしたにハ）	
一八七五	明治8	11	竹田芝居	朝 顔	浜松（伊摩＝新之助）。舟別レ（浜の＝広勝）。 ※みどり素浄瑠璃。	

「生写朝顔話」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八七六	明治9	1/1~	天満大工町芝居	朝 顔	浜松（豊）。 ※「浄瑠璃緑りの鉢植」の内。	
一八七六	明治9	1	名古屋 橘 座	朝 顔 日 記	浜松のだん（浪花＝豊七）。 ※太夫 竹本越太夫。	
一八七六	明治9	11	松嶋文楽座	生 写 朝 顔 話 鉢植十一品	大序 大内館のだん（七重、弥津、福、津瑠、芳、登勢、氏栄、梶栄、越代）、浜辺のだん（栄、袖）、宇治川の段（中 越の、切 中）、真葛ヶ原のだん（三根）、弓之介閑居の段（中 路、切 津）、明石船別の段（住）、大磯揚やの段（中 長子、次 津、切 弥）、小瀬川のだん（口 田喜、奥 氏）、摩耶ヶ嶽のだん（中 路、次 組、切 梶）、浜松のだん（口 弥、奥 住）、嶋田宿やのだん（中 梶、次 布袋、切 越路）。 ※角書「秋月の手造／駒澤の嗣蔓」。 ※「十一月十三日ヨリ廿五日間」（『義太夫年表 明治篇』）。	老女荒妙（東十郎）、宮城阿曾次郎・駒沢次郎左工門（玉造）、娘深雪（亀松）、浅香（玉造）、萩野祐仙（玉助）、岩城多喜太（玉治）、戎屋徳右工門（玉之助）。
一八七七	明治10	2/13~	弁 天 座	朝 顔	宿屋（久）。浜松（豊）。浜松（田古）。 ※「過し日の／其年月も／めぐり来て 連営手向の薫樹礼拝三度」の内。故人太鼓卯之助追善。 ※初日は役割番付欄外の墨書に拠る。	
一八七七	明治10	3/18~	座摩裏門新席	朝 顔 日 記	宿屋の段（浜路＝豊八）。 ※浄瑠璃糸繰り。	
一八七九	明治12	1/1~3	京都 道 場 演 劇	朝 ★	浜松（綾賀＝哥女太良）。 ※素浄瑠璃。 ★（白のしたにハ）	
一八八二	明治15	9	松嶋文楽座	生 写 朝 顔 話	嶋田駅戎やのだん（中 田喜、次 組、切 越路）。 ※角書「秋月の手造／駒沢の嗣愛」。 ※「九月廿七日ヨリ十一月十日マデ四十三日間（十月卅、卅一日節季休、十一月一日始）」（『義太夫年表 明治篇』）。	駒沢治郎左工門（玉助）、あさがほ（紋十郎）、萩の祐仙（亀松）、岩代多喜太（玉治）、戎や徳右工門（玉造）。
一八八二	明治15	9	名古屋 真 本 座	朝 顔 日 記	宿屋のだん（嶋＝小扇）、大井川段（淀＝宗之助）。 ※浄瑠璃身振り。 ※「愛知新聞」（9月21日）に「近日より」とあることから9月下旬初日と推定される。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八八四	明治17	6/1~	彦六座	生写朝顔話 大序より 四段目迄	大序 大内館のだん（朝尾、隅勢、登勢、源枝、重久、重 の、源氏、住の、組子）、多々羅ヶ浜のだん（鷹、住 の、若駒）、宇治川のだん（信、重子=*友松）、真葛 ヶ原のだん（町）、岡崎隠れ家の段（中 越磨、切 富 司）、明石の浦舟別れのだん（カケ合 源・朝、此所出つ かひにて御覧に入申候）、秋月弓之介やしきの段（口 越 磨、次 山登）、大磯揚やの段（中 歳、奥 朝、源）、小 瀬川のだん（口 津代、奥 富司）、摩耶ヶ嶽のだん（中 芳、次 町、切 組=源吉）、浜松小家のだん（口 若靱、 奥 雛）、嶋田駅宿やのだん（中 山登、次 源、切 重= * 広助・琴 * 友松、此所出つかひにて御覧に入申候）。 ※「重太夫不人気、五日目ニ広助三味線弾キ難シトテ舞 台中途テ楽屋ニ入り、富助替ル、六日目ヨリ朝太夫代り 役ツトム、重太夫コレニテ退座」（『義太夫年表 明治 篇』）。	老母あら妙（小辰造）、宮城野阿曾次郎・ 駒沢次郎左衛門（辰五郎）、娘深雪・あさ かほ（東十郎）、乳母浅香（松江）、萩の 祐仙（玉松）、岩城太喜太（友造）、戎や 徳右衛門（才治）。
一八八五	明治18	6	御霊文楽座	生写朝顔話	真葛ヶ原のだん（織）、明石の浦舟別れのだん（谷、切 時）、浜松のだん（口 競、奥 呂）、嶋田駅宿屋のだん （中 春栄、次 路、切 越路、此所出つかひにて御覧に入 申候）。 ※「六月廿一日ヨリ十五日間、七月十三日返り初日五日 間興行」「洪水ノ為七月二日ヨリ十二日迄遠慮休業」 （『義太夫年表 明治篇』）。	駒沢次郎左工門（玉助）、むすめ深雪・朝 がほ（紋十郎）、乳母浅香（玉助）、萩野 祐仙（玉造）、岩城多喜太（玉七）、戎や 徳右工門（玉治）。
一八八五	明治18	7/1~	彦六座	生写朝顔日記 四段目迄	明石舟別れの段（若靱=*友松）、小瀬川のだん（口 組 路、奥 生嶋）、摩耶ヶ嶽の段（口 津代、中 山登、切 新靱）、浜松のだん（口 組子、奥 千駒）、笑葉のだん （口 隅栄、中 町）、宿やのだん（切 深雪一大隅・駒 沢一源・岩城一柳適・徳右衛門一越・下女十若侍一登 勢、此所惣出つかひにて御覧に入申候）。 ※「七月一日ヨリ廿一日マデ、但シ初日ヨリ出水デ休 ミ、九日ヨリハジマル」「廿二・三日モライ」（『義太 夫年表 明治篇』）。 ※初めての昼夜二部制興行。	宮城阿曾次郎・駒沢治郎左衛門（兵吉）、 むすめ深雪・朝顔（三吾）、乳母浅香（玉 松）、萩野祐仙（亀松）、岩城多喜太（玉 松）、戎や徳右衛門（才治）。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八八五	明治18	10/4~26	東京 猿若町壱丁目	生写朝顔話 鉢植十種	大序 大内多々羅の介館のだん（織栄、織登、呂勢、津満、陸路、尾上）、多々羅の浜の段（越代）、宇治川のだん（梶栄、田喜）、真葛ヶ原の段（競）、秋月弓之介閑居のだん（中 梶栄、切 路）、明石舟別の段（谷）、大磯揚屋のだん（カケ合 呂・織・田喜・春栄）、魔耶嶽荒磯隠し家ノ段（中 多門、次 南部、切 長尾）、浜松のだん（織）、嶋田駅宿屋のだん（中 春栄、次 浪、切 住＝勝七）。 ※角書「秋月の手造／駒沢の嗣蔓」。 ※大阪文楽座。 ※初日と千種楽は演芸資料選書・5『東京の人形浄瑠璃』に拠る。番付には「当ル明治十八年酉の九月吉日より」とある。	玉橋の局実（玉造）、駒沢次郎左工門（玉助）、娘深雪後あさがほ（紋十郎）、乳母浅香（鹿造）、萩野祐仙（玉七）、岩城多喜太（玉七）、戎屋徳右工門（玉治）。
一八八七	明治20	7/24 7/30	名古屋 千歳座	朝★日記	浜松の段（住路＝森之助）。 宿屋の段（住）。 ※太夫 竹本住太夫。 ★（白のしたにハ）	
一八八八	明治21	7/26~	彦六座	増補生写朝顔話 大序より 大井川迄	大序 大内館のだん（十九、朝の、八重、田喜、越、新靱）、多々羅浜の段（笑、鹿）、宇治川のだん（組代改宝、かしく）、真葛ヶ原の段（生嶋）、岡崎のだん（中山登、切 若）、明石舟別れの段（芳＝*友松、此所出つかひにて御覧に入申候）、弓之助やしきの段（かしく、袖改 八重）、小瀬川の段（口 七五三、奥 氏）、摩耶ヶ嶽のだん（中山登＝*吉三郎、切 朝、新靱）、浜松小家の段（口 住次、奥 此、此所出つかひにて御覧に入申候）、嶋田宿やのだん（中 越広、次 七五三、切 柳適、此所惣出つかひにて御覧に入候）。	玉橋の局実（門造）、宮城阿曾次郎（辰五郎）、娘深雪（亀松）、乳母浅香（玉松）、萩野祐仙（兵吉）、岩城多喜太（玉米）、亭主徳右工門（才治）。
△ 一八八八	明治21	7/28	名古屋 千歳座	朝顔日記	浜松の段（越代＝広七）。 ※素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
一八八九	明治22	7	御霊文楽座	生写朝顔話 鉢数十品	大序 大内館のだん（品尾、越尾、呂广、津国、越戸）、多々羅ヶ浜のだん（旭、津和）、宇治川のだん（中 高尾、切 むら）、真葛ヶ原の段（織）、秋月弓之介閑居のだん（中文、切 谷）、明石舟別の段（さの）、小瀬川の段（口 巴勢、奥 路）、摩耶ヶ嶽のだん（中 緑、次 谷、切 長尾）、浜松のだん（口 さの、奥 綾）、嶋田のだん（中文、次 織、切 津）。 ※角書「秋月の手造／駒澤の嗣蔓」。 ※「七月一日ヨリ七月十四日マデ十四日間」（『義太夫年表 明治篇』）。	老女荒妙（玉造）、宮城阿曾次郎・駒沢次郎左工門（玉七）、むすめ深雪（紋十郎）、乳母浅香（玉七）、萩野祐仙（玉朝）、岩城多喜太（玉治）、戎屋徳右工門（玉造）。
△ 一八八九	明治22	8/6~7 8/8	京都 北側演劇場	朝顔日記	浜松の段（源枝）。 船別れ場（巴勢）。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
		8/18			宿屋の段（高尾）。 ※文楽座、越路一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八八九	明治22	12/24	名古屋 千歳座	朝顔日記 宿やの段（むら＝小庄）。 ※竹本越路太夫・豊沢広介一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九〇	明治23	4/22・26 4/25	名古屋 千歳座	朝顔日記 浜松の段（菅）。 宿屋（源）。 ※素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九一	明治24	1/7	名古屋 末広座	朝顔日記 笑葉の段（路＝花助）、宿屋より大井川迄（越路＝広助）。 ※竹本越路太夫・豊沢広助一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九一	明治24	1/25・29	京都 北座	増補朝顔日記 浜松（むら）。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八九一	明治24	8/4 8/7	京都 道場座	増補朝顔日記続 朝顔日記 宿屋（鶴尾）。 大井川の段（津尾＝吉之丞）。 ※竹本津太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八九一	明治24	8/19 8/25	京都 北座	朝顔日記続 増補朝顔日記続 船別れ（操）。 浜松（むら）。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八九二	明治25	1/24	京都 北座	増補朝顔日記続 宿や（調＝寛二郎）。 ※竹本越路太夫・豊沢広助一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八九二	明治25	7/22・26	名古屋 千歳座	朝顔日記 浜松より（鶴尾）。 ※文楽・彦六両座合併。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
	一八九二	明治25	7	御霊文楽座	生写朝顔話 続十冊 大序 大内のだん（津磨、富栄、叶、綾免、角、相寿、谷路）、多々羅浜の段（尾上）、宇治川のだん（中品尾、切むら）、真葛ヶ原の段（谷）、岡崎のだん（中高尾、切相生）、明石舟別れの段（路）、大磯揚屋のだん（口鶴尾、中文、切谷、路）、小瀬川のだん（口呂瀬、奥調）、摩耶ヶ嶽のだん（中久、次緑り、切呂）、浜松のだん（口文、奥長尾）、嶋田宿やのだん（中高尾、次綾、切越路）。 ※角書「秋月手造／駒澤嗣蔓」。 ※「七月一日ヨリ七月十二日マデ十二日間」（『義太夫年表 明治篇』）。	老女荒砂（玉造）、宮城阿曾次郎・駒沢治郎左工門（玉助）、娘深雪・朝顔（紋十郎）、乳母浅香（玉治）、萩野祐仙（玉造）、岩田多喜太（玉郎）、戎や徳右工門（玉治）。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一八九二	明治25	名古屋 笑福座	朝顔日記	宿屋（鶴尾）。	
		8/15			浜松（鶴尾）。	
		8/17			※相生太夫・久太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九二	明治25	名古屋 千歳座	朝顔日記	浜松小家場（芳＝鶴助）。 ※竹本朝太夫・豊竹新靱太夫一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九二	明治25	京都 北座	朝顔日記	船別れ（菅＝松次郎）。	
		8/20			宿屋（源＝寛三郎）。	
		8/24			※竹本越路太夫・豊沢広助・其他文楽一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八九三	明治26	京都 南座	朝顔日記	岩屋之段（越路＝広助）。	
		8/20			浜松（むら）。	
		8/22			※越路一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八九四	明治27	京都 南座	朝顔	浜松（鶴尾）。 ※越路一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八九四	明治27	京都 南座	朝顔日記	浜松（菅）。 ※彦六一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八九四	明治27	東京 新声館	朝顔日記 大序より 四段目まで	蛭狩の段（鹿＝喜三郎）、岡崎の段（識予＝喜三郎、識子＝才栄）、船別の段（和佐＝語六）、弓之助屋敷の段（播尾＝才太郎、三輪＝清九郎）、浜松小屋の段（鹿＝八百造、識＝新兵衛）、笑葉の段（新呂＝鶴助）、宿屋の段（津賀、織＝寛三郎）。 ※演芸資料選書・5『東京の人形浄瑠璃』に拠る。	（不明）
△	一八九四	明治27	名古屋 宝生座	朝顔日記	宿屋の段（高尾）。 ※綾太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九五	明治28	東京 新声館	朝顔日記	浜松の段（識予＝広三）。 ※第1回義太夫大演芸会。 ※演芸資料選書・5『東京の人形浄瑠璃』に拠る。	
△	一八九五	明治28	名古屋 千歳座	朝顔日記	宿屋の段（鶴尾＝花助）。	
		8/10			浜松（むら）。	
		8/14			※大坂文楽、豊竹呂太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
一八九五	明治28	9	御霊文楽座	朝 顔 話	浜松のどん(口 鶴尾、奥 さの)、嶋田宿屋のどん(中呂瀬、次 綾、切 越路)。 ※「九月廿九日ヨリ十一月七日マデ卅八日間」(『文楽興行書入手帖』『竹本撰津大掾』)、「卅七日間興行」(『古朝太夫床年譜』)、「九月廿三日ヨリ」(『文楽今昔譚』)。	駒沢次郎左工門(玉助)、むすめ深雪◆ (鼓の下に女)朝顔(紋十郎)、乳母浅香(玉造)、萩野祐仙(玉造)、岩代多喜太(金之助)、徳右衛門(玉治)。	
一八九五	明治28	12/14	浪 花 座	朝 顔 日 記	浜松(雛=力松)。 ※稻荷座総一座。素浄瑠璃。		
△	一八九六	明治29	名古屋 千 歳 座	朝 が ほ 日 記	浜松(菅=森助)。 宿屋(菅=森助)。 ※竹本越太夫・七五三太夫・新朝太夫・菅太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。		
△	一八九六	明治29	4/17	京都 坂 井 座	朝 顔 日 記	宿屋(小富)。 ※さの太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八九六	明治29	7/22 7/30 8/2	京都 南 座	朝 顔 日 記	浜松の段(品)。 宿屋(路)。 浜松(越江)。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八九六	明治29	8/9	名古屋 末 広 座	朝 顔 日 記	舟別れ(隅子=団友)。宿屋の段(春子=惣太郎)。 ※大隅太夫・団平一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九七	明治30	7/25 7/30 8/1	京都 南 座	朝 顔 日 記	舟別れ(越登=小左)。 浜松(鶴尾=竹三郎)。 宿屋(源=団六)。 ※越路一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八九七	明治30	10/31	京都 南 座	朝 顔 日 記	宿屋之段(高尾=大三郎)。 ※竹本さの太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八九八	明治31	5/13	名古屋 宝 生 座	朝 顔 日 記	宿屋(路)。 ※路太夫・山城太夫・鶴尾太夫・三味線 団六・大三郎・卯三郎一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
一八九八	明治31	6	御霊文楽座	生 写 朝 顔 話	浜松のどん(口 綾登、奥 文字)、嶋田宿戎屋のどん(中呂瀬、次 源、切 越路)。 ※「六月十九日ヨリ七月十五日マデ廿六日間」(『義太夫年表 明治篇』)。	駒沢次郎左工門(玉助)、娘深雪・朝がほ(紋十郎)、乳母浅香(金之助)、萩野祐仙(玉造)、岩代多喜太(金之助)、戎屋徳右工門(玉治)。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一八九八	明治31	8/11	京都 南座	朝顔日記 宿屋の段(高尾)。 ※素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八九八	明治31	8/17 8/23	名古屋 御園座	朝顔日記 朝貌日記 浜松(さ字=猿吉)。 宿屋(高尾=大三郎)。 ※大阪文楽座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』、『御園座七十年史』に拠る。	
△	一八九九	明治32	3/9 3/10	名古屋 末広座	朝顔日記 宿屋(角=稲太郎)。 浜松(弥雲)。 ※大阪稲荷座若手一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九九	明治32	4/23	名古屋 西栄座	朝顔日記 宿屋(角)。 ※大阪若手浄瑠璃。春子太夫・新左衛門一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九九	明治32	7/27 7/30 7/31	京都 南座	朝顔日記 増補朝顔日記 朝がほ 浜松小屋(むら=吉子)。 宿屋より川場迄(越路=吉兵衛)。 舟別れ(むら=吉子)。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八九九	明治32	12/22	京都 南座	朝がほ日記 浜松(むら=吉子)。 ※竹本越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
	一九〇〇	明治33	6/1~	明楽座	生写朝顔話 大序より 宿屋迄 大序 大内館のだん(佐、福、生栄、千歳、津子、此路、此子、小達)、多々羅ヶ浜のだん(津子、此路)、宇治川のだん(弥■(王偏に玉)、弥雲)、真葛ヶ原のだん(口 此路、切 隅次)、明石船別れのだん(阿曾次郎一録・みゆき一雛)、秋月弓之介閑居のだん(口 弥■(王偏に玉)、切 菊)、小瀬川のだん(口 小達、奥 鑊)、摩耶ヶ嶽のだん(中 隅尾、次 雛、切 此)、浜松のだん(口 弥雲、奥 伊達=*友松)、嶋田宿屋のだん(口 隅尾、中 生嶋、切 大隅)。	荒妙(門造)、宮城阿曾次郎・駒沢次郎左工門(栄三)、娘深雪・あさがほ(玉五郎)、乳母浅香(玉松)、茶道萩野祐仙(清十郎)、岩代滝田(玉松)、戎屋徳右工門(門造)。
△	一九〇〇	明治33	7/23 7/28	京都 南座	朝顔日記 朝がほ 浜松の段(葉)。 宿屋(文字)。 ※文楽座、越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇〇	明治33	8/5 8/8 8/13	名古屋 末広座	朝顔日記 浜松(葉)。 宿屋(南部)。 浜松(むら)。 ※大阪文楽座、竹本文字太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇〇	明治33	12/5	名古屋	朝顔日記 浜松(生栄=新三)。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九〇一	明治34	末広座		宿屋（春子＝新左衛門）。	
					船別れ（子友＝叶吉）。 ※明楽座一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇一	明治34	名古屋千歳座	朝顔日記	舟別（千歳）。	
					浜松（此路）。	
					宿屋の段（鏝）。	
					明石浦（千歳）。	
					（此）。 ※伊達太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇一	明治34	名古屋歌舞伎座	朝顔日記	宿屋（文字＝吉弥）。	
					舟別れの段（越喜）。	
					宿屋の段（南部）。	
					浜松（越喜）。 ※越路太夫・文字太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇一	明治34	京都南座	朝顔日記	宿屋（文字）。	
					浜松（むら）。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇一	明治34	京都幾代亭	朝顔	船別れ（組代）。	
				朝顔日記	浜松（弥雲）。 ※組太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇一	明治34	名古屋末広座	朝顔日記	浜松宿屋の段（春子＝猿治郎）。	
					宿屋（子友）。 ※大坂明楽座、竹本大隅太夫・鶴沢叶一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	

「生写朝顔話」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九〇一	明治34	9	御霊文楽座	生写朝顔話 つゞき拾鉢	大序 大内義興館のだん（むら尾、須磨、駒勢、津国、宇久、常盤、小常、津ばさ、越喜、津矢、谷登）、多々羅ヶ浜辺のだん（谷代、越可、谷栄、豊）、宇治川蛍狩のだん（口 津直、切 源）、真葛ヶ原のだん（文）、秋月弓之助閑居のだん（中 山城、切 文字）、明石ヶ浦舟別れのだん（南部）、大磯揚屋のだん（中 源子、切 染）、小瀬川のだん（口 登勢、奥 むら＝*三二）、摩耶ヶ嶽のだん（中 殿母＝*吉松、次 文＝*鶴太郎、切 呂）、浜松のだん（口 越登、奥 文字）、嶋田宿戎屋のだん（中 司、次 染、切 越路）。 ※角書「秋月手造り／駒澤鉢植へ」。 ※語り「宇治川の蛍狩に馴染し立遠したる貞女の鑑／主君を誅し忠臣の功を助たる傾城が誠の節義」。 ※「九月十三日ヨリ十月十四日マデ卅二日間」（『義太夫年表 明治篇』）。	老女荒妙（玉造）、宮城阿曾次郎・駒沢次郎左工門（玉助）、娘深雪・盲女朝顔（紋十郎）、乳母浅香（玉助）、萩野祐仙（玉造）、岩城多喜太（多為蔵）、戎屋徳右工門（玉治）。
△	一九〇一	明治34	12/7	名古屋 末 広 座	朝 顔 日 記	宿屋の段（緑＝猿之助）。 ※住太夫・朝太夫ほか。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。
△	一九〇二	明治35	2/21	名古屋 御 園 座	朝 顔 日 記	宿屋（南部＝寛次郎）。 ※大阪文楽座 文字太夫・吉弥一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。
△	一九〇二	明治35	5/31 6/1	京都 岩 神 座	朝 顔	浜松（葉＝春次郎）。 船別れ（小常＝団次郎）。 ※文字太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。
△	一九〇二	明治35	8/5	京都 南 座	（生写朝顔話）	宿屋（南部）。 ※素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。
△	一九〇二	明治35	8/23 8/24	京都 歌 舞 伎 座	朝 顔 朝 顔 日 記	宿屋（加賀）。 宿屋（角）。 ※大隅太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。
△	一九〇二	明治35	8	東京 明 治 座	（朝顔話）	※義太夫常磐津合同興行。8月3日よりの公演の二の替り。 ※『義太夫年表 明治篇』欄外記事に拠る。
△	一九〇二	明治35	9/5 9/6	京都 岩 神 座	朝 顔 日 記	宿屋（角）。 浜松（生勢）。 ※大隅太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。
	一九〇二	明治35	12/7～	兵庫 朝 日 座	朝 ★ 日 記	浜松のだん（南勢）。 ★（白のしたにハ）

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九〇二	明治35	12/21	名古屋 千歳座	朝顔 浜松(此路)。 ※「大坂文楽明楽合併大浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇三	明治36	3/13	名古屋 歌舞伎座	朝顔日記 宿屋の段(美喜=金五)。 ※大坂文楽座竹本越路太夫改め竹本春太夫門人若手一座の浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇三	明治36	8/11	名古屋 御園座	朝顔日記 宿屋の段(南部=寛次郎)。 ※竹本越路太夫一座。素浄瑠璃。竹本文字太夫改三代目竹本越路太夫改名披露。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇三	明治36	9/2	京都 南座	(生写朝顔話) 宿屋(南部=寛次郎)。 ※文字太夫改め越路太夫・むら太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇三	明治36	9/14	京都 千本座	朝顔 浜松(常子)。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』備考欄に拠る。	
△	一九〇四	明治37	7/17	名古屋 御園座	朝顔 宿屋(南部)。 ※越路太夫・文太夫・南都太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇四	明治37	7/31	京都 歌舞伎座	朝顔 浜松(常子=吉助)。	
			8/5		宿屋(南部=寛次郎)。	
			8/6		(生写朝顔話) 明石浦(南勢=常造)。	
			8/9		朝顔 浜松(むら=吉松)。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇四	明治37	8/14	京都 千本座	朝顔日記 浜松(常子)。	
			8/16		(生写朝顔話) 浜松(むら)。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇四	明治37	9/6~	松島八千代座	朝顔日記 宿屋(南部=寛次郎)。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	一九〇四	明治37	9/17	名古屋 歌舞伎座	朝顔日記 浜松の段(千歳)。 ※竹本大隅太夫・伊達太夫・長子太夫・鋳太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九〇四	明治37	9	御霊文楽座	生写朝顔話 つゞき十株	大序 大内多々羅之介館のだん（隅和、津田、広見、文字子、いさ、静、須磨、字久、広、南勢）、多々羅ヶ浜のだん（千代、津磨、常子、谷登、越可、登勢）、宇治川蛸狩りのだん（中津直、切むら）、磨葛ヶ原の段（津ばめ＝＊鶴太郎／＊綱造）、秋月弓之介閑居のだん（中録＝＊竹三郎、切七五三）、明石浦舟別れのだん（文）、小瀬川のだん（口さ路、奥叶）、摩耶ヶ嶽のだん（中富、次時、切越路）、浜松のだん（口司、切染）、嶋田駅戎屋のだん（中源子、次南部、切津＝猿糸）。 ※角書「秋月手造り／駒沢鉢植」。 ※語り「宇治川の蛸狩りに馴染し立遠した貞女の鑑／主君を誅し忠臣の功を助たる傾城が誠の節義」。 ※「九月廿五日ヨリ十月廿一日マデ廿七日間」（『義太夫年表 明治篇』）。	老女荒妙（多ゑ蔵）、宮城阿曾次郎・駒沢次郎左エ門（玉助）、娘深雪・警女朝顔（紋十郎）、乳母浅香（玉助）、萩野祐仙（多ゑ蔵）、岩城多喜太（助太郎）、戎屋徳右衛門（玉五郎）。
△	一九〇四	明治37	12/16 12/17 12/21	東京 歌舞伎座	朝顔日記	浜松（越喜＝勝太郎）。 宿屋（南部＝寛治郎）。 船別れ（常子＝団次郎）。 ※大阪文楽義太夫一座。素浄瑠璃。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。
△	一九〇五	明治38	1/22	京都 朝日座	朝顔	宿屋（角＝太郎）。 ※伊達太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。
△	一九〇五	明治38	2/18 2/25 2/26	名古屋 新守座	朝顔日記	浜松の段（常子）。 宿屋の段（時）。 宿屋の段（越路）。 ※竹本住太夫・竹本越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。
△	一九〇五	明治38	7/10 7/14	名古屋 新守座	朝顔日記	船別（津路）。 宿屋（津葉女）。 ※竹本文太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。
△	一九〇五	明治38	7/20	東京 歌舞伎座	（生写朝顔話）	浜松（米＝広市）。 ※竹本大隅太夫一座。素浄瑠璃。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。
△	一九〇五	明治38	8/14 8/17	京都 南座	（生写朝顔話）	浜松（広見）。 浜松（津磨）。 ※大阪文楽座青年連、南部太夫・猿糸一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。
△	一九〇五	明治38	8/24	京都	朝顔日記	浜松（津摩）。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
		8/27	千本座	(生写朝顔話)	明石浦(広見)。 ※南部太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。		
△	一九〇五	明治38	名古屋 千歳座	朝顔日記	浜松の段(津磨)。		
					浜松の段(広見)。		
					(栄)。		
					朝顔	宿や(源子)。 ※「大阪両座撰抜若手揃浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇五	明治38	京都 明治座	朝顔日記	浜松(宇久)。		
					宿屋(南部)。 ※摂津大掾・大隅太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。		
△	一九〇六	明治39	京都 南座	朝顔日記	浜松(常子)。		
					朝顔	宿屋(時)。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
	一九〇六	明治39	堀江座	生写朝顔話 大序より 大井川まで	大序 大内館のだん(君子、初子、敷嶋、伊達の、吉野)、多々羅ヶ浜のだん(敷嶋、靱木、此尾)、宇治川のだん(中 弥常、切 一)、真葛ヶ原のだん(君)、秋月弓之介閑居のだん(中 米、切 新靱)、明石舟別れのだん(鏝)、小瀬川のだん(三笠)、摩耶ヶ嶽のだん(中 組代、次 司、切 長子=小団二)、浜松小家のだん(口 組栄、奥 雛=竹三郎)、嶋田宿屋のだん(中 米、次 鏝=猿治郎、切 春子=新左衛門、此所人形出遣いにて御覧に入候)。 ※「竹三郎病氣ノタメ興行途中ヨリ休座」(『義太夫年表 明治篇』)。 ※三味線役割は『浄瑠璃雑誌』第50号に拠る。	老女荒妙(玉治)、宮城阿曾次郎・駒沢次郎左工門(簗助)、娘深雪・朝がほ(玉松)、乳母浅香(簗助)、萩野祐仙(玉治)、岩代多喜太(紋三)、戒屋徳右工門(兵吉)。	
△	一九〇六	明治39	京都 歌舞伎座	(生写朝顔話)	浜松小屋(静)。		
					宿屋(叶)。		
					朝顔	船別れ(南路)。	
					(生写朝顔話)	宿屋(南部)。 ※大隅太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇六	明治39	名古屋 末広座	朝顔日記	明石の浦(文字子)。		
					(生写朝顔話)	浜松(むら)。	
					朝顔日記	宿屋(時)。 ※大阪文楽座、竹本越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇六	明治39	京都	(生写朝顔話)	宿屋(津磨)。		

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
		8/12	千本座		宿屋（広見）。 ※南部太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。		
△	一九〇六	明治39	名古屋 歌舞伎座	朝顔日記	浜松（敷島）。		
		8/11 8/12			宿屋（春子）。 ※竹本津ばめ太夫ほか。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。		
△	一九〇六	明治39	名古屋 末広座	(生写朝顔話)	宿や（朝登）。		
		12/5 12/6		朝顔	(祖賀)。		
		12/7		(生写朝顔話)	宿屋（菅＝友三郎）。 ※朝太夫・松太郎一座、住太夫・龍助一座による「合併大浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。		
△	一九〇七	明治40	京都 南座	(生写朝顔話)	宿屋（叶＝吉松）。 ※摂津大掾一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。		
△	一九〇七	明治40	京都 南座	生写朝顔話	大序より四段目迄（沢、南勢、さの、叶）。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	朝顔（紋十郎）。	
△	一九〇七	明治40	名古屋 御園座	朝顔日記	宿屋の段（南部＝重次郎）。 ※大阪文楽座、竹本越路太夫・ゝ太夫・南部太夫・時太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』、『御園座七十年史』に拠る。		
△	一九〇七	明治40	名古屋 末広座	朝顔日記	浜松（染代）。		
		12/15 12/17			朝顔	(里)。	
		12/20			朝顔	宿屋（綴）。 ※「大阪文楽／堀江両座合併大浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇八	明治41	名古屋 末広座	朝顔日記	浜松小家の段（組栄＝仙市）。 ※「大坂堀江座大浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。		
△	一九〇八	明治41	名古屋 御園座	朝顔日記	宿屋の段（南部＝寛次郎）。		
		7/11 7/13			朝顔	浜松（越見＝勝平）。 ※大阪文楽一座。素浄瑠璃。竹本摂津大掾名古屋一世一代。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇八	明治41	京都 南座	朝顔	船離れ（柴＝兵造）。		
		9/6 9/12			朝顔	宿屋（南部＝寛次郎）。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇八	明治41	京都	朝顔	船別れ（文次）。		

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
		9/18	岩神座		浜松（文治）。 ※文太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
一九〇八	明治41	9/17～	御霊文楽座	生写朝顔話 続八鉢	大序 大内多々羅之助館のだん（桐、文次、福、時勢、時尾、南芳、稲葉、富子、喜）、多々羅ヶ浜のだん（広、南勢、染代、谷登、越可）、宇治川のだん（中 常子、切むら）、真葛ヶ原の段（津ばめ）、秋月弓之助閑居のだん（中 谷、切 文）、明石舟別れの段（南部）、小瀬川のだん（口 津磨、奥 津ばめ）、摩耶ヶ嶽のだん（中 其、次 文、切 染）、浜松の段（富、津＝猿糸）、嶋田駅宿屋のだん（中 さの、次 七五三、切 撰津大掾）。 ※角書「秋月手造／駒沢嗣蔓」。 ※「九月十七日ヨリ十月十九日マデ卅二日間」（『文楽興行書入手帖』）、「卅三日間」（『古鞠太夫床年譜』）。	老女荒砂（玉五郎）、宮城阿曾次郎・駒沢次郎左工門（助太郎）、娘深雪・朝がほ（紋十郎）、乳母浅香（栄三）、萩野祐仙（玉治）、岩代多喜太（玉治郎）、戎屋徳右工門（門造）。
△	一九〇八	明治41	東京 歌舞伎座	（生写朝顔話）	宿屋（南部＝寛治郎）。 浜松（越見＝広太郎）。 ※竹本撰津大掾一座。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	
△	一九〇八	明治41	名古屋 御園座	朝 顔	宿屋（柴＝勝若）。 ※「大阪文楽・堀江合併大浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』、『御園座七十年史』に拠る。	
△	一九〇九	明治42	京都 南 座	朝 ★	船別れ（南芳）。 ★（白のしたにハ）	
		2/16		朝 ★ 日記	浜松（南芳）。 ★（白のしたにハ）	
		2/20		朝 顔	宿屋（鏝）。	
		2/21		朝 顔 日記	浜松（和）。 ※文楽一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
一九〇九	明治42	6/1~	堀江座	生写朝顔話 大序より 大井川まで	大序 大内館のだん（小司、春次、春日、司喜、早稲、児島、島路、一三五、雛子、若葉、小藤、菅子、美島、小苗、小幾、春代、新菅、初音、隅栄）、多々羅ヶ浜のだん（隅栄、隅登、筑）、宇治川のだん（中 隅の、奥 三笠）、真葛ヶ原のだん（組栄）、秋月弓之助閑居のだん（中 薫、切 菅）、明石船別れのだん（静=* 助三郎）、小瀬川のだん（口 栄、奥 里）、摩耶ヶ嶽のだん（中 小国、次 三笠、切 長子）、浜松小家のだん（口 敷嶋=* 竜市、奥 雛）、嶋田宿屋より大井川まで（中 里、次 角=* 仙之助、切 伊達=吉三郎、此所人形出遣いにて御覧に入申候）。	老母荒妙（兵三）、宮城阿曾次郎実は駒沢次郎左工門（政亀）、娘みゆき・非人朝がほ（玉造）、乳人浅香（文五郎）、萩の祐仙（小兵吉）、岩城多喜太（光ル）、戎屋徳右工門（兵吉）。	
△	一九〇九	明治42	7/23	名古屋千歳座	朝顔日記	浜松（小苗）。 ※竹本伊達太夫一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇九	明治42	8/17	名古屋御園座	朝顔日記	（南部）。 ※大阪文楽座、越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇九	明治42	9/2	京都南座	（生写朝顔話）	宿屋（南部）。 ※大阪文楽一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇九	明治42	9/15	京都国華座	（生写朝顔話）	宿屋（二葉=金之助）。 ※東阪合同浄瑠璃会。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇九	明治42	12/7	角座	朝顔	宿屋（角）。 ※堀江座連による「浄瑠璃会」。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	一九一〇	明治43	2/17	京都	朝顔	宿屋（南部=猿平）。	
		2/20	明治座	（生写朝顔話）	船別れ（南登）。 ※大阪文楽一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。		
	一九一〇	明治43	5/14	東京牛込亭	朝顔日記	宿屋の段（都=団八）。	
	一九一〇	明治43	6/17~	御霊文楽座	生写朝顔話	嶋田宿屋のだん（口 津留、葉、中 源、切 南部）。 ※「六月十七日ヨリ七月十二日マデ廿五日間」（『文楽興行書入手帖』）、「廿六日間」（『古鞆太夫床年譜』）。	駒沢次郎左工門（三左衛門）、朝がほ（栄三）、乳母浅香（三吾）、萩野祐仙（玉七）、岩代多喜太（紋三）、戎屋徳右工門（玉五郎）。
△	一九一〇	明治43	7/4	名古屋	朝顔	船別（小国=龍市）。	
		7/7	末広座	朝顔日記	宿屋（鏝=仙之助）。 ※大隅太夫・団平一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。		

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九一〇	明治43	7/16	名古屋 御園座	朝顔日記 宿屋(南部=猿糸)。 ※大阪文楽座附竹本越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一〇	明治43	8/2	京都 南座	(生写朝顔話) 浜松小屋(文次=勝若)。	
		8/4	朝顔 舟別れ(文次=勝若)。			
		8/7	宿屋(源=勝太郎)。 ※文楽一座、越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。			
△	一九一〇	明治43	8/16	京都 国華座	朝顔 宿屋(葉=兵三)。 ※越路太夫・津太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一〇	明治43	8/18	京都 歌舞伎座	朝顔 船別(鶴尾)。	
		8/22	船別(明石)。 ※南部太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。			
△	一九一〇	明治43	9/1	京都 岩神座	朝顔 (南芳)。 ※南部太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一〇	明治43	10/20	京都 明治座	朝顔 舟別(路久)。	
		10/21	浜松(富子)。 ※大阪文楽一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。			
△	一九一〇	明治43	12/14	名古屋 御園座	朝顔日記 舟別れ(路久)。	
		12/17	宿屋(静=春次郎)。 ※大阪文楽座、越路太夫・七五三太夫・古鞠太夫一座。 素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。			
△	一九一一	明治44	3/25	名古屋 御園座	朝顔 宿屋(南部=猿糸)。 ※竹本南部太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一一	明治44	7/7	京都 歌舞伎座	(生写朝顔話) 宿屋(南部=猿糸・琴猿三)。	
		7/11	船別れ(南次=吉右)。 ※文楽一座、越路一行。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。			
△	一九一一	明治44	8/1	浪花座	朝顔 宿屋(南部)。	
		8/15	宿屋(源)。 ※文楽座連中による「浄瑠璃大会」。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。			
△	一九一一	明治44	9/1	京都 南座	朝顔 宿屋(南部=猿糸)。 ※文楽一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一一	明治44	10/9	名古屋	朝顔 宿屋(初音=新吾)。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九一三	10/10	末広座		浜松（蒼＝新之助）。	
		10/12			宿屋（蒼＝新之助）。 ※「大阪堀江座大浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一三	明治44	名古屋御園座	朝顔日記	宿屋（南部）。 ※越路太夫・南部太夫一行。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一三	明治45	京都開盛座	（生写朝顔話）	宿屋（鳴戸）。 ※近松座若手連中。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一三	明治45	浪花座	朝顔日記	舟別（源路＝友平）。	
				朝顔	宿屋（叶＝寛次郎）。 ※文楽座連中による「浄瑠璃大会」。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	一九一三	明治45	御霊文楽座	生写朝顔話	嶋田駅戎屋のだん（中鶴／常子、次源＝*勝市、切南部）。 ※「六月廿三日ヨリ七月七日マデ」（『文楽興行書入手帖』）、「十六日間」（『古鞆太夫床年譜』）。 ※「切」の三味線は鶴沢友治郎（『演芸倶楽部』（大正1年8月）に拠る）。	駒沢次郎左エ門（玉七）、朝がほ（栄三）、萩野祐仙（文三）、岩代多喜太（紋三）、戎屋徳右衛門（玉五郎）。
△	一九一三	大正1	京都明治座	（生写朝顔話）	宿屋。	駒沢（琴糸）、朝顔（栄三）、岩城（清枝）、徳右衛門（紋三）。
					浜松小家。 ※女義太夫呂昇一座に文楽座の人形出遣い。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	（不明）
△	一九一三	大正2	名古屋末広座	朝顔	船別れ（香川＝小団）。	
					小屋（香川＝小団）。 ※大隅太夫・団平、伊達太夫・徳太郎、錦太夫・仙市、ほか。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一三	大正2	東京有楽座	（朝顔話）	※近松座。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	（不明）
△	一九一三	大正2	京都京都座	（生写朝顔話）	宿屋（南部）。 ※大阪文楽座連、越路太夫・吉兵衛。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一三	大正2	京都明治座	朝顔	宿屋（南部）。 ※文楽一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一三	大正2	東京新富座	（生写朝顔話）	舟別（源路）。宿屋（源＝勝市）。	
					宿屋（南部＝寛治郎・琴吉雄）。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
△	一九一三	大正2	東京	（生写朝顔話）	浜松（島＝小団）。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
△		12/12	明治座		宿屋（静＝源吉）。 ※錦太夫・団平・静太夫・源吉一座。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。		
△	一九一三	大正2	12/17	名古屋御園座	朝顔	宿屋（南部）。 ※竹本越路太夫・野沢吉兵衛一行。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
	一九一四	大正3	6/18～	御霊文楽座	生写朝顔話 大序より 大井川の段迄	大序 大内多々羅之助館のだん（南海、めばゑ、南次、小町、三滝）、多々羅ヶ浜のだん（越穂、和、文字子、喜、九重、小富、源路）、宇治川のだん（中英／光、切呂）、真葛ヶ原のだん（常子）、秋月弓之助閑居のだん（中 淀／谷、切 時）、明石舟別レのだん（駒＝＊三二）、摩耶ヶ嶽のだん（中 鶴／越見、次 源＝＊勝市、切 津＝＊綱造）、浜松のだん（口 鶴尾＝＊広太郎、奥古鞠＝＊清六）、嶋田駅宿屋のだん（中 越喜＝＊兵内、次 叶＝＊寛治郎、切 越路＝吉兵衛・琴 ＊吉雄）。 ※「十七日間、七月五日打上」（『義太夫年表 大正篇』）。	老女荒妙（駒十郎）、宮城阿曾次郎・駒沢次郎左衛門（文三）、娘深雪・盲女朝がほ（栄三）、乳母浅香（多為蔵）、萩野祐仙（多為蔵）、岩城多喜太（玉治郎）、戒屋徳右衛門（駒十郎）。
△	一九一四	大正3	7/10	京都南座	（生写朝顔話）	宿屋（南部）。 ※大阪文楽一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一四	大正3	7/18	名古屋御園座	朝顔	宿屋（南部＝広作）。	駒沢治郎左衛門（門三）、朝顔（栄三）、岩城多喜太（政亀）、徳右衛門（駒十郎）。
		7/20	朝顔日記		明石（越代）。 ※竹本越路太夫一座。20日分は素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。		
△	一九一四	大正3	8/17	名古屋末広座	（生写朝顔話）	浜松小家（初）。 ※竹本錦太夫・豊沢団平一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一四	大正3	12/12	名古屋御園座	朝顔	宿屋（南部＝寛太郎・ツレ 吉雄）。	
		12/13	（生写朝顔話）		舟別（文字子）。 ※大阪文楽座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。		
	一九一五	大正4	6/1～	御霊文楽座	生写朝顔話	島田駅宿屋のだん（中 越代、次 鏝＝＊一弥、切 南部＝＊寛治郎・琴 ＊小綱）、道行のだん（越見・英・源路・和・南治）。 ※「二十五日間（大入六回）」（『義太夫年表 大正篇』）。	駒沢治郎左衛門（玉蔵）、朝がほ（文五郎）、萩野祐仙（文三）、岩代多喜太（栄三）、戒屋徳右衛門（駒十郎）。
△	一九一五	大正4	7/4	京都	（生写朝顔話）	宿屋（南部＝寛次郎）。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
		7/6	南座		舟別(源路)。 ※大阪文楽座、越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一五	大正4	浪花座	朝顔	宿屋(南部=寛治郎)。 ※浄瑠璃大会。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
△	一九一五	大正4	名古屋御園座	朝顔	宿屋(南部=寛次郎)。 ※越路太夫一行。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一五	大正4	名古屋御園座	(生写朝顔話)	浜松(越見)。 ※大阪御霊文楽座、竹本越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一五	大正4	名古屋末広座	(生写朝顔話)	宿屋(鏝)。 ※竹本伊達太夫一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一五	大正4	東京新富座	(生写朝顔話)	宿屋(南部=寛治郎)。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
△	一九一六	大正5	名古屋末広座	(生写朝顔話)	宿屋(明石)。 浜松小家(春美)。 ※竹本春子太夫・鶴沢寛六等外十数名の大一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
	一九一六	大正5	御霊文楽座	生写朝顔話 大序より 大井川の段迄	大序 大内多々羅之助館のどん(い、南海、めばゑ、南治、三滝)、多々羅ヶ浜のどん(越穂、喜、谷登、小富)、宇治川のどん(鶴、鶴尾、綱尾、谷)、真葛ヶ原のどん(八十)、秋月弓之助閑居のどん(中 越見、切時=*勇造)、明石舟別れのどん(鏝=*才治)、浜松のどん(口 越代=*広太郎、奥 叶=*叶)、島田駅宿やのどん(中 綾登、次 駒=*三二、切 伊達=吉三郎・琴 *友若)。 ※豊竹時太夫休演の日あり、竹本八十太夫が代演(『義太夫年表 大正篇』)。 ※「二十日間、六月二十日打上、二十一、二日もらい」(『義太夫年表 大正篇』)。	駒沢治郎左エ門(多為蔵)、娘深雪・朝がほ(栄三)、乳人浅香(文五郎)、萩野祐仙(玉蔵)、岩代多喜太(駒十郎)、戎屋徳右エ門(文三)。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九一六	大正5	6/1~	近松座	生写朝顔日記 宇治川より 大井川まで	宇治川のだん（弥の、鷹、小島、松重＝毎日替り 勝童／丸子、三郎、団蔵、竹広、竹造、八造、団伊三、大昇、竹弥、力作、才助、源吾）、明石舟別のだん（深雪一里・阿曾次郎一米＝助三郎・琴吉子）、小瀬川のだん（栄＝毎日替り 龍太郎／勝童）、摩耶ヶ嶽のだん（雛子＝新之助、組栄＝仙市、菅＝力松・胡弓 新之助）、浜松小家のだん（春次＝団市、雛＝新造）、島田駅宿屋より大井川まで（春日＝毎日替り 吉子／力造、米＝吉郎、角＝竹三郎・胡弓 小団）。 ※浄瑠璃身振演劇双調会（番付紋下欄）。	
△	一九一六	大正5	京都南座	朝顔日記	舟別（清登）。 宿屋（伊達＝吉三郎）。 ※竹本越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一六	大正5	浪花座	(生写朝顔話)	宿屋（朝＝松太郎）。 浜松（弥国）。 ※近松座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』、『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
△	一九一六	大正5	京都明治座	朝顔 朝顔日記	宿屋（錦）。 浜松小屋（弥国）。 ※竹本朝太夫一行。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一六	大正5	名古屋末広座	(生写朝顔話) 朝顔	浜松小屋（弥国＝新之助）。 宿屋（角＝新造）。 船別れ（朝見＝芳太郎）。 ※東京 竹本朝太夫・豊沢松太郎一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一六	大正5	東京歌舞伎座	(生写朝顔話) 朝顔	宿屋（南部＝寛治郎）。 船別れ（常子＝小綱）。 ※文楽座、竹本越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	
△	一九一七	大正6	堀江座	朝顔	宿屋（菅）。 ※豊沢新之助改新三郎名披露会。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	一九一七	大正6	名古屋末広座	(生写朝顔話)	浜松小屋（明石＝新吉）。 ※豊竹古鞆太夫・鶴沢清六一行。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九一七	大正6	6/17~	京都 竹豊座	生写朝顔話 大序より 大井川の段迄	大序 大内館のだん(角勢、時の、筆子、亀、田見、由、鳴尾、角栄、時次)、多々羅ヶ浜のだん(時次)、宇治川のだん(中 伊達見、切 操)、真葛ヶ原のだん(春雄)、秋月弓之助閑居のだん(中 南登、切 敷嶋)、明石船別れのだん(春次)、小瀬川のだん(口 角勢、奥 春登)、摩耶ヶ嶽のだん(中 古金、切 薫=*団二郎//筆=*兵三)、浜松小家のだん(口 伊達見=*宗三郎、奥 角=*弥七)、嶋田宿戎屋のだん(中 春次=*喜代造、次 三笠=*門造、切 春子=*新左衛門・琴 *広蔵)。 ※竹本筆太夫休演の日あり、豊竹古金太夫が代演(『義太夫年表 大正篇』)。	老女荒妙(光ル)、宮城阿曾次郎実ハ駒沢次郎左工門(紋太郎)、娘深雪・非人朝顔(小兵吉)、乳母浅香(辰五郎)、萩野祐仙(辰五郎)、岩城多喜多(辰十郎)、戎屋徳右工門(兵三)。
△	一九一七	大正6	名古屋 末広座	朝 顔	(春美)。 宿屋(角=兵吉・琴 新三郎)。 浜松小屋(松重=庄造)。 ※近松座、竹本錦太夫・竹本角太夫一行。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一七	大正6	京都 南座	朝 顔 日 記	宿屋(伊達=吉三郎)。 ※竹本越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一七	大正6	名古屋 蓬座	(生写朝顔話)	浜松小屋(春美=小兵)。 ※竹本錦太夫・竹本角太夫・三味線 竹沢団六・豊沢兵吉。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一七	大正6	東京 有楽座	(生写朝顔話)	浜松(雛)、宿屋(角)。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	(不明)
△	一九一七	大正6	東京 歌舞伎座	(生写朝顔話)	船別れ(源路=吉右)。 宿屋(伊達=吉三郎・ツレ 吉雄)。 ※大阪文楽座浄瑠璃一座。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	
△	一九一七	大正6	名古屋 御園座	朝 顔 日 記	(時)。 ※竹本越路太夫一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	(不明)
	一九一八	大正7	御霊文楽座	生写朝顔話	島田駅宿屋のだん(中 鶴尾、次 源=*勝市、切 伊達=*吉三郎)。 ※竹本源太夫休演の日あり、竹本八十太夫が代演(『義太夫年表 大正篇』)。 ※「二十一日間、六月十六日打上」(『義太夫年表 大正篇』)。	駒澤次郎左工門(栄三)、朝がほ(文五郎)、萩野祐仙(文三)、岩城多喜太(玉治郎)、戎屋徳右衛門(玉五郎)。
△	一九一八	大正7	京都 竹豊座	朝 顔 日 記	※新聞の予告による。或いは予告のみか。番付見当らず 興行中も広告や記事なし。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九一八	大正7	名古屋 御園座	朝顔	(津花)。	
				朝顔日記	浜松(津花)。	
				朝顔	宿屋(伊達)。 ※竹本越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一八	大正7	京都 南座	朝顔日記	浜松(津花)。 宿屋(叶)。 ※大阪文楽座引越、越路一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一八	大正7	中座	朝顔	宿屋(源=勝市)。 ※文楽座、越路太夫一座による「浄瑠璃大会」。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	一九一八	大正7	北劇場	朝顔	宿屋(角)。 ※文楽座太夫連による「涼み浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	一九一八	大正7	東京 歌舞伎座	(生写朝顔話)	船別れ(津花)。 宿屋(伊達=吉三郎)。 ※大阪文楽座、竹本越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	
	一九一九	大正8	京都 竹豊座	生写朝顔話 大序より 大井川の段まで	大序 大内館のどん(時子、喜志、千賀、多見、富久、鳴尾、時の、亀、久米)、多々羅ヶ浜のどん(角栄、千嶋)、宇治川のどん(千嶋、円)、真葛ヶ原のどん(南登)、秋月弓之助閑居のどん(古金、操)、明石舟別レのどん(明石=*兵之助・琴 *弥太郎)、浜松小家のどん(松重、組栄)、笑ひ薬のどん(松重、三好=*喜市)、嶋田駅宿屋のどん(角=*弥七)。	老母荒妙(光造)、駒沢治郎左工門(扇太郎)、非人朝かほ(小兵吉)、乳人浅香(辰五郎)、萩の祐仙(小兵吉)、岩城多喜太(新三郎)、戎屋徳右工門(辰五郎)。
△	一九一九	大正8	名古屋 御園座	朝顔	宿屋の段(鑊=徳太郎)。 ※『御園座七十年史』、『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	(不明)
△	一九一九	大正8	京都 南座	朝顔	宿屋(南部=寛治郎)。 ※大阪文楽座引越、竹本越路太夫。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一九	大正8	東京 有楽座	(生写朝顔話)	舟別れ~大井川。笑葉(静=歌助)、宿屋(鑊=徳太郎)、他未詳。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	朝顔(小兵吉)、祐仙(文五郎)、亭主(辰五郎)。
△	一九一九	大正8	浪花座	(生写朝顔話)	浜松(越登)。 ※素浄瑠璃。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
△	一九一九	大正8	名古屋 末広座	(生写朝顔話)	浜松小家(越雲)。 ※竹本伊達太夫一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
一九一九	大正8	9/26~	御霊文楽座	生写朝顔話 大序より 大井川のだん迄	大序 大内多々羅之助館のだん（伊達香、多満、播路、弥須、陸路、南枝、富栄、越登、辰、越名、源福、つばめ、要）、宇治川のだん（中 一日替り 小富／源路、切菅）、秋月弓之助閑居のだん（中 八十、切 弥=* 吉弥）、明石船別れのだん（駒=* 吉五郎）、浜松のだん（口 一日替り 英／越代、奥 古朝=* 清六）、嶋田駅宿屋のだん（中 町、次 源=* 勝市、切 南部=* 寛治郎）。 ※「二十八日間、十月二十二日打上」（『義太夫年表 大正篇』）。 ※「本興行より時間改正、開場正午、閉場九時、漸時場数短縮」（『義太夫年表 大正篇』）。	宮城阿曾次郎後に駒沢次郎左衛門（玉蔵）、娘深雪・朝がほ（文五郎）、乳母浅香（栄三）、萩野祐仙（玉治郎）、岩代多喜太（文三）、戎屋徳右エ門（紋三）。	
△	一九一九	大正8	東京 歌舞伎座	(生写朝顔話)	浜松小屋（津花=友二）。		
					浜松小屋（源路=寛市）。		
					宿屋（南部=寛治郎）。		
					朝 顔 船別れ（津花=友二）。 ※大阪文楽座浄瑠璃大一座。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。		
△	一九一九	大正8	名古屋 御園座	朝 顔 日 記	（津花）。		
					（南部=寛次郎）。 ※竹本越路太夫一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。		
	一九二〇	大正9	5/28~	京都 竹豊座	生写朝顔話 大序より 大井川の段まで	大序 多々羅ヶ浜のだん（角登、時子、登久、多見、時の、かづさ、鳴尾、桑）、宇治川のだん（桑、松重）、明石舟別れのだん（春次）、葉売のだん（一日替り 嶋菊／円）、浜松小家のだん（越）、笑ひ葉のだん（一日替り 南登／明石、敷嶋）、嶋田駅宿屋のだん（錦=* 八助）。	老母荒妙（三郎）、駒沢次郎左衛門（玉松）、非人朝がほ（小兵吉）、乳母浅香（扇太郎）、萩野祐仙（兵十郎）、岩城多喜太（冠造）、戎屋徳右衛門（三郎）。
△	一九二〇	大正9	7/6	中 座	朝 顔 宿屋（南部=寛治郎）。 ※文楽座連中による「浄瑠璃会」。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。		
△	一九二〇	大正9	名古屋 御園座	(生写朝顔話)	浜松（津花=吉左）。		
					朝 顔 日 記 宿屋（南部=寛次郎）。 ※越路一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』、『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。		
△	一九二〇	大正9	京都 南 座	朝 顔	宿屋（南部=寛次郎）。		
					朝 顔 日 記 宇治川（豊島=音次）。 ※大阪文楽座引越、越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。		
					浜松（津花=稲丸）。		

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
△	一九二〇	大正9	11/5	東京 有楽座	(生写朝顔話)	宿屋(鑢=吉作)。 ※名流演奏会。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
	一九二一	大正10	6/15~	御霊文楽座	生写朝顔話 大序より 大井川のだん迄	大序 大内多々羅之助館のだん(亀久、呂智、雀、津駒、南枝、清、淀路、陸路、富栄、越登、辰、源福=*清一)、多々羅ヶ浜のだん(越名、鏡、つばめ、文、三滝=*吉一郎)、宇治川のだん(鏡、つばめ、静=*歌助/*徳太郎)、真葛ヶ原のだん(生駒=*友造/*友平)、秋月弓之助閑居のだん(中 鶴尾=*友之助、淀=*勝平、切 叶=*叶)、明石浜舟別れのだん(鑢=*竹三郎/*吉弥)、浜松のだん(口 島=*朝造、相生=*広太郎、奥 古靱=*清六)、島田駅宿屋のだん(中 町=*吉作、次 駒=*錦糸、切 伊達=*吉三郎・琴 *兵市)。 ※「二十日間、七月四日打上」(『義太夫年表 大正篇』)。 ※豊竹古靱太夫4日間休演、竹本町太夫が代演(『義太夫年表 大正篇』)。	宮城阿曾次郎(玉蔵)、娘深雪後二朝顔(文五郎)、乳母朝香(栄三)、萩野祐仙(文三)、岩代多喜太(玉治郎)、戎屋徳右衛門(辰五郎)。
△	一九二一	大正10	7/6 7/7 7/8 7/9	京都 南座	朝 顔 日 記 朝 顔	浜松(陸路)。 舟別れ(淀路)。 (淀路)。 宿屋(南部=寛次郎・琴 寛若)。 ※大阪文楽一座引越し。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九二一	大正10	7/14~19	東京 有楽座	(生写朝顔話)	舟別れ、浜松、宿屋(鑢=吉作)。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	宮城(玉蔵)、深雪(栄三)、徳右衛門(辰五郎)。
△	一九二二	大正11	7/25 7/27	京都 中座	朝 顔	(淀路=吉重)。 宿屋(越名=宗吉)。 ※大阪文楽座若手連引つ越し。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九二二	大正11	8/10 8/11 8/12	京都 南座	朝 顔 朝 顔 日 記 朝 顔	舟別(辰=新三)。 宿屋(源=勝市・勝三)。 浜松(つばめ)。 ※文楽座引越し、津太夫・古靱太夫ほか。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
一九二二	大正11	9/15~	御霊文楽座	生写朝顔話 大序より 大井川迄	大序 大内館のだん(千鳥、津若、駒登、照、亀久、呂智、南枝、淀路、陸路、富栄)、多々羅ヶ浜のだん(辰、源福、越登、文、越名)、宇治川のだん(越穂/小富、鶴尾)、真葛ヶ原のだん(鏡/つばめ)、秋月弓之助閑居のだん(中 淀、切 駒)、船別のだん(深雪一町・阿曾次郎一相生)、浜松のだん(口 島、奥 古靱=新左衛門)、嶋田駅宿屋のだん(中 源路、次 源=* 勝市、切 伊達=* 吉三郎)。 ※「二十三日間」(『義太夫年表 大正篇』)。	宮城阿曾次郎(玉蔵)、娘深雪(栄三)、乳母浅香(文五郎)、萩の祐仙(文三)、岩代多喜太(玉次郎)、戎屋徳右衛門(辰五郎)。	
△	一九二二	大正11	12/8	東京 新 富 座	(生写朝顔話)	宿屋より大井川(鑼=団六・琴 勝造)。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
	一九二四	大正13	5/1~	京都 新京極文楽座	生写朝顔日記 宇治川より 宿屋迄	宇治川のだん(陸路=新吉)、真葛ヶ原のだん(綾=小綱)、秋月弓之助閑居のだん(中 千駒=叶太郎、切 鶴尾=八助)、明石浦船別のだん(嶋=友造・琴 友太郎)、浜松小家のだん(口 越名=吉左、奥 角=団六)、笑ひ薬のだん(陸路=新三郎、八十=勝平)、宿屋のだん(切 鑼=新左衛門・琴 団二郎)。	宮城阿曾次郎・駒澤治郎左衛門(扇太郎)、娘深雪(文五郎)、浅香(小兵吉)、萩野祐仙(玉次郎)、岩代多喜太(紋太郎)、戎屋徳右衛門(冠造)。
△	一九二四	大正13	7/22	中 座	朝 顔	宿屋(鑼=団六)。 ※文楽座連中による「浄瑠璃演奏会」。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	一九二四	大正13	8/5	四国 小 松 島	(生写朝顔話)	浜松(文)。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
△	一九二四	大正13	8/17	四国 徳 島	(生写朝顔話)	宿屋(角)。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
△	一九二四	大正13	8/17 8/20 8/21	京都 南 座	朝 顔 日 記	舟別れ(辰=団伊三)。 宿屋之段(鑼=団六・琴 団二郎)。 浜松小家の段(つばめ=友衛門)。 ※大阪文楽。素浄瑠璃。津太夫紋下清六改名披露。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九二四	大正13	11/10	粉浜 豊竹古靱太夫宅	(生写朝顔話)	宿屋(小)。 ※古靱門人研究会(長らく中絶久々にて)。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
	一九二五	大正14	6/1~	京都 新京極文楽座	生写朝顔話 宇治川より 宿屋迄	宇治川のだん(鷹=友吉・六之助)、真葛ヶ原のだん(亀久=清丸)、秋月弓之助閑居のだん(南登=広十郎、越穂=猿二郎)、舟別れのだん(越登=友之助・琴新之助)、浜松小家のだん(口 長子=清二郎、奥 八十=勝平)、嶋田駅宿屋のだん(口 亀久=新吉、中 和泉=八助、切 鑼=新左衛門・琴 清丸)。	宮城阿曾次郎・駒澤治郎左衛門(紋太郎)、娘深雪(文五郎)、浅香(簗助)、萩野祐仙(小兵吉)、岩代多喜太(兵十郎)、戎屋徳右衛門(辰五郎)。
△	一九二五	大正14	8/15	中 座	朝 顔	舟別れ(辰=勝造)。 ※文楽座連中による「涼み素浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
△	一九二五	大正14	12/3カ	高知	(生写朝顔話)	宿屋(鏝)。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
	一九二六	大正15	6/1~	御霊文楽座	生写朝顔話 大序より 大井川まで	大序 大内多々羅之助館のだん(叶美、常子、源子、小松、豆、鷹、伊達喜、弥生、駒尾、駒登、照、淀路、播路、亀久=*新吉)、多々羅ヶ浜のだん(陸路/長子/千駒/辰/源福=*友作)、宇治川のだん(中 源路=*清二郎//富=*寛市、切 文字=*勝平)、真葛ヶ原のだん(三滝=*猿二郎)、秋月弓之助閑居のだん(中 和泉=*友之助/*猿太郎//鶴尾=*八助/*綱右衛門、切 叶=*叶)、明石浜舟別れのだん(鏡=*歌助//町=*団六)、浜松小屋のだん(口 越名=*友平/*友衛門//相生=*友造/*友若、奥 駒=*才治)、嶋田駅宿屋のだん(中 越穂=*広太郎、次 源=*仙糸、切 土佐=吉三郎・*箒 兵市/*喜代之助)。	宮城阿曾次郎後二駒澤次郎左工門(玉蔵)、娘深雪・朝がほ(文五郎)、乳母浅香・順礼姿浅香(栄三)、萩野祐仙(文三)、岩代多喜太(玉松)、戒屋徳右工門(辰五郎)。
△	一九二六	大正15	6/22	京都	生写朝顔日記	舟別れの段(源路=新吉)。	
			6/24	南 座	生写朝顔話	浜松小屋段(辰=団伊三)。	
			6/25		朝 顔 話	舟れの段(辰=団伊三)。	
			6/26		生写朝顔話	浜松小屋の段(越名=友衛門)。	
			6/27			船別れの段(伊達喜=仁平)。	
			6/28		朝 顔	宿屋(鏝=新左衛門)。 ※文楽座引越し、豊竹古鞠太夫・竹本土佐太夫ほか。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九二六	大正15	7/1~2	御霊文楽座カ	(生写朝顔話)	多々羅之助館(弥生=吉坊、伊達喜=仁平)、多々羅ヶ浜(叶美=団伊三、陸路=稲丸)、宇治川(弥生=新吉、源路=清二郎)、真葛ヶ原(千駒=友二)、弓之助閑居(源平=叶太郎、富栄=広太郎)、明石(深雪一小松・豆=浅造・吉貞)、浜松(口 辰=寛市、奥 相生=友衛門)、宿屋(播路=喜代之助、鏡=友若、島=友平・小庄)。 ※向上会。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事、『四代竹本越路太夫』に拠る。	
△	一九二六	大正15	8/6~8	東京 歌舞伎座	生写朝顔日記	舟別れ、浜松小屋、島田宿(深雪一越名・阿曾次郎一源路=清二郎、つばめ=新三郎、鏝=新左衛門、播路・辰=金弥・市之助、源=仙糸、土佐=吉三郎・琴 吉貞)。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	(不明)

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
一九二七	昭和2	6/1~27	弁天座	生写朝顔話 大序より 大井川まで	大序 大内多々羅之助館の段（春若、静尾、駒司、三津、源左、源喜、源賀、長、武蔵、源平、常子、源子、小松、鷹、伊達喜、照、隅栄、駒尾、駒登、淀路＝稲丸、他）、多々羅ヶ浜の段（播路、亀久、陸路、長子、千駒、辰、源福＝友駒、他）、宇治川の段（長子＝友造／広太郎）、真葛ヶ原の段（和泉＝友之助／八助）、秋月弓之助閑居の段（中 越穂＝叶太郎、切 文字＝勝平）、明石舟別れの段（越名／相生＝団六／歌助・琴 福太郎／小庄／友駒／新之助）、浜松小家の段（口 鏡／島＝友平／友若／綱右衛門／友衛門、切 駒＝才治）、島田駅宿屋の段（中 富＝猿太郎／寛市、次 鏝＝新左衛門、切 土佐＝吉兵衛・琴 友市）。 ※千種楽は『松竹関西演劇誌』に拠る。	宮城阿曾次郎後に駒沢次郎左衛門（政亀）、娘深雪・朝顔（文五郎）、乳母浅香（紋十郎）、萩野祐仙（玉次郎）、岩城多喜太（門造）、戎屋徳右衛門（玉七）。	
△	昭和2	8/26	東京 歌舞伎座	（生写朝顔話）	舟別れ（播路＝叶太郎）。		
		8/28		生写朝顔話	浜松小家の段（播路＝叶太郎）。		
		9/1			宿屋（源＝仙糸・琴 小庄）。 ※大阪文楽義太夫一座。 ※28日の役割は筋書、その他は『歌舞伎座百年史』に拠る。		
一九二七	昭和2	12/18	浪花座	朝顔日記	宿屋の段（島＝浅造・琴 友駒）。		
		12/19			浜松の段（駒尾＝才太郎）。 ※若手素浄瑠璃。		
△	一九二八	昭和3	1/6	岡山 岡山劇場	生写朝顔話	浜松小家（叶美＝市之助）。 ※竹本土佐太夫一行巡業（1月6～24日、山陽・九州）の内。素浄瑠璃。1月8日広島・寿座で同公演あり。 ※「山陽新報」（1月5・7日の記事、1月5日の広告）、「中国新聞」（1月8日の記事と広告）に拠る。	
△	昭和3	3/4~6	神戸 八千代座	生写朝顔話	島田駅宿屋の段（中 播路＝市之助、次 つばめ＝勝市、切 土佐＝吉兵衛・琴 福太郎・友駒）。 ※「神戸新聞」（2月26・28～29日・3月1～6日の記事、2月28～29日・3月1～8日の広告）に拠る。	駒沢（政亀）、朝顔（文五郎）、岩城（玉幸）、徳右衛門（門造）。	
		3/14~15	名古屋 御園座		島田駅宿屋の段（中 播路＝市之助、次 つばめ＝勝市、切 土佐＝吉兵衛・琴 福太郎／友駒）。 ※大阪文楽座巡業（3月1～20日、神戸・名古屋・広島）の内。	駒沢治郎左衛門（政亀）、朝顔（文五郎）、萩野祐仙（玉次郎）、岩城多喜太（玉幸）、戎屋徳右衛門（門造）。	
△	一九二八	昭和3	4/25~26	東京浜町 日本橋倶楽部	朝 顔	宿屋（扇賀・巴瀬・巴摩・和佐・照賀・和子＝猿喜知）。 ※東都五十義会第10回記念。御祝儀掛合。 ※『浄瑠璃雑誌』第270・271号に拠る。	
△	一九二八	昭和3	5/13	土橋クラブ	（生写朝顔話）	浜松（源喜）。 ※若芽会。 ※『浄瑠璃雑誌』第270号に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九二八	昭和3	7/1	金沢 尾山倶楽部	朝 顔 話 (常子)。 ※竹本土佐太夫一行巡業(7月1~13日、北陸)の内。素 浄瑠璃。 ※「北国新聞」(6月28・30日・7月1・3~5日)に拠る。	
△	一九二八	昭和3	7/14 7/18	神戸 八千代座	朝 顔 (常子)。 宿屋(鏝)。 ※文楽中堅花形の大一座。素浄瑠璃。 ※「神戸新聞」(7月12・14~15・17~18日の記事、7月 12~18日の広告)に拠る。	
△	一九二八	昭和3	8/4	実業会館	(生写朝顔話) 宿屋(叶美)。 ※新作実演会。 ※『浄瑠璃雑誌』第273号に拠る。	
	一九二八	昭和3	8/17 8/23	浪花座	生写朝顔日記 浜松小屋の段(常子=小庄)。 宿屋の段(島=浅造・琴友太郎)。 ※文楽座若手素浄瑠璃。	
	一九二八	昭和3	10/1~	弁天座	生写朝顔話 明石浜舟別の段(一日替 深雪=越名・阿曾次郎=源路・ 船頭一辰=友若/猿太郎/友衛門/清二郎//深雪一綾・ 阿曾次郎一富・船頭一千駒=猿二郎/綱右衛門/寛市/ 叶太郎)、島田駅宿屋の段(中 淀路/播路/亀久/陸路 /長子/千駒/辰/源福=友作、次 鏡=団六//島=歌助 /友之助//和泉=友造/浅造、切 駒=才治・琴 団二 郎)。	駒沢次郎左衛門(政亀)、娘深雪・朝顔 (紋十郎)、萩野祐仙(玉次郎)、岩城多 喜太(玉幸)、戎屋徳右衛門(玉七)。
△	一九二九	昭和4	2/21	東京 三越ホール	朝 顔 浜松(巖島=幸太郎)。 ※第4回浄瑠璃研究会。 ※『浄瑠璃世界』第302号、『浄瑠璃雑誌』第277号に拠 る。	
△	一九二九	昭和4	3/22	豊竹古靱太夫宅	朝 顔 浜松(辰=勝二郎)。 ※豊竹古靱太夫門下勉強会。 ※『浄瑠璃雑誌』第279号に拠る。	
△	一九二九	昭和4	4/16	浜松 浜松座	(生写朝顔話) 浜松(辰=勝三郎)。 ※大阪文楽座巡業(4月16~22日、東海)の内。大阪文楽 座浄瑠璃若手花形大一座。4月18日豊橋・東雲座で同公演 あり。 ※「参陽日報」(4月14~20日)、「新朝報」(4月14~ 15・17・20日)、「豊橋新報」(4月14・16~20日の記 事、4月16日の広告)、「豊橋日日新聞」(4月14~20日 の記事、4月16日の広告)に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九二九	昭和4	6/15~19	東京 報知講堂	朝 顔 話 宇治蛭狩(前 米子=猿五郎・奥 扇賀=松四郎・巴磨造)、船別れ(米賀=宗之助)、浜松(前 朝瀬=団四郎・後 巴磨=猿三郎)、島田宿(米喜=照助・新之丞)、笑葉(米=新次郎)、宿屋(津賀=猿之助・琴民之助・胡弓 宗之助)。 ※第6回義太夫人形座。 ※『浄瑠璃世界』第305号に拠る。	
△	一九二九	昭和4	6/18	東京 三越ホール	朝 顔 宿屋(深雪=一生駒・駒沢一和国・岩代+関助一巖・徳右衛門一君=紋左衛門・琴+胡弓 紋三郎)。 ※第7回浄瑠璃研究会。 ※『浄瑠璃雑誌』第280号に拠る。	
	一九二九	昭和4	7/18~22	東京 新橋演舞場	生写朝顔日記 明石船別れの段(深雪=越名・阿曾次郎一綾・船頭一隅栄=友衛門・琴 友駒/勝芳)、島田駅宿屋の段(口 播路=団伊三//辰=勝三郎・中 貴鳳=友之助//島=浅造、切 鑿=新左衛門・琴 小庄/新之助)。	駒沢治郎左衛門(政亀)、娘深雪・娘朝顔(紋十郎)、萩野祐仙(玉次郎)、岩城多喜太(玉幸)、戎屋徳右衛門(門造)。
△	一九二九	昭和4	9/8	名古屋 新守座	朝 顔 日 記 宿屋の段(源路=浅造)。 ※大阪文楽座巡業(9月7~23日、名古屋・神戸・高松)の内。 ※「新愛知」(9月3~8・10~11日の記事、9月6~7・9・11日の広告)、『浄瑠璃雑誌』第283号に拠る。	
△	一九二九	昭和4	9/19	岡崎 松 栄 座	(生写朝顔話) 宿屋(広=寛若)。 ※竹本陸路太夫一行巡業(9月18日~10月3日、東海・京都)の内。 ※『浄瑠璃雑誌』第284号に拠る。	
△	一九二〇	昭和5	4/21	東京 三越ホール	(生写朝顔話) 浜松小屋(和国=松四郎)。 ※第16回浄瑠璃研究会。 ※『浄瑠璃雑誌』第290号に拠る。	
△	一九三〇	昭和5	5/20	東京 甲子屋倶楽部	朝 顔 宿屋(東=桑造)。 ※第17回浄瑠璃研究会。 ※『浄瑠璃雑誌』第291号に拠る。	
	一九三〇	昭和5	7/1~20	四ツ橋文楽座	生写朝顔話 明石浦舟別れの段(阿曾次郎一つばめ・深雪=南部・船頭=播路=勝市・吉弥・琴 新之助)、島田駅宿屋笑葉の段(中 辰=清二郎//陸路=叶太郎、次 駒=重造)、奥座敷より大井川の段(切 古靱=清六・琴 勝芳)。 ※千種楽は『文楽興行記録昭和篇』に拠る。	宮城阿曾次郎・駒沢次郎左衛門(政亀)、娘深雪・朝顔(文五郎)、萩野祐仙(扇太郎)、岩代多喜太(玉幸)、戎屋徳右衛門(小兵吉)。
△	一九三〇	昭和5	7/15	東京 三越ホール	(生写朝顔話) 島田駅宿屋より大井川の段(深雪=都・駒沢一巖・岩代=殿母・下女+関助一東・徳右衛門一和国=猿三郎・琴松四郎)。 ※第19回浄瑠璃研究会。 ※『浄瑠璃雑誌』第293号に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九三〇	昭和5	7/24	聖天山下 竹本土佐太夫宅	朝 顔 日 記 舟別れ（越名＝勝芳）。 ※第2回大序会。 ※『浄瑠璃雑誌』第294号に拠る。	
	一九三〇	昭和5	8/17 8/18 8/20 8/22 8/23 8/25	東京 東京劇場	生写朝顔話 （生写朝顔話） 生写朝顔日記 （生写朝顔話） 濱松（辰＝団伊三）。 ※素浄瑠璃。 ※8月18・20・23・25分日は『浄瑠璃雑誌』第295号に拠る。	浜松小家の段（播路＝小庄）。 濱松（文＝友衛門）。 濱松の段（相生＝猿糸）、宿屋の段（古靱＝清六・琴小庄）。 舟別（播路＝小庄）。
△	一九三〇	昭和5	12/2	四日市 湊 座	（生写朝顔話） 宿屋（源路＝清二郎）。 ※文楽座若手人形浄瑠璃。桐竹門造後見女兒一人遣い人形入。 ※『浄瑠璃雑誌』第298号に拠る。	
△	一九三〇	昭和5	12/7	文具クラブ	朝 顔 宿屋（角＝勇造・琴徳若）。 ※第8回近松会。 ※『浄瑠璃雑誌』第298号に拠る。	
	一九三一	昭和6	8/1～19	四ツ橋文楽座	生写朝顔話 奥座敷より 大井川の段迄 笑葉の段（辰＝播路／亀久＝叶太郎／友作／友二、長尾＝友平／友若）、宿屋の段（相生＝歌助／清二郎・琴勝芳／小綱／南部＝吉弥・琴福太郎）、大井川の段（相生＝歌助／清二郎／南部＝吉弥）。 ※千種楽は『文楽興行記録昭和篇』に拠る。	駒沢次郎左衛門（政亀）、朝顔（紋十郎）、萩野祐仙（玉次郎）、岩代多喜太（玉幸）、戎屋徳右衛門（玉松）。
	一九三一	昭和6	9/8～12	東京 帝国劇場	生写朝顔話 濱松小家の段（島＝猿太郎）、宿屋の段（切録＝新左衛門・琴猿一郎）。	駒沢次郎左衛門（玉松）、娘深雪（文五郎）、浅香（徳三郎）、岩代多喜太（門造）、戎屋徳右衛門（小兵吉）。
△	一九三二	昭和7	5/4 5/8	名古屋 御園座	（生写朝顔話） 朝 顔 濱松小家（辰＝友二）。 宿屋（源路＝吉左）。 ※竹本鏝太夫一行巡業（5月4～14日、東海）の内。文楽座の若手による素浄瑠璃。 ※「新愛知」（5月1・3～8日）、『浄瑠璃雑誌』第312号、『御園座七十年史』に拠る。	
△	一九三二	昭和7	6/9	博多 大博劇場	生写朝顔話 明石船別れの段（阿曾次郎一鏡・深雪一小春・船頭一小松＝団六・琴綱治）、宿屋の段（中播路＝団伊三、次つばめ＝仙糸、切録＝新左衛門・琴団二郎）、大井川の段（南部＝吉弥）。 ※大阪文楽座巡業（6月4～15日、山陽・九州）の内。 ※『浄瑠璃雑誌』第313号に拠る。	阿曾次郎・駒沢（政亀）、深雪・朝顔（紋十郎）、祐仙（玉治郎）、岩城（門造）、徳右衛門（小兵吉）。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
△	一九三二	昭和7	6/19	北陽演舞場	朝 顔 宿屋（源路＝吉左・琴 勝之介）。 ※花菱会。 ※『文楽興行記録昭和篇』では北新地演舞場とする。 ※『浄瑠璃雑誌』第312・313号に拠る。		
	一九三二	昭和7	6/21～23	京都 南 座	生写朝顔話 明石船別より 大井川の段迄	明石船別の段（阿曾次郎一鏡・深雪一小春・船頭一小松＝団六・琴 綱治）、宿屋の段（中 播路＝団伊三、次 づばめ＝仙系、切 鑿＝新左衛門・琴 団二郎）、大井川の段（越名改め 南部＝吉弥）。	宮城阿曾次郎・駒沢次郎左衛門（政亀）、娘深雪・朝顔（紋十郎）、萩野祐仙（玉治郎）、岩城多喜太（門造）、戒屋徳右衛門（小兵吉）。
△	一九三二	昭和7	8/5～6	京都 都 座	生写朝顔話	宿屋の段（南部＝友衛門・琴 団二郎）、大井川の段（小春＝吉左）。 ※「京都日出新聞」（7月29・31日・8月2～3・5～7日）に拠る。	駒沢次郎左衛門（扇太郎）、朝顔（紋十郎）、岩城多喜太（玉市）、戒屋徳右衛門（玉七）。
			8/7	岐阜 松 竹 座	朝 顔 日 記	（南部＝友衛門）、大井川（小春＝吉左）。 ※「大阪朝日新聞」岐阜版（8月5日）に拠る。	
			8/11～12	名古屋 御 園 座	生写朝顔日記	宿屋の段（南部＝友衛門・団二郎）、大井川の段（小春＝吉左）。 ※文楽若手連五人会（竹本相生太夫・豊竹呂太夫・豊竹つばめ太夫・竹本南部太夫・竹本小春太夫）巡業（8月1日～下旬、近畿・東海）の内。 ※「新愛知」（8月9～13・15～16日）、『御園座七十年史』に拠る。	駒沢（扇太郎）、岩代（玉市）、徳右衛門（玉七）。
	一九三二	昭和7	10/27 10/28	東京 東 京 劇 場	生写朝顔日記	宿屋の段（鑿＝新左衛門）。 浜松の段（相生＝芳之助）。 ※素浄瑠璃。	
△	一九三二	昭和7	12/2	広島 寿 座	（生写朝顔話）	宿屋（小春＝団二郎・琴 勝芳）。 ※大阪文楽座若手連巡業（12月1日～、広島・九州）の内。 ※「中国新聞」（11月27日の記事、11月23・30日の広告）、『浄瑠璃雑誌』第318号に拠る。	
△	一九三三	昭和8	1/26	北陽演舞場	朝 顔	浜松（深雪+子供一越名・浅香+輪抜け吉兵衛一文字栄＝寛若）、宿屋（源路＝寛市・琴 弥一）。 ※花菱会。桐竹門造指導乙女人形入。 ※『浄瑠璃雑誌』第320号に拠る。	
△	一九三三	昭和8	1/27	京都 日の出會館	朝 顔 日 記	浜松の段（文字栄・駒司・越名＝勝芳）、宿屋の段（源路＝寛市・琴 弥一）。 ※花菱会。 ※『浄瑠璃雑誌』第320号に拠る。	
△	一九三三	昭和8	6/22	高知 堀 詰 座	朝 顔	浜松小家（佐久＝勝芳）、宿屋（小春＝重造）。 ※竹本土佐太夫一行巡業。 ※『浄瑠璃雑誌』第325号に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
一九三三	昭和8	7/7~9	東京 東京劇場	生写朝顔日記	明石船別れの段（小春＝重造・琴 仙三郎）、浜松小家の段（相生＝清二郎）、宿屋の段（中 辰＝福太郎、次 鏡＝吉左、切 土佐＝吉兵衛・琴 団二郎）。	宮城阿曾次郎・駒沢治郎左衛門（栄三）、娘深雪（文五郎）、乳母浅香（政亀）、萩野祐仙（小兵吉）、岩代多喜太（玉松）、戎屋徳右衛門（玉次郎）。	
△	一九三三	昭和8	7/22~23	神戸 松竹劇場	朝 顔 日 記	（相生）。 ※大阪文楽座人形浄瑠璃若手花形銷夏競演大会。 ※「神戸新聞」（7月20~23日の記事、7月22日の広告）、『浄瑠璃雑誌』第326号に拠る。	（不明）
一九三三	昭和8	8/18~20	京都 南 座	生写朝顔日記	宿屋より大井川まで（相生＝清二郎・琴 市松）。	駒沢治郎左衛門（政亀）、娘深雪（文五郎）、岩城多喜太（玉松）、戎屋徳右衛門（玉次郎）。	
一九三三	昭和8	9/9~20	四ツ橋文楽座	生写朝顔日記	明石舟別れの段（竹＝市之助・琴 市松//陸路＝団伊三・琴 重次郎//富＝八造・琴 猿若//辰＝友作・琴 綱延）、宿屋より大井川の段（小春＝綱右衛門・琴 友花//呂＝重造・琴 仙三郎//相生＝清二郎・琴 団二郎//南部＝寛市・琴 綱治）。 ※第2回文楽若手特別興行。	宮城阿曾次郎・駒沢治郎左衛門（政亀）、娘深雪（紋十郎）、岩城多喜太（玉幸）、戎屋徳右衛門（小兵吉）。	
△	一九三四	昭和9	1/31	東京 甲東倶楽部	朝 顔	宿屋（鞍＝司郎）。 ※相模太夫一座。 ※『浄瑠璃雑誌』第331号に拠る。	
△	一九三四	昭和9	2/20	新町演舞場	朝 顔	浜松（駒司＝仙三郎）。 ※くつわ会。 ※『浄瑠璃雑誌』第330号に拠る。	
△	一九三四	昭和9	2/24	日 吉 座	朝 顔	宿屋（駒若＝仙三郎）。 ※豊竹千駒太夫父師追善。千駒太夫亡父津田一声並びに幼時の師匠故土口軒の追善浄瑠璃会。桐竹門造指導人形入。 ※『浄瑠璃雑誌』第330・331号に拠る。	
一九三四	昭和9	7/4~6	京都 南 座	生写朝顔日記	明石舟別れの段（宮城阿曾次郎一長・娘深雪一越名・船頭一相瀬＝団伊三・琴 綱延）、宿屋の段（相生＝重造・琴 友花）、大井川の段（小春＝友衛門）。	宮城阿曾次郎・駒沢次郎左衛門（政亀）、娘深雪・朝顔（紋十郎）、岩代多喜太（玉幸）、戎屋徳右衛門（小兵吉）。	
一九三四	昭和9	7/27~29	東京 歌舞伎座	生写朝顔日記	明石船別れの段（相生＝重造・琴 綱延）、宿屋の段（切 録＝新左衛門・琴 勝芳）、大井川の段（小春＝友衛門）。	駒沢治郎左衛門（政亀）、娘深雪・朝顔（紋十郎）、岩城多喜太（門造）、戎屋徳右衛門（小兵吉）。	
△	一九三四	昭和9	9/16	堀江演舞場	（生写朝顔話）	宿屋（源路＝寛市・琴 弥一）。 ※花菱会。 ※『浄瑠璃雑誌』第335号に拠る。	
△	一九三四	昭和9	11/24	和歌山 紀 国 座	（生写朝顔話）	宿屋（陸路＝吉坊）。 ※桐竹門造指導乙女人形入。 ※『浄瑠璃雑誌』第337号に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
一九三五	昭和10	5/4~	四ツ橋文楽座	生写朝顔日記	宿屋の段(切 鑢=新左衛門・琴 仙三郎//切 駒=清二郎・琴 友駒)、大井川の段(駒=清二郎//鑢=新左衛門)。 ※文部省推薦記念興行。	宮城阿曾次郎事駒沢治良左衛門(玉幸)、朝顔(紋十郎)、岩代多喜太(玉市)、戎屋徳右衛門(小兵吉)。	
△	一九三五	昭和10	6/2	博多大博劇場	生写朝顔日記	宿屋の段(呂=琴(マ) 友衛門)、大井川の段(南部=吉左)。 ※豊竹古鞆太夫一行巡業(5月28日~6月14日、山陽・九州)の内。 ※『浄瑠璃雑誌』第340号に拠る。	駒沢治郎左衛門(政亀)、朝顔(紋十郎)、岩代多喜太(玉市)、戎屋徳右衛門(小兵吉)。
△	一九三五	昭和10	7/1~4	東京明治座	生写朝顔日記 明石船別より大井川まで	明石船別れの段(阿曾次郎一和泉・深雪一小春・船頭一津の子=芳之助・琴 綱治)、島田駅笑葉の段(中 播路=新太郎、次 鑢=新左衛門)、奥座敷より大井川まで(切 土佐=吉兵衛・琴 市松)。	駒沢治郎左衛門実は宮城阿曾次郎(政亀)、朝顔実は娘深雪(紋十郎)、萩野祐仙(扇太郎)、岩代多喜太(門造)、戎屋徳右衛門(小兵吉)。
△	一九三五	昭和10	7/26~27	満州大連劇場	(生写朝顔話)	宿屋(小春)。 ※皇軍在満同胞慰問興行(7月23日~8月12日、満州)の内。7月28日同劇場(場割不明)、8月1日奉天劇場(宿屋)、8月3日新京公会堂(宿屋)、8月11~12日京城(宿屋)で同公演あり。 ※『浄瑠璃雑誌』第342号に拠る。	朝顔(紋十郎)。
△	一九三五	昭和10	8/22	浪花座	朝 顔	(小春=芳之助)。 ※文楽若手浄瑠璃会納涼浄瑠璃。 ※「大阪毎日新聞」(8月21日の広告)、『浄瑠璃雑誌』第342号に拠る。	
△	一九三六	昭和11	2/4	一の宮花岡劇場 〈新義座〉	朝 顔	明石舟別れ(掛合)。 ※大阪文楽新義座一行巡業(2月1~16日、東海・近畿)の内。 ※『浄瑠璃雑誌』第346号に拠る。	
△	一九三六	昭和11	5/3~	地方公演 (中国・九州)	生写朝顔日記	宿屋より大井川まで(小春=清二郎・琴 猿若)。 ※『浄瑠璃雑誌』第349号に拠る。	駒沢(光之助)、朝顔(紋十郎)、岩代(玉徳)、徳右衛門(門造)。
△	一九三六	昭和11	6/1~	四ツ橋文楽座	生写朝顔日記	宿屋の段より大井川まで(小春改め 伊達=友次郎・琴 友駒)。 ※四代目竹本伊達太夫襲名披露。	駒沢次郎左衛門(政亀)、朝顔(紋十郎)、岩代多喜太(玉市)、戎屋徳右衛門(小兵吉)。
△	一九三六	昭和11	6/1~	堀江演舞場 〈竹本座〉	朝 顔 日 記	宇治川(新保=助造)、明石舟別れの段(深雪一敷島・阿曾次郎一利根・船頭一大庫=団弥)、小瀬川の段(利根=新左)、摩耶ヶ嶽の段(大庫=竜二郎、栄=六之助)、浜松菓売の段(新保=新次)、浜松小屋の段(喜=勝若改 竜鳳)、笑葉の段(敷島=新吉)、宿屋より大井川まで(切 角=新造・琴 竜二郎)。 ※「大阪毎日新聞」(5月30日)、『浄瑠璃雑誌』第348・349号に拠る。	(不明)

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九三六	昭和11	7/24~27	東京 歌舞伎座	生写朝顔日記	宿屋より大井川まで（小春改め 伊達=友次郎・琴友駒）。	駒沢次郎左衛門（政亀）、朝顔（紋十郎）、岩代多喜太（玉市）、戎屋徳右衛門（門造）。
一九三六	昭和11	9/1~3	京都 南座	生写朝顔日記	宿屋より大井川まで（小春改め 伊達=友次郎・琴友駒）。	駒沢次郎左衛門（玉幸）、朝顔（紋十郎）、岩代多喜太（門造）、戎屋徳右衛門（小兵吉）。
△	一九三六	昭和11	11/27	大紙倶楽部	朝顔 宿屋（呂=友衛門）。 ※競義会（素語り会）。 ※『浄瑠璃雑誌』第356号に拠る。	
△	一九三七	昭和12	2/16	ラジオ放送	生写朝顔日記 宿屋の段（津賀=紋左衛門・琴紋三郎）。 ※「東京朝日新聞」「東京日日新聞」（2月16日）、『浄瑠璃時報』第177号に拠る。	
△	一九三七	昭和12	3/27	広島 新天劇場	朝顔 （伊達）。 ※竹本鏝太夫一行巡業（3月23~28日、中国）の内。 ※『浄瑠璃雑誌』第359号に拠る。	（不明）
△	一九三七	昭和12	3/29	大紙倶楽部	朝顔 （駒若=吉季）。 ※競義会。乙女人形入。 ※『浄瑠璃雑誌』第359号に拠る。	
△	一九三七	昭和12	3/29	京都 朝日会館	朝顔日記 宿屋の段。 ※国粹古典芸術鑑賞会主催「文楽浄瑠璃の夕」。 ※「大阪朝日新聞」京都版（3月29日の記事、3月28日の広告）に拠る。	
△	一九三七	昭和12	4/5	彦根 大正館 〈新義座〉	（生写朝顔話） 宿屋（南部=勝平）。 ※4月27日静岡・若竹座で同公演あり。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れ、『浄瑠璃時報』第181号に拠る。	
		4/14	岐阜カ 岩村劇場 〈新義座〉	（生写朝顔日記） 宿屋（越名=綱延）。 ※大阪新義座巡業（4月4~28日、東海・関東）の内。乙女人形入。4月19日名古屋・中座、4月28日平塚・新宿劇場で同公演あり。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れ、「名古屋新聞」（4月18・20日）、『浄瑠璃時報』第181号に拠る。		
△	一九三七	昭和12	6/5~7	東京 明治座	生写朝顔日記 明石船別れの段（娘深雪一源・阿曾次郎一辰・船頭一隅栄・船頭一駒若=吉弥・琴吉蔵）、島田駅宿屋の段（相生=道八・琴市松）、大井川の段（伊達=友次郎）。 ※竹本土佐太夫引退披露。	駒沢治郎左衛門実は宮城阿曾次郎（玉幸）、娘深雪・朝顔（紋十郎）、岩代多喜太（玉市）、戎屋徳右衛門（門造）。
△	一九三七	昭和12	6/28	大垣 日吉座 〈新義座〉	（生写朝顔話） 宿屋（越名）。 ※大阪新義座巡業（6月1日~末、関東・東北・上越・北陸・東海）の内。乙女人形入。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	

「生写朝顔話」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
一九三七	昭和12	7/3~	四ツ橋文楽座	生写朝顔日記	明石舟別の段（阿曾次郎一富／千駒・娘深雪一辰／播路・宮・相瀬＝叶太郎／団伊三）、宿屋の段（相生＝道八／呂＝吉左・琴市松）、大井川の段（源＝寛市／喜代之助）、道行の段（娘深雪一相生／呂・奴関助一長尾・呂／相生・駒尾／隅栄・駒若・松島／土佐栄＝友造・八造・友太郎・清若・友三郎・清友・重次郎）。 ※番付には「道行の段」の娘深雪は豊竹和泉太夫とあり、竹本隅栄太夫の名はない。	駒沢次郎左衛門実は宮城阿曾次郎（玉幸）、娘深雪・朝顔（紋十郎）、岩代多喜太（玉市）、戎屋徳右衛門（玉蔵）。	
一九三七	昭和12	7/18~20	京都南座	生写朝顔日記 明石舟別れより大井川の段まで	明石舟別の段（阿曾次郎一播路・深雪一隅栄／さの・船頭一駒若・船頭一相瀬＝寛市）、宿屋の段（切駒＝清二郎・琴猿若）、大井川の段（伊達＝友次郎）。	宮城阿曾次郎・駒沢治郎左衛門（玉幸）、娘深雪・朝顔（紋十郎）、岩代多喜多（玉市）、戎屋徳右衛門（宿屋＝玉蔵、大井川＝玉徳）。	
△	一九三七	昭和12	7/20	台北栄座 〈新義座〉	（生写朝顔話）	宿屋（越名＝綱延）。 ※大阪新義座巡業（7月19日～8月2日、台湾・山陰）の内。桐竹門造指導乙女人形入。7月24日高雄座、7月26日台中座、7月28日基隆劇場（三味線不明）で同公演あり。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れ、『浄瑠璃雑誌』第364号、「台湾日日新報」（7月20日）、「大阪毎日新聞」台湾版（7月22日）に拠る。	
△	一九三七	昭和12	8/11	京都朝日会館 〈新義座〉	生写朝顔日記	宿屋の段（越名＝綱延）。 ※「京都日出新聞」（8月5日）に拠る。	
△	一九三七	昭和12	9/11~12	名古屋御園座	生写朝顔日記	宿屋（相生＝清二郎・琴友駒）、大井川（伊達＝重造）。 ※『浄瑠璃時報』第191号、『御園座七十年史』、「新愛知」（9月1~5・8~12・14・16日の記事、9月4・8~16日の広告）に拠る。	（不明）
		9/17	豊橋東雲座	生写朝顔日記	宿屋（相生）、大井川（伊達）。 ※大阪文楽座巡業（9月11~19日、東海）の内。 ※「豊橋日日新聞」（9月2・4~5・7~9・11~14・16日の記事、9月15・17日の広告）に拠る。	宮城（玉幸）、朝顔（紋十郎）、岩代（玉市）、徳右衛門（政亀）。	
△	一九三七	昭和12	11/21	徳島温泉劇場 〈新義座〉	生写朝顔日記	宿屋の段（越名）。 ※大阪新義座巡業（11月20日～12月1日、四国）の内。乙女人形入。 ※「徳島毎日新聞」（11月15・19~22日の記事、11月20日の広告）に拠る。	
△	一九三八	昭和13	1/29	東京東京劇場	（生写朝顔話）	宿屋（伊達＝友衛門）。 ※大阪文楽座義太夫若手花形特別公演。素浄瑠璃。 ※『浄瑠璃雑誌』第368号、「東京朝日新聞」（1月26日の広告）に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
△	一九三八	昭和13	3/14	岐阜 金華劇場 〈新義座〉	生写朝顔日記	宿屋の段（南部＝勝平・ツレ+琴 綱延）。 ※「岐阜日日新聞」（3月11～12・14～16日）に拠る。	
△	一九三八	昭和13	4/2	北陽演舞場 〈新義座〉	生写朝顔日記	宿屋の段（越名＝勝芳）。 ※『浄瑠璃雑誌』第369・370号、「大阪毎日新聞」（3月27日）に拠る。	
△	一九三八	昭和13	5/25	東京 仁寿講堂 〈新義座〉	朝 顔 日 記	浜松（浅香一叶美・深雪一越名・わな抜一隅栄＝勝芳）。 ※第5回帝都公演。 ※『太棹』第94・95号、「東京朝日新聞」（5月13日）に拠る。	
△	一九三八	昭和13	6/6	豊橋 豊橋劇場 〈新義座〉	生写朝顔日記	（南部＝勝平）。 ※「豊橋日日新聞」（6月4～5日）に拠る。	
△	一九三八	昭和13	6/21	高知 堀詰座	朝 顔 日 記	宿屋（駒若＝吉季）。 ※『浄瑠璃雑誌』第371号、「高知新聞」（6月13・15～16・19～23日）に拠る。	
	一九三八	昭和13	8/10～11	京都 南 座	生写朝顔日記	明石浜舟別の段（阿曾次郎一辰・娘深雪一播路・船頭一常子・船頭一相瀬＝清友）、宿屋より大井川の段（相生＝道八・琴 友三郎）。 ※『浄瑠璃雑誌』第373号では、「明石舟別の段」の三味線を野沢吉季とし、「宿屋より大井川の段」の琴を鶴沢清友とする。	駒沢次良左衛門実は宮城阿曾次郎（政亀）、娘深雪・朝顔（文五郎）、岩代多喜太（玉市）、戎屋徳右衛門（玉蔵）。
△	一九三八	昭和13	8/16	朝日会館	生写朝顔日記	宿屋の段（源＝八造・琴 吉蔵）。 ※国粹古典芸術鑑賞会主催「文楽浄瑠璃の夕」。 ※『浄瑠璃雑誌』第373号、「大阪朝日新聞」（8月11・16日）に拠る。	
△	一九三八	昭和13	10/7	北海道 吉野演芸場 〈新義座〉	朝 顔 日 記	宿屋の段（南部）。 ※大阪新義座巡業（9月中旬～10月24日、東北・北海道）の内。 ※「函館新聞」（9月27日・10月8日の記事、10月4～9日の広告）に拠る。	
△	一九三八	昭和13	10/26	京都 朝日会館	生写朝顔日記	宿屋の段（源＝八造・琴 吉蔵）。 ※国粹古典芸術鑑賞会主催「第5回秋季文楽浄瑠璃の夕」。 ※「京都日日新聞」（10月21日）、「大阪朝日新聞」京都版（10月26日）に拠る。	
△	一九三九	昭和14	1/25	東京 日本橋倶楽部	朝 顔 話	宿屋から大井川まで（浪花＝道之助・琴 寿美子）。 ※東京南北座初春興行。 ※『浄瑠璃雑誌』第377号、『太棹』第101号に拠る。	駒沢（東十郎）、深雪（池田三国）、岩代（高瀬弦之丞）、徳右衛門（清三郎）。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
△	一九三九	昭和14	4/5	京城 朝日座 〈新義座〉	生写朝顔日記	宿屋の段（叶美＝綱延）。 ※大阪新義座大陸巡業（4月1～13日）の内。乙女人形入。4月13日大連劇場（役割不明）で同公演あり。 ※「京城日報」（3月30日・4月2日の記事、4月5～6日の広告）、『浄瑠璃雑誌』第378号、「満州日日新聞」（4月12日の記事、4月7～8・11～14日の広告）に拠る。	
△	一九三九	昭和14	4/14	ラジオ放送	増補生写朝顔話	宿屋の段（相生＝道八・箏 清友）。 ※「大阪朝日新聞」「東京朝日新聞」（4月14日）、『太棹』第104号に拠る。	
△	一九三九	昭和14	4/25	北陽演舞場 〈新義座〉	（生写朝顔話）	宿屋（叶美＝綱延）。 ※桐竹門造指導乙女人形入。 ※『浄瑠璃雑誌』第379号に拠る。	
△	一九三九	昭和14	5/2	東京 日本橋倶楽部	朝 顔 話	宿屋の段（松江＝延左衛門）。 ※南北座春季公演。 ※『浄瑠璃雑誌』第379号、『太棹』第103号に拠る。	深雪（国三郎）、岩代（川辺三左衛門）。
△	一九三九	昭和14	5/2	東京 仁寿講堂 〈新義座〉	朝 顔	宿屋（叶美＝綱延）。 ※乙女人形入。 ※『浄瑠璃雑誌』第378号、『浄瑠璃時報』第231号に拠る。	
	一九三九	昭和14	5/3～17	四ツ橋文楽座	生写朝顔日記	島田駅宿屋の段（中 辰＝団伊三//千駒＝新太郎//播路＝吉季、次 鏝＝新左衛門//駒＝清二郎、切 駒＝清二郎//鏝＝新左衛門・琴 吉蔵）、大井川の段（伊達＝友衛門）。 ※千穂楽は『浄瑠璃雑誌』第379号に拠る。	駒沢次良左衛門（政亀）、朝顔（紋十郎）、萩の祐仙（玉幸）、岩代多喜太（玉市）、戎屋徳右衛門（門造）。
	一九三九	昭和14	5/19～20	名古屋 御園座	生写朝顔日記	宿屋の段（つばめ改 織＝団二郎改 団六・琴 吉蔵）、大井川の段（伊達＝友衛門）。	駒沢次良左衛門（政亀）、朝顔（文五郎）、岩代多喜太（玉市）、戎屋徳右衛門（門造）。
△	一九三九	昭和14	5/29	京都 朝日会館 〈新義座〉	朝 顔 日 記	浜松の段（越名＝勝芳）、宿屋の段（叶美＝綱延）。 ※「京都日日新聞」（5月21日）、「京都日出新聞」（5月27日）、「大阪朝日新聞」京都版（5月29日）に拠る。	
△	一九三九	昭和14	7/23～24	京都 南 座	生写朝顔日記	宿屋（呂＝寛治郎・琴 友三郎）、大井川（伊達＝喜左衛門）。 ※「京都日出新聞」（7月16～17・21～24・26日の記事、7月16・21～24・26～27日の広告）、「京都日日新聞」（7月17・19～20・25～26日の記事、7月20～25日の広告）、「大阪朝日新聞」京都版（7月19日）に拠る。	阿曾次郎（玉幸）、朝顔（紋十郎）、岩代（玉市）、徳右衛門（小兵吉）。
	一九三九	昭和14	8/2～4	東京 明治座	生写朝顔日記	島田駅の段（切 鏝＝新左衛門・琴 清友）、大井川の段（伊達＝友衛門）。	駒沢治郎左衛門実は宮城阿曾次郎（政亀）、朝顔実は深雪（文五郎）、岩代多喜太（玉市）、戎屋徳右衛門（小兵吉）。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九三九	昭和14	8/15	ラジオ放送	生写朝顔日記 大井川の段（源＝吉弥・胡弓 吉蔵）。 ※「大阪朝日新聞」「東京朝日新聞」（8月15日）、『太棹』第107号に拠る。	
△	一九三九	昭和14	9/9～	神戸 松竹劇場	生写朝顔日記 宿屋より大井川の段まで（伊達）。 ※「神戸新聞」（9月8・10・12～13日の記事、9月7・10日の広告）、『浄瑠璃雑誌』第382号に拠る。	（不明）
△	一九三九	昭和14	9/19	博多 大博劇場	生写朝顔日記 舟別れ（辰＝寛市、さの）、宿屋（和泉＝叶）、大井川（源＝清二郎）。 ※「福岡日日新聞」（9月12・16・18～20日の記事、9月15日の広告）、「九州日報」（9月16～17・19～20日の記事、9月15日の広告）に拠る。	朝顔（紋十郎）。
△	一九三九	昭和14	9/26	東京 日本橋倶楽部	朝 顔 日 記 船別（松江＝美之助）、浜松（駒登＝松四郎）、宿屋より大井川まで（都＝亀造）。 ※東京浄瑠璃人形芝居南北座秋季特別公演。 ※『太棹』第108号に拠る。	宮城・駒沢（高瀬弦之丞）、深雪（池田三国）、徳右衛門（国五郎）。
	一九四〇	昭和15	6/1～	四ツ橋文楽座	生写朝顔日記 明石浜船別の段（宮城阿曾次郎一和泉・娘深雪一源・船頭一伊勢＝吉弥・琴 吉蔵）、浜松小家の段（南部＝重造//伊達＝友衛門）、島田駅宿屋の段（相生＝吉五郎・琴勝芳//呂＝新左衛門・琴 綱延//織＝団六・琴 吉蔵）、大井川の段（伊達＝新左衛門//南部＝寛治郎）。	宮城阿曾次郎・駒沢次郎左衛門（政亀）、娘深雪・朝顔（紋十郎）、乳母浅香（文五郎）、岩代多喜太（玉幸）、戎屋徳右衛門（門造）。
	一九四〇	昭和15	6/27～28	神戸 松竹劇場	生写朝顔日記 明石浜船別れの段（阿曾次郎一播路・深雪一さの・船頭一隅若＝八造・琴 綱延）、宿屋の段（相生＝吉五郎・琴 勝芳）、大井川の段（伊達＝友衛門）。	宮城阿曾次郎・駒沢次郎左衛門（政亀）、娘深雪・朝顔（文五郎）、岩代多喜太（玉幸）、戎屋徳右衛門（門造）。
△	一九四〇	昭和15	7/23～25	京都 南 座	生写朝顔日記 船別れの段（富・播路・松島＝吉季）、浜松小屋の段（南部＝重造）、宿屋の段（相生＝吉五郎・琴 綱延）、大井川の段（伊達＝友衛門）。 ※「京都日出新聞」（7月14・18～20日の記事、7月16・25日の広告）、「京都日日新聞」（7月23～24日）、『昭和の南座 資料編（上）』に拠る。	深雪後に朝顔（紋十郎）、浅香（文五郎）。
	一九四〇	昭和15	8/13～16	東京 明 治 座	生写朝顔日記 明石舟別れの段（阿曾次郎一富／播路・深雪一津磨／宮・船頭一隅若／松島・船頭一英／越名＝喜代之助）、浜松小屋の段（織＝団六）、宿屋の段（相生＝吉五郎・琴 勝芳）、大井川の段（文＝八造）。	駒沢治郎左衛門実は宮城阿曾次郎（玉幸）、娘深雪・朝顔実は深雪（紋十郎）、乳母浅香（政亀）、岩代多喜太（玉徳）、戎屋徳右衛門（門造）。
△	一九四〇	昭和15	9/17	ラジオ放送	増補生写朝顔話 宿屋より大井川まで（南部＝重造）。 ※「朝日新聞（大阪）」「朝日新聞（東京）」（9月17日）、『太棹』第119号に拠る。	
△	一九四一	昭和16	1/24	東京 日本橋倶楽部	朝 顔 （駒登）。 ※南北座第1回東京浄瑠璃人形芝居初春公演。 ※『太棹』第123号に拠る。	（不明）
△	一九四一	昭和16	6/24	松竹芸芸道場 （松竹白井会長邸内）	朝 顔 日 記 ※第1回文楽若手研究会。 ※「朝日新聞（大阪）」（6月21日）に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
△	一九四一	昭和16	6/25	岡島会館	朝顔日記	船別れの段（深雪＝越名・阿曾次郎＝呂賀＝竜市）、浜松小屋の段（深雪＝さの・浅香＝宮・吉兵衛＝松島・里童＝南次＝友花）。 ※第4回研声会。 ※『浄瑠璃雑誌』第400号、『文楽芸術』第1号に拠る。	
	一九四一	昭和16	7/21～25	東京新橋演舞場	生写朝顔日記	宿屋の段（南部＝重造・琴勝芳//伊達＝友衛門・琴綱延）、大井川の段（陸路改め 七五三＝吉左）。	駒沢次郎左衛門実は宮城阿曾次郎（玉幸）、朝顔実は深雪（紋十郎）、岩代多喜太（玉徳）、戎屋徳右衛門（玉蔵）。
△	一九四一	昭和16	7/28	ラジオ放送	増補生写朝顔話	宿屋より大井川まで（角＝広助・琴仙三郎）。 ※「朝日新聞（大阪）」「朝日新聞（東京）」（7月28日）、『太棹』第128号に拠る。	
△	一九四一	昭和16	10/4 10/6	築地国民新劇場	（生写朝顔話）	船別（浪江＝和孝）。 宿屋より大井川まで（都＝辰六）。 ※南北座秋季公演。 ※『太棹』第130号に拠る。	深雪（池田三国）。
△	一九四一	昭和16	10/25	ラジオ放送	増補生写朝顔話	宿屋より大井川の段（文＝新左衛門・琴勝芳）。 ※「朝日新聞（大阪）」「朝日新聞（東京）」（10月25日）、『太棹』第131号に拠る。	
	一九四二	昭和17	6/1～	四ツ橋文楽座	生写朝顔日記	島田駅宿屋の段（伊達＝勝平・琴仙三郎//南部＝重造・琴吉蔵）、大井川の段（南部/伊達＝新左衛門）。	駒沢次郎左衛門（亀松）、朝顔（紋十郎）、岩代多喜太（玉徳）、戎屋徳右衛門（門造）。
△	一九四二	昭和17	6/22 6/23	四ツ橋文楽座	生写朝顔日記	明石の浦の段（呂賀＝仙松）、浜松小屋の段（つばめ＝仙三郎）、宿屋より大井川の段まで（前 三滝＝叶太郎・琴吉蔵、後 越名＝友三郎）。 明石の浦の段（津磨＝一郎右衛門）、浜松小屋の段（文字＝綱延）、宿屋より大井川の段まで（前 雛＝友衛門・琴吉蔵、後 呂賀＝清友）。 ※日本因協会第2回技芸奨励会。 ※宿屋のみ人形入。 ※『浄瑠璃雑誌』第410号、『文楽芸術』第10号、『太棹』第136号に拠る。	駒沢次郎左衛門（紋司）、朝顔（栄三郎）、岩代多喜太（玉徳）、戎屋徳右衛門（紋之助）。 駒沢次郎左衛門（栄三郎）、朝顔（紋司）、岩代多喜太（紋太郎）、戎屋徳右衛門（門次）。
	一九四二	昭和17	7/11～15	東京新橋演舞場	生写朝顔日記	島田駅宿屋の段（南部＝重造//伊達＝勝平・琴勝芳）、大井川の段（伊達＝勝平//南部＝重造）。 ※豊竹古靱太夫櫓下襲名披露全員引越興行。	駒沢次郎左衛門実は宮城阿曾次郎（文作改め 亀松）、朝顔実は娘深雪（紋十郎）、岩代多喜太（玉徳）、戎屋徳右衛門（門造）。
△	一九四二	昭和17	8/1	北海道小樽第四公区事務所	（生写朝顔話）	宿屋（重＝広助）。 ※『文楽芸術』第12号、『太棹』第138号に拠る。	
	一九四二	昭和17	9/4～6	京都南座	生写朝顔日記	宿屋の段（相生＝吉五郎・琴清友）、大井川の段（伊達＝勝平）。 ※豊竹古靱太夫櫓下披露興行。	駒沢次郎左衛門実は宮城阿曾次郎（文作改め 亀松）、朝顔実は娘深雪（紋十郎）、岩代多喜太（玉徳）、戎屋徳右衛門（玉蔵改め 玉造）。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九四三	昭和18	6/1~	四ツ橋文楽座	生写朝顔日記 通し狂言	宇治川の段（長尾＝清八）、秋月弓之助閑居の段（中 叶＝友造／叶太郎、切 重＝広助）、明石船別れの段（宮城阿曾次郎一浜・娘深雪一文字／宮・船頭一松島＝燕三／市治郎・ツレ 団作）、浜松小家の段（口 つばめ＝仙三郎//隅若＝徳若、奥 相生＝吉五郎）、島田駅笑葉の段（中 富＝団伊三//八十＝仙松、次 七五三＝綱造）、奥座敷の段（織＝団六・琴 勝太郎//南部＝重造・琴 錦糸）、大井川の段（源＝勝太郎//雛＝錦糸）。 ※6月13日「浜松の段」ラジオ中継放送（「朝日新聞（大阪）」「朝日新聞（東京）」（6月13日））。	宮城阿曾次郎・駒沢次郎左衛門（亀松／光造）、娘深雪・朝顔実は娘深雪（光造／亀松）、乳母浅香（栄三郎）、萩野祐仙（玉助）、岩代多喜太（玉徳）、戎屋徳右衛門（政亀）。
△	一九四三	昭和18	ラジオ放送	生写朝顔話	大井川の段（重、他）。 ※「朝日新聞（大阪）」「毎日新聞（大阪）」（6月26日）に拠る。	
	一九四三	昭和18	東京 新橋演舞場	生写朝顔日記	宿屋の段（駒沢次郎左衛門実は宮城阿曾次郎一織・朝顔実は娘深雪一南部／伊達・岩代多喜太一七五三・下女おなべー宮／越名・戎屋徳右衛門一相生／呂＝観西翁・琴勝太郎）、大井川の段（呂賀改め 松＝友衛門／松之輔）。	駒沢次郎左衛門実は宮城阿曾次郎（光造）、朝顔実は娘深雪（紋十郎）、岩代多喜太（玉徳）、戎屋徳右衛門（小兵吉）。
△	一九四四	昭和19	東京 寿々本	（生写朝顔話）	宿屋（緑＝猿若）。 ※義太夫特選会。 ※『浄瑠璃月報』第83号に拠る。	
	一九四四	昭和19	四ツ橋文楽座	生写朝顔話	宿屋の段（南部＝寛治郎・琴 寛弘）、大井川の段（雛＝仙糸）。	駒沢次郎左衛門実は宮城阿曾次郎（光造）、朝顔実は娘深雪（紋十郎）、岩代多喜太（玉徳）、戎屋徳右衛門実は古部三郎兵衛（小兵吉）。
△	一九四四	昭和19	ラジオ放送	生写朝顔話	宿屋の段（南部、他）。 ※「朝日新聞（東京）」（8月20日）に拠る。	
△	一九四四	昭和19	神戸 八千代劇場	生写朝顔話	宿屋の段、大井川の段。 ※「神戸新聞」（8月19・24日の広告）に拠る。	
△	一九四四	昭和19	名古屋 御園座	生写朝顔話	宿屋の段（南部＝寛治郎、源＝吉三郎）。 ※『御園座七十年史』、「中部日本新聞」（9月27日の記事、9月26～30日・10月2～4・6～7日の広告）に拠る。	深雪（文五郎）。
	一九四五	昭和20	朝日会館	生写朝顔日記	宿屋の段（切 相生＝吉五郎・琴 寛弘）、大井川の段（源＝友平）。 ※第1回復興公演。 ※桐竹亀松2日目より休演、朝顔を桐竹紋十郎が代演。吉田栄三郎初日休演、阿曾次郎を桐竹紋太郎が代演。	阿曾次郎（栄三郎）、朝顔（亀松）、岩代多喜太（玉徳）、戎屋徳右衛門（門造）。
	一九四五	昭和20	四ツ橋文楽座	生写朝顔話	宿屋より大井川の段（中 つばめ＝勝太郎、次 住＝重造、切 古鞆＝清六・琴 寛弘）。 ※第3回演劇教室。	駒沢次郎左衛門（光造）、朝顔（文五郎）、萩野祐仙（玉助）、岩代多喜太（玉市）、戎屋徳右衛門（門造）。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九四五	昭和20	11/16~21	神戸 八千代劇場	生写朝顔噺 宿屋の段、大井川の段。 ※「神戸新聞」(11月16・21日の広告)に拠る。	朝顔(文五郎)。
△	一九四五	昭和20	12/20	松阪市 松阪劇場	生写朝顔話 宿屋の段。 ※「伊勢新聞」(12月15・19日)に拠る。	(不明)
△	一九四六	昭和21	2/19	ラジオ放送	朝顔日記 宿屋の段より大井川まで(相生、他)。 ※「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」(2月19日)に拠る。	
△	一九四六	昭和21	6/1~	地方公演 (中国・九州)	(生写朝顔話) 宿屋(呂=友衛門・琴寛弘)。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	宮城(玉徳)、朝顔(文五郎)、岩代(亀三)、徳右衛門(紋太郎)。
	一九四六	昭和21	8/4~18	四ツ橋文楽座	生写朝顔話 宿屋の段(中つばめ=勝太郎、次住=重造、切古鞆=清六・琴寛弘)。 ※8月4日に第3回毎日演劇教室開催(『松竹百年史』、「毎日新聞(大阪)」(8月4日の記事、7月29日の広告))。	駒沢次郎左衛門(光造)、娘朝顔(文五郎)、萩野祐仙(玉助)、岩城多喜太(玉市)、戎屋徳右衛門(門造)。
△	一九四六	昭和21	11/26	島根 出雲劇場	生写朝顔話 船別れの段、宿屋の段、大井川の段。 ※「島根新聞」(11月20日の記事、11月22・24日の広告)に拠る。	深雪(栄三郎)。
	一九四七	昭和22	2	地方公演 (東海)	生写朝顔話 宿屋より大井川の段(切呂=友衛門・琴寛弘)。	宮城阿曾次郎(玉徳)、朝顔(文五郎)、岩代多喜太(亀三)、戎屋徳右衛門(紋太郎)。
△	一九四七	昭和22	6/30	愛媛 八幡浜劇場	生写朝顔日記 宿屋の段(伊達=喜左衛門・琴重造)、大井川の段(宮=吉三郎)。 ※四国巡業(6月25~30日)の内。6月25日香川・丸亀劇場、6月26日愛媛・仁尾松栄座で同公演あり。 ※「愛媛新聞」(6月23・26日の広告)、「四国新聞」(6月23日の広告)に拠る。	(不明)
	一九四七	昭和22	7/26~27	和歌山 和歌山会館	生写朝顔話 宿屋より大井川の段(切相生=吉五郎・琴寛弘)。 ※柿茸落し(『文楽因会三和会興行年表』)。	宮城阿曾次郎(玉助)、朝顔(紋十郎)、岩代多喜太(紋昇)、戎屋徳右衛門(門造)。
	一九四七	昭和22	8/1~21	四ツ橋文楽座	生写朝顔話 宿屋の段(松=綱造・琴寛弘)、大井川の段(越名=清二郎)。 ※鶴沢清二郎休演、鶴沢重造が代演(『松竹百年史』)。 ※千種楽は『松竹百年史』に拠る。ただし「朝日新聞(大阪)」8月10日の広告では、千種楽を20日とする。	宮城阿曾次郎(玉助)、駒沢次郎左衛門(亀松)、朝顔(文五郎)、娘朝顔(文五郎)、萩野祐仙(玉助)、岩城多喜太(玉市)、戎屋徳右衛門(門造)。
	一九四七	昭和22	9/26~10/1	東京 東京劇場	生写朝顔話 宿屋の段(伊達=喜左衛門・琴寛弘)、大井川の段(七五三=重造)。	駒沢次郎左衛門(栄三郎)、朝顔(文五郎)、娘朝顔(文五郎)、萩野祐仙(玉助)、岩城多喜太(玉市)、戎屋徳右衛門(門造)。

「生写朝顔話」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
一九四八	昭和23	3/2~12	地方公演 (中国・四国)	生写朝顔話	宿屋の段(切呂=松之輔・琴寛弘)、大井川の段(七五三=市治郎)。	駒沢次郎左衛門(紋太郎)、朝顔実は娘深雪(光造)、岩代多喜太(亀三)、戎屋徳右衛門(玉徳)。	
一九四八	昭和23	3/18~19	奈良 友楽座	生写朝顔話	宿屋の段(切呂=松之輔・琴寛弘)、大井川の段(七五三=市治郎)。	駒沢次郎左衛門(紋太郎)、朝顔実は娘深雪(光造)、岩代多喜太(亀三)、戎屋徳右衛門(玉徳)。	
△	一九四八	昭和23	5/29	富山 富山座	朝顔	※「富山新聞」(5月23日の広告)に拠る。	(不明)
△	一九四八	昭和23	6/29	ラジオ放送	朝顔	(伊達、他)。 ※「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」(6月29日)に拠る。	
△	一九四八	昭和23	7/1~6	名古屋 御園座	生写朝顔話	宿屋より大井川まで(伊達=喜左衛門・琴寛弘)。	駒沢次郎左衛門(亀松)、朝顔(紋十郎)、岩代多喜太(紋昇)、戎屋徳右衛門(玉徳)。
△	一九四八	昭和23	7/16	浜松 江東劇場	生写朝顔日記	宿屋より大井川(伊達)。 ※東海巡業(7月13~16日)の内。 ※「浜松民報」(7月21日の記事、7月16日の広告)に拠る。	(不明)
△	一九四八	昭和23	7/28	妙像寺	朝顔日記	舟別れの段(織部=市治郎)。 ※文楽新人浄瑠璃会。	
△	一九四八	昭和23	8/6~12	京都 南座	生写朝顔話	宿屋笑葉の段(中宮=市治郎/錦糸、次住=吉五郎改吉兵衛)、奥座敷より大井川の段(山城少掾=清六・琴寛弘)。 ※5日初日のところ、私鉄ストのため6日初日(『昭和の南座資料編(中)』、「京都新聞」(8月5日の広告)、『文楽因会三和会興行年表』)。	駒沢次郎左衛門(亀松)、朝顔実は深雪(文五郎)、萩野祐仙(玉助)、岩代多喜太(紋昇)、戎屋徳右衛門(玉徳)。
△	一九四九	昭和24	3/3~30	地方公演 (九州) 〈組合〉	生写朝顔日記	宿屋の段(綱=弥七)、大井川の段(越名=吉三郎)。	駒沢次郎左衛門(国五郎)、深雪実は朝顔(紋十郎)、岩代多喜太(玉徳)、戎屋徳右衛門(紋太郎)。
△	一九四九	昭和24	4/15	淡路 湊劇場 〈因会〉	生写朝顔話	宿屋より大井川の段まで(雛=新三郎・琴清友)。	宮城阿曾次郎実は駒沢次郎左衛門(玉男)、朝顔実は深雪(紋司)、岩代多喜太(登一)、戎屋徳右衛門(兵次)。
△	一九四九	昭和24	4/21~23	地方公演 (中部) 〈因会〉	朝顔日記	※「静岡新聞」(4月19・21日の広告)に拠る。	(不明)
△	一九四九	昭和24	7/3	(不明) 〈因会〉	(生写朝顔話)	浜松小屋、笑葉。 ※山城会。 ※『文楽因会三和会興行記録』に拠る。	
△	一九四九	昭和24	8/22	北海道 函館宝劇 〈因会〉	生写朝顔日記	宿屋の段(綱=弥七・琴清友)、大井川の段(松=八造)。 ※東北・北海道巡業(8~9月)の内。9月12日仙台・東北劇場で同公演あり。	駒沢治郎左衛門(玉助)、娘深雪(光造)、岩代多喜太(登一)、戎屋徳右衛門(玉市)。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九四九	昭和24	9/12~14	松坂屋会館 〈組合〉	生写朝顔日記	船別れの段（阿曾次郎一司・深雪一英／呂賀・船頭一呂賀／英＝燕三）、浜松の段（深雪一越名・浅香一つばめ・吉兵衛一松島・里の子一呂賀・里の子一古住＝錦糸）、宿屋の段より大井川まで（呂＝寛治郎・琴 寛弘）。 ※大阪第1回自力公演（『文楽興行記録昭和篇』）。	阿曾次郎（紋三郎）、駒沢（玉徳）、深雪（紋之助）、朝顔（紋十郎）、浅香（紋十郎）、岩代（作十郎）、徳右衛門（紋太郎）。
△	一九四九	昭和24	和歌山 日の出映画劇場 〈組合〉	朝 顔 日 記	宿屋の段（前 源＝友衛門・琴 寛弘、後 越名＝勝太郎）。 ※新宮市警察署庁舎落成記念興行。 ※「紀南新聞」（9月27日の広告）に拠る。	
△	一九四九	昭和24	東京 帝国 劇場 〈因会〉	生 写 朝 顔 話	船別れの段（宮＝八造）、宿屋より大井川まで（相生＝松之輔・琴 清友）。	宮城阿曾次郎・駒沢治郎左衛門（玉男）、娘深雪・朝顔（光造）、岩代多喜太（登一）、戎屋徳右衛門（玉市）。
△	一九四九	昭和24	高知 堀 詰 座 〈組合〉	生写朝顔日記	宿屋より大井川まで。 ※「高知新聞」（10月2・8・14日の広告）に拠る。	
△	一九五〇	昭和25	ラジオ放送 〈因会〉	朝 顔 話	宿屋の段（相生）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」（4月19日）に拠る。	
	一九五〇	昭和25	四ツ橋文楽座 〈因会〉	生 写 朝 顔 話	島田駅宿屋笑葉の段（中 織の＝寛弘、次 隅若改め 静＝友十郎）、奥座敷の段（駒沢実は阿曾次郎一相生・朝顔実は深雪一雛・岩代多喜太一津・下女おなべ一相次・徳右衛門一大隅＝松之輔・琴 清友）、大井川の段（宮／長子＝八造）。	駒沢次郎左衛門実は宮城阿曾次郎（亀松）、朝顔実は深雪（栄三）、萩野祐仙（玉助）、岩代多喜太（玉男）、戎屋徳右衛門（玉市）。
	一九五〇	昭和25	東京 三 越 劇場 〈組合〉	生写朝顔日記	明石浦舟別れの段（宮城阿曾次郎一古住・娘深雪一呂賀＝市治郎）、浜松非人小舎の段（浅香一つばめ・朝顔実は深雪一源・輪抜吉兵衛一松島・子供一呂賀・子供一古住＝友衛門）、笑葉の段（口 松島＝一郎右衛門、奥 住＝吉兵衛）、宿屋の段（伊達＝清二郎・胡弓 錦糸）、大井川の段（七五三＝叶太郎）。 ※『文楽興行記録昭和篇』では「宿屋の段」野沢錦糸は「琴」。	阿曾次郎（紋三郎）、駒沢次郎左衛門（玉徳）、深雪（紋之助）、朝顔（浜松＝紋之助）、宿屋・大井川＝紋十郎）、浅香（紋十郎）、萩野祐仙（紋昇）、岩城多喜太（作十郎）、戎屋徳右衛門（紋太郎）。
	一九五〇	昭和25	名古屋 名古屋合唱団 ホール 〈組合〉	朝 顔	宿屋の段（伊達＝喜左衛門・琴 一郎右衛門）、大井川の段（源＝勝太郎）。	駒沢（玉徳）、朝顔（紋十郎）、岩代（作十郎）、徳右衛門（紋太郎）。
△	一九五〇	昭和25	倉敷 松 竹 劇場 〈組合〉	生写朝顔日記	船別れの段、宿屋の段、大井川の段。 ※「山陽新聞」「夕刊岡山」（8月7日の広告）、『三和会公演控』、『文楽因会三和会興行記録』に拠る。	（不明）
	一九五〇	昭和25	名古屋 御 園 座 〈因会〉	生 写 朝 顔 話	宿屋の段（切 相生＝松之輔・琴 寛弘）、大井川の段（雛＝清友／友十郎）。	阿曾次郎実は駒沢次郎左衛門（亀松）、朝顔実は深雪（文五郎）、岩代多喜太（兵次）、戎屋徳右衛門（登一）。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九五〇	昭和25	10/4	ラジオ放送 〈因会〉	朝 顔 日 記 浜松小屋（相次・織部、他）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「読売新聞」（10月4日）に拠る。	
△	一九五〇	昭和25	10/8	兵庫 洲 本 劇 場 〈三和会〉	生写朝顔日記 宿屋より大井川まで。 ※「神戸新聞（淡路版）」（10月4日）、『三和会公演控』、『文楽因会三和会興行記録』に拠る。	（不明）
	一九五一	昭和26	1/15	西宮 日 芸 会 館 〈三和会〉	生 写 朝 顔 話 宿屋の段・大井川の段（前 呂改め 若＝綱造・琴 錦糸、後 七五三＝吉三郎）。 ※呂太夫改め十世豊竹若太夫襲名披露。	宮城阿曾次郎事駒沢次郎左衛門（玉徳）、朝顔（紋十郎）、岩代多喜太（紋昇）、亭主徳右衛門（紋太郎）。
△	一九五一	昭和26	1/31	ラジオ放送 〈三和会〉	朝 顔 笑葉（住、他）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」（1月31日）に拠る。	
△	一九五一	昭和26	3/10	富山 富 山 座 〈三和会〉	新版朝顔日記 宿屋より大井川まで。 ※3月11日高岡・歌舞伎座、3月14日金沢・北国第一劇場、3月15日小松・日本館で同公演あり。 ※「富山新聞」（3月8・10日の広告）、「北日本新聞」（3月6～7日の広告）、「北国新聞」（3月7・15日の広告）、「石川新聞」（3月4・14日の広告）に拠る。	（不明）
			3/16	福井 国 際 劇 場 〈三和会〉	朝 顔 日 記 宿屋の段。 ※北陸巡業（3月10～16日）の内。 ※「福井新聞」（3月16日、3月6・15日の広告）に拠る。	（不明）
	一九五一	昭和26	3/23	西 元 寺 〈三和会〉	生 写 朝 顔 噺 浜松小屋の段（織部＝錦糸）。 ※双葉会第1回公演。	
△	一九五一	昭和26	3/30	大津 大 映 〈三和会〉	生写朝顔日記 宿屋より大井川まで。 ※若太夫襲名披露。 ※ポスターに拠る。	（不明）
			4/8	鹿児島 日 本 劇 場 〈三和会〉	宿屋より大井川まで（伊達＝喜左衛門・琴 勝太郎、後 七五三＝叶太郎）。 ※兵庫・四国・九州巡業（3月19日～4月11日）の内。4月7日宮崎・孔雀劇場（役割不明）で同公演あり。 ※孔雀劇場分は「日向日日新聞」（4月1日の記事と広告）に拠る。	阿曾次郎事駒沢次郎左衛門（紋昇）、朝顔（紋十郎）、岩代多喜太（作十郎）、徳右衛門（玉徳）。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
△	一九五一	昭和26	5/1	彦根 真盛座 〈三和会〉	生写朝顔日記	宿屋の段（伊達＝喜左衛門）、大井川の段（源＝吉三郎）。 ※北陸巡業（5月1日～）の内。5月2日大垣市・日本劇場（宿屋、役割不明）、5月6日松本・松本市第二公民館、5月19日仙台・仙台劇場で同公演あり。 ※「滋賀新聞」（4月29日の広告）、『三和会公演控』、『文楽因会三和会興行記録』、「東海夕刊」（5月1～2日の広告）、「岐阜タイムス」（5月1日の広告）、「河北新報」（5月13日の記事、5月18日の広告）、「東北日報」（5月19日の広告）、「夕刊とうほく」（5月14日の広告）に拠る。	駒沢（玉徳）、朝顔（紋十郎）、岩代（紋昇）、亭主（駒三郎）。
	一九五一	昭和26	5/17～31	四ツ橋文楽座 〈因会〉	生写朝顔話	宿屋の段（切綱＝清二郎・琴寛弘）、大井川の段（宮＝友十郎//越名＝錦糸）。 ※松竹創立30周年記念。 ※千穂楽は『松竹百年史』に拠る。	駒沢次郎左衛門実は宮城阿曾次郎（玉五郎）、朝顔実は娘深雪（栄三）、岩代の多喜太（玉男）、戎屋徳右衛門（玉市）。
	一九五一	昭和26	7/3～10	三越劇場 〈三和会〉	生写朝顔日記	明石浦舟別れの段（阿曾次郎一古住・深雪一呂賀・船頭一伊達路＝燕三）、宿屋より大井川まで（伊達＝喜左衛門・琴勝太郎）。 ※7月29日ラジオ放送（「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」（7月29日））。	宮城阿曾次郎・駒沢次郎左衛門（玉徳）、娘深雪・朝顔実は深雪（紋十郎）、岩代多喜太（作十郎）、戎屋徳右衛門（駒三郎）。
△	一九五一	昭和26	7/28	岐阜 岐阜市公会堂 〈三和会〉	生写朝顔日記	宿屋より大井川の段。 ※東海巡業（7月20～28日）の内。7月24日横浜・神奈川体育館で同公演あり。 ※「東海夕刊」（7月24・29日の記事、7月24日の広告）、「岐阜タイムス」（7月28～29日の記事、7月24日の広告）、「神奈川新聞」（7月21日）、『三和会公演控』、『文楽因会三和会興行記録』に拠る。	（不明）
△	一九五一	昭和26	8/5～7	京都 宮川町歌舞練場 〈三和会〉	生写朝顔日記	明石浦、浜松小屋、笑葉、宿屋（伊達＝喜左衛門・琴勝平）、大井川。 ※第3回京都公演。桐竹紋昇二代桐竹勘十郎襲名披露。 ※「都新聞」（8月6日）に拠る。	（不明）
	一九五一	昭和26	8/17～21	京都 南座 〈因会〉	生写朝顔話	宿屋奥座敷の段（阿曾次郎後に駒沢一雛・朝顔実は娘深雪一松・岩代多喜太一長子・おなべー織部／織の・徳右衛門一河内・若侍一織の／織部＝豊助・琴寛弘）、大井川の段（越名＝友十郎）。 ※京都文楽会結成第1回記念公演（「都新聞」8月11日の広告）。	駒沢実は宮城阿曾次郎（玉男）、朝顔実は娘深雪（亀松）、岩代多喜太（兵次）、亭主徳右衛門（玉市）。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
一九五一	昭和26	9/21	京都 宮津劇場 〈三和会〉	朝顔日記	宿屋の段（伊達＝喜左衛門・琴勝平）。 ※丹後・山陰・山陽・九州巡業（9月19日～10月14日）の内。9月23日鳥取・大黒座、10月2日小倉市・日活館（場割・役割不明）で同公演あり。 ※大黒座分は「日本海新聞」（9月22日の広告）、『三和会公演控』、『文楽因会三和会興行記録』、日活館分は「西日本新聞（地方版）」（9月30日の広告）に拠る。	駒沢（玉徳）、朝顔（紋十郎）、岩代（作十郎）、徳右衛門（駒三郎）。	
一九五二	昭和27	5/25	京都 京都府立鴨沂高等学校講堂 〈三和会〉	生写朝顔話	大序 大内館より松原まで（若＝綱造）、宇治川蚩狩の段（つばめ＝市治郎）、真葛ヶ原の段（源＝叶太郎）、岡崎隠家の段（住＝勝太郎）、明石船別れの段（阿曾次郎－古住・深雪－呂賀・船頭－伊達路＝燕三・琴勝平）、浜松小屋の段（深雪－伊達・浅香－源・子供－呂賀・子供－伊達路・輪抜－松島＝喜左衛門）、笑葉の段（住＝勝太郎）、宿屋の段（若＝綱造・琴勝平）、大井川の段（伊達＝喜左衛門）。 ※NHK公開録音。		
△	昭和27	6/11	ラジオ放送 〈三和会〉	生写朝顔話	（つばめ）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」（6月11日）に拠る。		
		6/18			（源）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」（6月18日）に拠る。		
		6/25			（住）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」（6月25日）に拠る。		
		7/2			明石船別れ（古住）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「読売新聞」（7月2日）に拠る。		
		7/9			浜松小屋（伊達・源、他）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「読売新聞」（7月9日）に拠る。		
		7/16			笑葉（住）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「読売新聞」（7月16日）に拠る。		
		7/30			大井川（伊達、他）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「読売新聞」（7月30日）に拠る。		
△	一九五二	昭和27	6/25	茨城 茨城会館 〈因会〉	生写朝顔日記	宿屋より大井川まで。 ※「いはらき」（6月24～26日の記事、6月24日の広告）に拠る。	（不明）

「生写朝顔話」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九五二	昭和27	7/5~8	東京 新橋演舞場 〈因会〉	生写朝顔話	船別れの段（阿曾次郎一織の・深雪一織部・船頭一弘＝清友）、宿屋の段（駒沢一綱・朝顔一越名改め 南部・岩代一静・おなべー相生・若侍一弘・徳右衛門一相生＝豊助・琴 寛弘）、大井川の段（長子／宮＝吉三郎）。	駒沢実は阿曾次郎（玉男）、深雪・朝顔実は深雪（亀松）、岩代多喜太（兵次）、戎屋徳右衛門（玉市）。
一九五二	昭和27	8/20~24	四ツ橋文楽座 〈因会〉	生写朝顔話	宿屋の段より大井川の段。 ※女義太夫合同公演。文楽座人形特別出演。	駒沢次良左衛門（玉男）、朝顔（文五郎）、岩代多喜太（登一）、戎屋徳右衛門（紋太郎）。
一九五二	昭和27	9/2~11	中 座 〈因会〉	生写朝顔話	島田宿笑葉の段（中 織の＝寛弘、次 津＝寛治郎）、宿屋奥座敷の段（切 山城少掾＝藤蔵・琴 寛弘）、大井川の段（多満＝錦糸）。 ※近松門左衛門生誕三百年記念公演。	駒沢次郎左衛門（栄三）、朝顔（宿屋＝文五郎、大井川＝玉五郎）、萩の祐仙（玉助）、岩代多喜太（兵次）、戎屋徳右衛門（玉市）。
一九五二	昭和27	9/24	呉市 本願寺会館 〈三和会〉	生写朝顔日記	宿屋より大井川まで（伊達＝喜左衛門・琴 友若）。	（不明）
一九五二	昭和27	9/28	山口 旧防府商業学校 講堂 〈三和会〉	生写朝顔日記	（前 若＝市治郎、後 伊達＝喜左衛門）。	駒沢（辰五郎）、朝顔（紋十郎）、岩代（作十郎）、徳右衛門（要助）。
△ 一九五二	昭和27	10/21	大分 東映劇場 〈三和会〉	（生写朝顔話）	宿屋（伊達＝喜左衛門・琴 友若）。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	（不明）
一九五三	昭和28	3/30~31	兵庫 広畑旧青年学校 〈因会〉	生写朝顔話	宿屋の段（切 綱＝弥七）、大井川の段（南部＝吉三郎）。 ※富士製鉄創立広畑再操業3周年記念。	駒沢次郎左衛門（玉助）、朝顔（亀松）、岩代多喜太（兵次）、戎屋徳右衛門（玉市）。
一九五三	昭和28	4	地方公演 （中国・九州） 〈因会〉	生写朝顔話	宿屋の段（松＝吉三郎・琴 寛弘）、大井川の段（南部＝八造）。	駒沢治郎左衛門（玉五郎）、朝顔（栄三）、岩代多喜太（登一）、徳右衛門（玉市）。
一九五三	昭和28	6/2~7	東京 三越劇場 〈三和会〉	生写朝顔日記	宿屋より大井川まで（伊達＝喜左衛門・琴 勝平）。	駒沢次郎左衛門（紋之助）、朝顔（紋十郎）、岩代多喜太（作十郎）、戎屋徳右衛門（紋市）。
一九五三	昭和28	8/7~16	京都 南 座 〈因会〉	生写朝顔話	宿屋の段（切 相生＝松之輔・琴 寛弘）、大井川の段（雛＝八造）。	阿曾次郎実は駒沢次郎左衛門（玉男）、朝顔実は深雪（栄三）、岩代多喜太（兵次）、徳右衛門（玉市）。
一九五三	昭和28	8/22~27	三越劇場 〈三和会〉	生写朝顔日記	宿屋の段（伊達＝喜左衛門・琴 勝平）、大井川の段（源＝燕三）。	駒沢次郎左衛門（辰五郎）、朝顔実は深雪（紋十郎）、岩代多喜太（勘十郎）、戎屋徳右衛門（紋市）。
一九五三	昭和28	9/16~20	神戸 仏教会館 〈三和会〉	生写朝顔日記	宿屋の段（伊達＝喜左衛門・琴 勝平）。	駒沢（勘十郎）、朝顔（紋十郎）、岩代（作十郎）、徳右衛門（紋市）。
一九五三	昭和28	9/25	池田 池田市公会堂 〈因会〉	生写朝顔話	宿屋より大井川まで。	（不明）

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九五三	昭和28	10/11	神戸 神戸市立本山第一小学校 〈三和会〉	(生写朝顔話) 宿屋(伊達=喜左衛門・琴 勝平)。 ※奈良・和歌山巡業(10月10~18日)の内。 ※『三和会公演控』、『文楽因会三和会興行記録』に拠る。	(不明)
△	一九五三	昭和28	10/31	横浜 横浜会員会館ホール 〈三和会〉	朝 顔 日 記 ※東海道巡業の内。 ※「神奈川新聞」(10月23日)に拠る。	(不明)
	一九五四	昭和29	4/6	佐賀 北方会館 〈三和会〉	生写朝顔日記 宿屋の段(若=喜左衛門・琴 勝平)。※中国・九州巡業(3月20日~4月11日)の内。3月20日姫路・姫路市公会堂(場割・役割不明)、3月21日広島・福山市公会堂(場割・役割不明)、4月8日熊本・歌舞伎座(琴・人形役割不明)で同公演あり。 ※姫路市公会堂分は「神戸新聞(姫路版)」(3月13・21日)、福山市公会堂分は『文楽興行記録昭和篇』、熊本・歌舞伎座分は「熊本日日新聞」(4月7日の記事、4月5日の広告)に拠る。	駒沢次郎左衛門(紋之助)、朝顔実(深雪(紋十郎)、岩代多喜太(作十郎)、戎屋徳右衛門(紋市))。
	一九五四	昭和29	4/20~5/20	地方公演 (東海・東北・関東) 〈三和会〉	生写朝顔日記 宿屋より大井川まで(切 若=喜左衛門・勝平)。	駒沢次郎左衛門(勘十郎)、朝顔実(深雪(紋十郎)、岩代多喜太(作十郎)、戎屋徳右衛門(紋市))。
	一九五四	昭和29	6/6~10	東京 新橋演舞場 〈因会〉	生 写 朝 顔 話 宿屋より大井川まで(松=清六・琴 寛弘)。	宮城阿曾次郎(紋太郎)、朝顔実(深雪(亀松)、岩代多喜太(兵次)、亭主徳右衛門(玉市))。
	一九五四	昭和29	7/1~6	京都 南 座 〈因会〉	生 写 朝 顔 話 宿屋より大井川の段(松=清六・琴 寛弘)。	宮城阿曾次郎実(駒沢次郎左衛門(玉男)、朝顔実(八娘深雪(亀松)、岩代多喜太(兵次)、戎屋徳右衛門(玉市))。
	一九五四	昭和29	7/13~15	名古屋 御 園 座 〈因会〉	生 写 朝 顔 話 宿屋より大井川の段(松=清六・琴 寛弘)。	宮城阿曾次郎実(駒沢次郎左衛門(玉男)、朝顔実(娘深雪(亀松)、岩代多喜太(兵次)、戎屋徳右衛門(玉市))。
△	一九五四	昭和29	7/19~21	地方公演 (東海) 〈因会〉	(生写朝顔話) 宿屋より大井川(松=清六・琴 寛弘)。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	駒沢(玉男)、朝顔(亀松)、岩代(兵次)、戎屋(玉市)。
	一九五四	昭和29	8/1~30	地方公演 (東海・北陸・東北・北海道) 〈因会〉	生 写 朝 顔 話 宿屋の段(伊達=八造・琴 寛弘)、大井川の段(南部=豊助)。	駒沢次郎左衛門実(宮城阿曾次郎(玉助)、朝顔実(深雪(栄三)、岩代多喜太(兵次)、亭主徳右衛門(玉市))。
△	一九五四	昭和29	8/21	奈良 奈良市庁別館 〈三和会〉	生写朝顔日記 ※「大和タイムス」(8月19日)に拠る。	

「生写朝顔話」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
一九五四	昭和29	9/4~16	四ツ橋文楽座 〈因会〉	生写朝顔話	宿屋より大井川まで（伊達＝松之輔・琴 寛弘）。	駒沢次郎左衛門（玉男）、朝顔実は深雪（亀松）、岩代多喜太（兵次）、亭主徳右衛門（紋太郎）。	
△	一九五四	昭和29	9/13	伊勢崎市 伊勢崎市公民館 〈三和会〉	生写朝顔日記	宿屋より大井川まで。 ※東海・関東・上越巡業（9月4～22日）の内。9月14日前橋市・群馬会館、9月21日甲府市・中央劇場、9月22日諏訪市・諏訪市民会館で同公演あり。 ※「上毛新聞」（9月13日の広告）、『三和会公演控』、『文楽因会三和会興行記録』に拠る。	（不明）
	一九五四	昭和29	9/30	広島 新市劇場 〈三和会〉	生写朝顔日記	宿屋・大井川の段（切 若＝喜左衛門・琴 勝平、後 呂賀＝叶太郎）。 ※中国巡業（9月29日～10月3日）の内。10月1日岡山・葦川会館（後の役割不明）で同公演あり。	駒沢次郎左衛門（紋之助）、朝顔（紋十郎）、岩代多喜太（作十郎）、戎屋徳右衛門（紋市）。
	一九五四	昭和29	9/30~10/4	四ツ橋文楽座 〈因会〉	生写朝顔話	宿屋より大井川まで。 ※人形浄瑠璃女義太夫大顔合せ特別公演。文楽座人形全員総出演。	宮城阿曾次郎（玉男）、朝顔実は深雪（文五郎）、岩代多喜太（兵次）、亭主徳右衛門（紋太郎）。
△	一九五四	昭和29	11/22	金沢市 北国第一劇場 〈三和会〉	生写朝顔日記	宿屋より大井川まで。 ※北陸巡業（11月20～24日）の内。11月24日福井・福井市公会堂で同公演あり。 ※「北国新聞」（11月21日の記事、11月18・21日の広告）、「福井新聞」（11月18・24日の記事、11月12・14・22日の広告）に拠る。	（不明）
	一九五四	昭和29	11/25	大槻能楽堂 〈合同〉	生写朝顔話	宿屋より大井川まで（松＝清六・琴 清治）。 ※第9回文部省芸術祭文楽合同素浄瑠璃会。	
	一九五四	昭和29	11/28	東京 東横ホール 〈合同〉	生写朝顔話	宿屋より大井川まで（松＝清六・琴 清治）。 ※第9回文部省芸術祭文楽合同公演。素浄瑠璃。	
	一九五四	昭和29	12/17~19	神戸 八千代座 〈因会〉	生写朝顔話	宿屋の段より大井川の段まで（伊達＝八造・琴 寛弘）。	宮城阿曾次郎実は駒沢次郎左衛門（玉男）、朝顔実は娘深雪（亀松）、岩代多喜太（兵次）、亭主徳右衛門（紋太郎）。
△	一九五五	昭和30	2/3~22	地方公演 （中国・九州） 〈因会〉	（生写朝顔話）	宿屋より大井川（伊達＝八造・琴 寛弘）。 ※朝顔の人形役割については未詳。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	駒沢（玉助）、朝顔（文五郎、亀松）、岩代（玉男）、戎屋（兵次）。
△	一九五五	昭和30	3/16~23	地方公演 （東海・東北） 〈因会〉	（生写朝顔話）	宿屋（伊達＝八造）、大井川。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	（不明）
	一九五五	昭和30	5/24	産経会館 〈合同〉	生写朝顔話	宿屋の段（綱＝弥七・琴 寛弘）、大井川の段（伊達＝八造）。 ※NHK大阪開局30周年記念。	駒沢次郎左衛門（玉助）、朝顔実ハ深雪（宿屋＝栄三、大井川＝文五郎）、岩代多喜太（玉男）、戎屋徳右衛門（玉市）。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九五五	昭和30	5/25	和歌山 海南警察 〈三和会〉	(生写朝顔話) 宿屋(つばめ=喜左衛門)、大井川(源=叶太郎)。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	朝顔(紋十郎)。
	一九五五	昭和30	5/25~26	和歌山 和歌山市民会館 〈因会〉	生写朝顔日記 宿屋より大井川の段まで(伊達=八造・琴 寛弘)。	宮城阿曾次郎(玉昇)、朝顔実(深雪(亀松)、岩代多喜太(兵次)、亭主徳右衛門(淳造))。
	一九五五	昭和30	5	地方公演 (九州) 〈因会〉	生写朝顔話 宿屋の段より 大井川の段まで 宿屋の段(伊達=藤蔵)、大井川の段(南部=錦糸)。 ※役割変更前の予定は「宿屋の段(松=清六)、大井川の段(南部=松之輔)」(節書)。	宮城阿曾次郎後二駒沢次郎左衛門(紋太郎)、深雪(宿屋=亀松、大井川=文五郎)、岩代多喜太(兵次)、戎屋徳兵衛(常次)。
	一九五五	昭和30	6/7~26	四ツ橋文楽座 〈因会〉	生写朝顔話 宿屋の段(切 山城少掾=藤蔵・琴 寛弘)、大井川の段(伊達=八造)。 ※千穂楽は『文楽興行記録昭和篇』に拠る。	阿曾次郎実ハ駒沢次郎左衛門(玉男)、朝顔実ハ深雪(前=文五郎、後=栄三)、岩代多喜太(淳造)、亭主徳右衛門(兵次)。
	一九五五	昭和30	6/10~18	東京 三越劇場 〈三和会〉	生写朝顔日記 宿屋より大井川まで(切 若=綱造・ツレ 勝平、後 源=叶太郎)。	駒澤(辰五郎)、朝顔実ハ深雪(紋十郎)、岩代(作十郎)、徳右衛門(国秀)。
△	一九五五	昭和30	6/22	新潟 新潟劇場 〈三和会〉	(生写朝顔話) 宿屋(若=燕三・琴 勝平)。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	駒沢(紋之助)、朝顔(紋十郎)、岩代(紋二郎)、戎屋(紋市)。
	一九五五	昭和30	7/1~4	四ツ橋文楽座 〈因会〉	生写朝顔話 宿屋奥座敷の段、大井川の段。 ※人形浄瑠璃女義太夫合同公演。	阿曾次郎実ハ駒澤次郎左衛門(光次)、朝顔実ハ深雪(亀松)、岩代多喜太(常次)、亭主徳右衛門(兵次)。
	一九五五	昭和30	8/20~25	三越劇場 〈三和会〉	生写朝顔話 宿屋の段(若=綱造・琴 勝平)。	駒沢(辰五郎)、朝顔(紋十郎)、岩代(作十郎)、戎屋(紋市)。
△	一九五五	昭和30	10/22	兵庫 加古川市東高校 〈三和会〉	(生写朝顔話) 宿屋(源=叶太郎、呂=友若)。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	(紋十郎)、(辰五郎)。
△	一九五五	昭和30	12/24	徳島 弁天座 〈三和会〉	(生写朝顔話) 宿屋(源=叶太郎・琴 勝平)。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	駒沢(辰五郎)、朝顔(紋十郎)、徳右衛門(国秀)。
	一九五六	昭和31	2/1~4	四ツ橋文楽座 〈因会〉	生写朝顔話 宿屋奥座敷の段、大井川の段。 ※人形浄瑠璃女義太夫大合同公演。	駒沢次郎左衛門(玉男)、朝顔実(深雪(栄三)、岩代多喜太(兵次)、亭主徳右衛門(淳造))。
	一九五六	昭和31	2/14~19	東京 三越劇場 〈三和会〉	生写朝顔日記 宿屋ヨリ大井川迄(つばめ=勝太郎・琴 勝平)。 ※第3回若手勉強会。	駒沢次郎左衛門(紋弥)、朝顔(紋二郎)、岩代多喜太(小紋)、戎屋徳右衛門(紋寿)。
△	一九五六	昭和31	3/3	和歌山 グランド劇場 〈三和会〉	(生写朝顔話) 宿屋(源=叶太郎・琴 勝平)。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	(不明)

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九五六	昭和31	3/11	福岡 大博劇場 〈三和会〉	生写朝顔日記	宿屋より大井川まで（切 若=喜左衛門・琴 勝平、源=叶太郎）。	駒沢次郎左衛門（辰五郎）、朝顔実ハ深雪（紋十郎）、岩代多喜多（作十郎）、戎屋徳右衛門（紋市）。
△	一九五六	昭和31	4/12~14	神戸 神戸海員会館 〈三和会〉	（生写朝顔話） 宿屋。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	（不明）
△	一九五六	昭和31	4/23	愛知 豊橋市公会堂 〈三和会〉	（生写朝顔話） 宿屋（切 若=燕三・琴 勝平）、大井川（源=叶太郎）。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	駒沢（辰五郎）、朝顔（紋十郎）、岩代（作十郎）、戎屋（紋市）。
一九五六	昭和31	4/29~5/3	名古屋 毎日ホール 〈三和会〉	生写朝顔日記	宿屋の段（前 つばめ=喜左衛門・琴 勝平）、大井川の段（後 源=叶太郎）。 ※毎日ホール開館記念。 ※期間中、文楽教室として「大井川」を上演（『文楽興行記録昭和篇』）。	駒沢次郎左衛門（辰五郎）、朝顔実ハ深雪（紋十郎）、岩代多喜太（紋二郎）、戎屋徳右衛門（紋市）。
一九五六	昭和31	7/5~29	道頓堀文楽座 〈因会〉	生写朝顔話	宿屋奥座敷の段（朝顔実ハ深雪一伊達・宮城阿曾次郎後に駒沢次郎左衛門一雛・岩代多喜太一織の／十九・下女おなべー津の子／相子・戎屋徳右衛門一静／長子=八造・琴 清治）、大井川の段（南部=吉三郎／錦糸）。	駒沢次郎左衛門（玉助）、朝顔実ハ娘深雪（亀松）、岩代多喜太（兵次）、戎屋徳右衛門（玉市）。
△	一九五六	昭和31	8/19	貝塚市公会堂 〈三和会〉	（生写朝顔話） 宿屋（源=叶太郎・勝平）。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	駒沢（辰五郎）、朝顔（紋十郎）、徳右衛門（国秀）。
一九五六	昭和31	9/4~7	京都 祇園会館 〈三和会〉	生写朝顔日記	宿屋より大井川まで（切 若=綱造・琴 勝平）。 ※日程は『文楽興行記録昭和篇』に拠る。	駒沢（辰五郎）、深雪（紋十郎）、岩代（作十郎）、徳右衛門（紋市）。
一九五六	昭和31	9/28	下関 東宝劇場 〈三和会〉	生写朝顔日記	宿屋より大井川迄（切 源=叶太郎・琴 勝平）。	駒沢次郎左衛門（辰五郎）、朝顔実ハ深雪（勤十郎）、岩代多喜太（紋二郎）、戎屋徳右衛門（紋市）。
一九五六	昭和31	9/29	防府市 三洋会館 〈三和会〉	生写朝顔日記	宿屋より大井川迄（切 源=叶太郎・琴 勝平）。	駒澤次郎左衛門（辰五郎）、朝顔実ハ深雪（勤十郎）、岩代多喜太（紋二郎）、戎屋徳右衛門（紋市）。
一九五七	昭和32	6/11~16	東京 三越劇場 〈三和会〉	生写朝顔日記	浜松小屋の段（前 若子=勝平、深雪一小松・浅香一三和・吉兵衛一松島=市治郎）、宿屋より大井川まで（切 つばめ=喜左衛門・ツレ 勝平）。 ※初代桐竹紋十郎五十回忌追善公演。	駒沢（辰五郎）、朝顔実ハ深雪（浜松=紋二郎、宿屋=紋十郎）、浅香（勤十郎）、岩代（作十郎）、徳右衛門（国秀）。
△	一九五七	昭和32	11/10	豊中 大池小学校 〈三和会〉	（生写朝顔話） 宿屋より大井川（切 源=叶太郎・琴 勝平）。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	駒沢（辰五郎）、朝顔（紋之助）、岩代（作十郎）、徳右衛門（紋市）。
△	一九五七	昭和32	12/3~10	地方公演 （関東・東海） 〈三和会〉	（生写朝顔話） 宿屋より大井川（切 つばめ=喜左衛門・琴 勝平）。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	駒沢（紋之助）、朝顔（紋十郎）、岩代（紋二郎）、徳右衛門（紋市）。
一九五七	昭和32	12/14~15	神戸 神戸新聞会館 〈三和会〉	生写朝顔日記	宿屋（切 源=叶太郎・琴 友若、後 小松=勝平）。	駒沢次郎左衛門（助十郎）、朝顔実ハ深雪（紋十郎）、岩代多喜太（紋二郎）、戎屋徳右衛門（紋市）。

「生写朝顔話」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九五八	昭和33	2/7~9	姫路 やまと会館 〈三和会〉	(生写朝顔話) 笑葉(前 松島=仙次郎、後 住=勝太郎)、宿屋(切 つばめ=喜左衛門・琴 勝平)、大井川(小松=勝平)。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	駒沢(辰五郎)、朝顔(紋十郎)、祐仙(勘十郎)、岩代(紋二郎)、徳右衛門(国秀)。
△	一九五八	昭和33	4/16~19	地方公演 (四国) 〈因会〉	(生写朝顔話) 宿屋(相生=松之輔・琴 団六)、大井川(織の=吉三郎)。 ※吉田栄三不参加、朝顔の代役吉田文雀(『文楽興行記録昭和篇』)。 ※日程は『松竹百年史』、他は『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	駒沢(玉男)、朝顔(栄三)、岩代(淳造)、徳右衛門(兵次)。
△	一九五八	昭和33	5/26~6/10	地方公演 (東北・北陸・信越) 〈因会〉	(生写朝顔話) 宿屋、大井川。 ※日程は『松竹百年史』、他は『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	(不明)
△	一九五八	昭和33	10/5~18	地方公演 (関東・信越) 〈三和会〉	(生写朝顔話) 宿屋より大井川(つばめ、古住=喜左衛門・琴 勝平)。	駒沢(辰五郎)、朝顔(紋十郎)、岩代(紋二郎)、徳右衛門(国秀)。
△	一九五八	昭和33	10/22	貝塚市公民館 〈三和会〉	(生写朝顔話) 宿屋(つばめ=喜左衛門・琴 勝平)、大井川(古住=燕三)。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	駒沢(辰五郎)、朝顔(紋十郎)、岩代(勘十郎)、徳右衛門(紋市)。
	一九五八	昭和33	10/29	大津 滋賀会館 〈三和会〉	生写朝顔話 宿屋より大井川まで(前 つばめ=喜左衛門・琴 勝平、後 古住=燕三)。	駒沢次郎左衛門(辰五郎)、朝顔実ハ深雪(紋十郎)、岩代多喜太(作十郎)、戎屋徳右衛門(国秀)。
△	一九五八	昭和33	11/30	徳島 新町小学校 〈三和会〉	(生写朝顔話) 宿屋(古住=燕三・琴 勝平)、大井川(小松=市治郎)。 ※若大夫芸道60年記念(典拠)。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	駒沢(勘十郎)、朝顔(紋之助)、岩代(紋二郎)、徳右衛門(国秀)。
△	一九五八	昭和33	12/11~19	地方公演 (東海・関東) 〈三和会〉	(生写朝顔話) 宿屋より大井川(つばめ、古住=喜左衛門・琴 勝平)。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	駒沢(辰五郎)、朝顔(紋十郎)、岩代(紋二郎)、徳右衛門(国秀)。
	一九五九	昭和34	2/13~16	東京 新橋演舞場 〈合同〉	生写朝顔日記 宿屋の段(宮城阿曾次郎事駒沢次郎左衛門一津/つばめ・朝顔実ハ深雪一土佐/松・岩代多喜太一古住・下女おなべ一織部・徳右衛門一相生=寛治/喜左衛門・琴 勝平)、大井川の段(土佐/松=松之輔)。 ※豊竹山城少掾引退披露公演。	宮城阿曾次郎事駒沢次郎左衛門(玉男)、朝顔(栄三)、岩代多喜太(辰五郎)、戎屋徳右衛門(玉市)。
△	一九五九	昭和34	2/21~3/4	地方公演 (関東) 〈三和会〉	(生写朝顔話) 宿屋より大井川(つばめ=喜左衛門・琴 勝平、古住=勝太郎)。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	駒沢(辰五郎)、朝顔(紋十郎)、岩代(紋二郎)、徳右衛門(国秀)。
	一九五九	昭和34	3/15~18	京都 南座 〈合同〉	生写朝顔話 宿屋の段(朝顔実ハ深雪一つばめ・阿曾次郎実ハ駒沢次郎左衛門一雛・岩代多喜太一古住・下女おなべ一綱子・徳右衛門一和佐=喜左衛門・琴 勝平)。 ※松竹経営五十年祭記念・豊竹山城少掾引退披露興行。	阿曾次郎実ハ駒沢次郎左衛門(玉男)、朝顔実ハ深雪(栄三)、岩代多喜太(勘十郎)、亭主徳右衛門(辰五郎)。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九五九	昭和34	3/25~28	地方公演 (東北) 〈三和会〉	(生写朝顔話) 宿屋より大井川(つばめ=喜左衛門・琴 勝平、古住=勝太郎)。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	駒沢(辰五郎)、朝顔(紋十郎)、岩代(紋二郎)、徳右衛門(国秀)。
△	一九五九	昭和34	6/19~28	地方公演 (中国・九州) 〈三和会〉	(生写朝顔話) 宿屋より大井川(若=勝太郎・琴 勝平)。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	駒沢(辰五郎)、朝顔(紋十郎)、岩代(作十郎)、徳右衛門(国秀)。
△	一九五九	昭和34	7/16	足利市 興国化学講堂 〈三和会〉	(生写朝顔話) 宿屋より大井川(若=勝太郎・琴 勝平)。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	駒沢(辰五郎)、朝顔(紋十郎)、岩代(作十郎)、徳右衛門(国秀)。
	一九五九	昭和34	9/2~6	道頓堀文楽座 〈合同〉	生写朝顔話 通し狂言 宇治川蚩狩の段(小松/相子=弥七)、真葛ヶ原の段(伊達路=藤二郎)、秋月弓之助閑居の段(口津の子=団六、奥十九=団二郎)、明石舟別れの段(宮城阿曾次郎一綱子/若子・娘深雪一若子/綱子=勝太郎・琴 団二郎)、浜松小屋の段(口伊達路=勝平、奥娘深雪一小松・乳母浅香一相子・輪抜吉兵衛一伊達路・里の子一松香=団六)、島田駅笑葉の段(口津弥=藤二郎、奥古住=勝平)、宿屋奥座敷の段(織の=藤蔵・琴 団六)、大井川の段(津の子=寛治)。 ※文楽嫩会第6回例会秋季大発表会。	宮城阿曾次郎(一暢/玉昇)、駒沢次郎左衛門(文昇/玉昇)、娘深雪(文雀/勘之助)、朝顔(紋二郎/文雀)、乳母浅香(勘之助/一暢)、萩野祐仙(玉昇/紋二郎)、岩代多喜太(小玉)、戎屋徳右衛門(文雀/文昇)。
	一九五九	昭和34	9/8~	地方公演 (北海道) 〈合同〉	生写朝顔日記 宿屋より大井川迄(切若=勝太郎・琴 勝平)。	宮城阿曾次郎(辰五郎)、朝顔実(深雪(紋十郎)、岩代多喜太(勘十郎)、亭主徳右衛門(玉市)。
	一九五九	昭和34	10/30	東京 美術倶楽部 〈三和会〉	生写朝顔日記 船別れの段(若子=勝平)。 ※豊竹若大夫會。 ※「宿屋の段」は女流義太夫の竹本綾乃助・鶴沢三生。	
	一九六〇	昭和35	6/21~29	東京 三越劇場 〈三和会〉	生写朝顔日記 宿屋(文字=燕三)、大井川(小松=勝平)。 ※第12回学生文楽教室。文化財保護法制定10周年記念。	駒沢次郎左衛門(勘十郎/作十郎)、朝顔(清十郎/紋二郎)、岩代多喜太(紋弥/紋寿)、戎屋徳右衛門(国秀)。
	一九六〇	昭和35	7/21~24	東京 東横ホール 〈合同〉	生写朝顔話 通し狂言 宇治川蚩狩の段(相子=弥七)、真葛ヶ原の段(弘=藤二郎)、秋月弓之助閑居の段(津の子=勝平、十九=団二郎)、明石船別れの段(阿曾次郎一綱子・深雪一若子・船頭一松香=清治・琴 団二郎)、浜松薬売りの段(伊達路=弥七)、浜松小屋の段(津の子=団六、小松=勝平)、島田宿笑葉の段(津弥=藤二郎、文字=勝太郎)、宿屋奥座敷の段(織の=団六・琴 清治)、大井川の段(深雪一相子・徳右衛門一伊達路・関助一弘・人足一松香・萩野祐仙一津弥=松之輔)。 ※文楽嫩会第1回東京発表会。	宮城阿曾次郎(紋寿)、駒沢次郎左衛門(小玉)、娘深雪(文昇)、朝顔実(深雪(紋二郎)、乳母浅香(文雀)、萩野祐仙(玉昇)、岩代多喜太(紋弥)、戎屋徳右衛門(東太郎)。
△	一九六〇	昭和35	10/4~12	地方公演 (中国・四国) 〈因会〉	(生写朝顔話) 宿屋より大井川の段(土佐=藤蔵・琴 団六)。 ※日程は『昭和35年度人形浄瑠璃因協会年報』、他は『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	駒沢次郎左衛門(玉昇)、朝顔(玉五郎)、岩代多喜太(玉幸)、戎屋徳右衛門(玉市)。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九六一	昭和36	4/26	大原町 大原劇場 〈三和会〉	(生写朝顔話) 宿屋(つばめ=喜左衛門・勝平)、大井川(小松=勝太郎)。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	駒沢(辰五郎)、朝顔(紋十郎)、岩代(作十郎)、徳右衛門(国秀)。
	一九六一	昭和36	6/27~7/2	東京 三越劇場 〈三和会〉	生写朝顔話 明石舟別れの段(阿曾次郎-小松・深雪-若子=勝平)、笑葉の段(上松島=仙次郎、次文字=燕三)、宿屋より大井川迄(切つばめ=喜左衛門・琴勝之輔)。 ※三代目吉田簗助襲名披露。	宮城阿曾次郎・駒澤次郎左衛門(清十郎)、深雪・朝顔実ハ深雪(紋二郎改メ簗助)、萩野祐仙(勘十郎)、岩代多喜太(作十郎)、戎屋徳右衛門(辰五郎)。
	一九六一	昭和36	7/19~23	京都 南座 〈因会〉	生写朝顔話 菓売りの段(十九=団六)、浜松小屋の段(相生=重造)、島田駅笑葉の段(中伊達路=新三郎、次大隅=吉三郎)、宿屋奥座敷の段(土佐=藤蔵//春子=松之輔・琴団二郎)、大井川の段(土佐=藤蔵//春子=松之輔・胡弓藤二郎)。 ※『文楽興行記録昭和篇』では「宿屋」の「琴」は竹沢団六。	阿曾次郎実ハ駒沢次郎左衛門(玉男)、深雪・朝顔(亀松、宿屋<前>=難波掾)、乳母浅香(玉五郎)、萩野祐仙(玉助)、岩代多喜太(玉昇)、亭主徳右衛門(玉市)。
△	一九六二	昭和37	3/26~29	御堂会館 〈三和会〉	生写朝顔話 宿屋より大井川まで(切源=叶太郎・琴勝之輔、後小松=市治郎)。 ※紋二郎改メ三代吉田簗助襲名披露、初代野沢喜左衛門・二代鶴沢寛治郎・四代野沢勝市追善。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	駒沢次郎左衛門(辰五郎)、朝顔実ハ深雪(簗助)、岩代多喜太(作十郎)、戎屋徳右衛門(国秀)。
△	一九六二	昭和37	10/18	神戸 神戸国際会館 〈三和会〉	(生写朝顔話) 宿屋(源=叶太郎・琴勝之輔、文字=勝太郎)。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	駒沢(辰五郎)、朝顔(紋十郎)、岩代(作十郎)、徳右衛門(国秀)。
	一九六三	昭和38	6/8・14~21	地方公演 (東海・信越)	生写朝顔話 宿屋の段(織=弥七・団二郎)。 ※財団法人文楽協会誕生記念。	駒沢実ハ宮城阿曾次郎(栄三/亀松)、朝顔実ハ深雪(紋十郎)、岩代多喜太(玉昇)、戎屋徳右衛門(国秀)。
	一九六三	昭和38	7/14~28	道頓堀文楽座	生写朝顔話 通し狂言 宇治川蚩狩の段(綱子/若子=徳太郎)、明石船別れの段(織=藤蔵・琴清治)、島田宿笑葉の段(口小松/相子=勝平、奥津=寛治)、宿屋奥座敷の段(綱=弥七・琴寛弘)、大井川の段(土佐=吉三郎)。	宮城阿曾次郎(清十郎)、駒沢次郎左衛門(玉男)、深雪(蚩狩=簗助、船別れ=紋十郎)、朝顔実ハ深雪(紋十郎)、乳母浅香(文昇)、萩野祐仙(玉助)、岩代多喜太(勘十郎)、亭主徳右衛門(辰五郎)。
△	一九六三	昭和38	8/24~25	紀州	(生写朝顔話) 宿屋。 ※『文楽協会創立二十五周年を記念して一文楽協会』に拠る。	
	一九六三	昭和38	10/2~12	地方公演 (四国・九州)	生写朝顔話 宿屋の段(春子=松之輔・琴勝平)、大井川の段(伊達路=団六)。 ※財団法人文楽協会誕生記念。	宮城阿曾次郎(清十郎)、朝顔実ハ深雪(栄三)、岩代多喜太(文雀)、亭主徳右衛門(辰五郎)。
	一九六四	昭和39	4/4~7	地方公演 (関東・信越)	生写朝顔話 宿屋の段(源=叶太郎・琴団二郎)。 ※日程は『文楽協会創立二十五周年を記念して一文楽協会』に拠る。	宮城阿曾次郎(玉男)、朝顔実ハ深雪(亀松)、岩代多喜太(玉市)、亭主徳右衛門(辰五郎)。

「生写朝顔話」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九六四	昭和39	9/2~22	地方公演 (北陸・北海道・東北)	生写朝顔話	宿屋から大井川の段(南部=錦糸・琴 寛弘)。 ※日程は『文楽 協会創立二十五周年を記念して一文楽協会』に拠る。	駒澤次郎左衛門(勘十郎)、朝顔実(深雪(亀松)、岩代多喜太(玉昇)、亭主徳右衛門(辰五郎))。
一九六四	昭和39	10/3~12	東京 芸 術 座	生写朝顔話	宿屋(綱=弥七・琴 勝平)、大井川(土佐=吉兵衛)。 ※昭和39年度芸術祭主催公演。東京都芸術祭公演。	駒沢次郎左衛門(玉男)、朝顔実(深雪(紋十郎)、岩代多喜太(辰五郎)、亭主徳右衛門(玉市))。
一九六四	昭和39	10/15~17	京都 祇 園 会 館	生写朝顔話	宿屋の段(綱=弥七・琴 勝平)、大井川の段(土佐=吉兵衛)。	駒沢次郎左衛門(玉男)、朝顔実(深雪(紋十郎)、岩代多喜太(玉昇)、亭主徳右衛門(辰五郎))。
一九六五	昭和40	5/4~13	地方公演 (東海・関東)	生写朝顔話	宿屋の段(土佐=吉兵衛・琴 勝之輔)、大井川の段(源=叶太郎)。 ※日程は『文楽 協会創立二十五周年を記念して一文楽協会』に拠る。	駒澤次郎左衛門(玉昇)、朝顔実(深雪(紋十郎)、岩代多喜太(紋弥)、亭主徳右衛門(辰五郎))。
一九六五	昭和40	6/22~27	地方公演 (東海・関東)	生写朝顔話	宿屋の段(春子=松之輔・琴 清治)、大井川の段(小松=錦糸)。 ※日程は『文楽 協会創立二十五周年を記念して一文楽協会』に拠る。	駒沢次郎左衛門(清十郎)、朝顔実(深雪(紋十郎)、岩代多喜太(紋弥)、亭主徳右衛門(勘十郎))。
一九六五	昭和40	9/25~26	名古屋 愛知文化講堂	生写朝顔話	島田宿笑い薬の段(口 伊達路=勝平、奥 文字=燕三)、宿屋奥座敷の段(相生=重造・琴 団二郎)、大井川の段(織=錦糸)。	駒沢次郎左衛門(玉男)、朝顔実(深雪(紋十郎)、萩野祐仙(栄三)、岩代多喜太(玉昇)、亭主徳右衛門(国秀))。
一九六五	昭和40	11/19~12/8	地方公演 (中国・九州)	生写朝顔話	宿屋の段(土佐=吉兵衛・琴 勝之輔)、大井川の段(伊達路=団二郎)。 ※日程は『文楽 協会創立二十五周年を記念して一文楽協会』に拠る。	駒沢次郎左衛門(玉昇)、朝顔実(深雪(玉五郎)、岩代多喜太(紋弥)、亭主徳右衛門(辰五郎))。
一九六六	昭和41	2/15	朝 日 座	生写朝顔話	宿屋の段(深雪=春子・駒沢=文字・岩代=織・徳右衛門=津=松之輔・琴 勝平)、大井川の段(織=団六)。 ※渡米送別公演前夜祭。	駒沢次郎左衛門(簗助)、朝顔実(深雪(紋十郎)、岩代多喜太(玉昇)、亭主徳右衛門(亀松))。
△ 一九六六	昭和41	3/8~4/9	アメリカ	(生写朝顔話)	宿屋より大井川。 ※『文楽 協会創立二十五周年を記念して一文楽協会』に拠る。	(不明)
一九六六	昭和41	5/19~21	京都 祇 園 会 館	生写朝顔話	宿屋の段(若=勝太郎・琴 勝之輔)、大井川の段(十九=徳太郎)。 ※アメリカ公演帰朝記念。	駒沢次郎左衛門(玉男)、朝顔実(深雪(紋十郎)、岩代多喜太(玉昇)、亭主徳右衛門(国秀))。

「生写朝顔話」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九六六	昭和41	7/22~31	朝日座	生写朝顔話 通し狂言	宇治川蛭狩の段（口小春=清治、奥十九=徳太郎）、真葛ヶ原の段（大隅=団六）、秋月弓之助閑居の段（口相子=団二郎、奥織=叶太郎）、明石船別れの段（南部=燕三・琴勝之輔）、薬売りの段（綱子=勝平）、浜松小屋の段（綱=弥七）、島田駅笑葉の段（口松香=団二郎、文字=錦糸）、宿屋の段（つばめ=喜左衛門・琴勝之輔）、大井川の段（土佐=吉兵衛）。 ※「野沢喜左衛門・竹本相生大夫・吉田兵次の叙勲を祝って」（筋書）。 ※野沢喜左衛門休演、「宿屋の段」を竹沢弥七が代演。	宮城阿曾次郎（清十郎）、駒沢次郎左衛門（玉男）、娘深雪（養助）、朝顔（紋十郎）、乳母浅香（蛭狩・弓之助閑居=文昇、薬売り・浜松小屋=亀松）、萩の祐仙（栄三）、岩代多喜太（玉昇）、戎屋徳右衛門（辰五郎）。
一九六六	昭和41	8/6	羽曳野市立古市小学校	生写朝顔話	宿屋の段（土佐=吉兵衛・琴団二郎）、大井川の段（伊達路=団六）。 ※府民劇場文楽鑑賞会。8月5日にも府内で同公演あり。	駒沢次郎左衛門（清十郎）、朝顔実は深雪（栄三）、岩代多喜太（玉昇）、亭主徳右衛門（勘十郎）。
一九六八	昭和43	6/30~7/14	東京国立劇場 小劇場	生写朝顔話 通し狂言	宇治川蛭狩の段（小春=勝之輔、相子=勝平）、真葛ヶ原の段（伊達路=団二郎）、弓之助閑居の段（松香=清治、十九=叶太郎）、明石船別れの段（南部=松之輔・琴勝之輔）、薬売りの段（咲=勝平）、浜松小屋の段（相生=重造）、笑ひ葉の段（松香=勝之輔、文字=団六）、宿屋の段（越路=喜左衛門・琴勝之輔）、大井川の段（小松=吉兵衛）。 ※欧州巡業帰朝記念。 ※竹本相子太夫休演の日あり、「宇治川蛭狩の段」を豊竹嶋太夫が代演。	宮城阿曾次郎後に駒沢次郎左衛門（栄三）、娘深雪後に朝顔（紋十郎）、乳母浅香（亀松）、萩の祐仙（勘十郎）、岩代多喜太（作十郎）、戎屋徳右衛門（辰五郎）。
一九六八	昭和43	9/10~25	地方公演 （北陸・信越・関東・東海道）	生写朝顔話	宿屋の段（春子=勝太郎・琴団二郎）、大井川の段（呂=重造）。 ※文楽欧州公演・明治百年記念公演。	駒沢次郎左衛門（清十郎）、朝顔実は深雪（紋十郎）、岩代多喜太（玉幸）、亭主徳右衛門（辰五郎）。
一九六八	昭和43	11/23~24	名古屋 中日劇場	生写朝顔話	宿屋の段（文字=燕三・琴勝之輔）、大井川の段（呂=清治）。	駒沢次郎左衛門（亀松）、朝顔実は深雪（紋十郎）、岩代多喜太（作十郎）、戎屋徳右衛門（辰五郎）。
一九六八	昭和43	11/29~ 12/14	地方公演 （中国・九州）	生写朝顔話	宿屋の段（南部=錦糸・琴勝之輔）、大井川の段（小松=団六）。 ※文楽欧州公演・明治百年記念公演。	駒沢次郎左衛門（清十郎）、朝顔実は深雪（紋十郎）、岩代多喜太（玉昇）、亭主徳右衛門（玉男）。
一九七〇	昭和45	6/14~29	朝日座	生写朝顔話 通し狂言	宇治川蛭狩りの段（小松=道八）、明石船別れの段（南部=松之輔・琴勝之輔）、薬売りの段（相子=団六）、浜松小屋の段（相生=重造）、島田駅笑ひ葉の段（松香=勝之輔、文字=弥七）、宿屋の段（越路=喜左衛門・琴清治）、大井川の段（呂=勝平）。 ※日本万国博覧会協賛公演。 ※竹沢弥七23~29日休演、「島田駅笑ひ葉の段」を竹沢団二郎が代演。	宮城阿曾次郎・駒沢次郎左衛門（栄三）、娘深雪・朝顔実ハ深雪（紋十郎）、乳母浅香（亀松）、萩の祐仙（勘十郎）、岩代多喜太（作十郎）、戎屋徳右衛門（辰五郎）。

「生写朝顔話」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九七一	昭和46	6/11~23	地方公演 (北陸・信越・ 関東)	生写朝顔話	明石船別れの段(呂=団二郎)、浜松小屋の段(伊達路=吉兵衛)、宿屋の段(文字=錦糸・琴勝之輔)、大井川の段(嶋=道八)。 ※日程は『文楽協会創立二十五周年を記念して一文楽協会』に拠る。	宮城阿曾次郎・駒澤次郎左衛門(玉男)、娘深雪・朝顔実ハ深雪(栄三)、乳母浅香(文雀)、岩代多喜太(玉幸)、戎屋徳右衛門(辰五郎)。
一九七二	昭和47	7/4~27	朝日座	生写朝顔話	島田駅笑い葉の段(相生=叶太郎、十九=勝太郎)、宿屋の段(越路=喜左衛門・琴勝之輔)、大井川の段(小松=吉兵衛)。	駒澤次郎左衛門(清十郎)、朝顔実ハ深雪(栄三)、萩の祐仙(勘十郎)、岩代多喜太(作十郎)、戎屋徳右衛門(辰五郎)。
一九七三	昭和48	6/1~3	京都 京都府立文化芸術会館	生写朝顔話 通し狂言	宇治川蚩狩りの段(小松=道八)、明石船別れの段(英・津駒=叶太郎・琴勝之輔)、葉売りの段(咲=団六)、浜松小屋の段(織=弥七)、島田駅笑い葉の段(松香=団二郎、文字=勝太郎)、宿屋の段(越路=喜左衛門・琴勝之輔)、大井川の段(嶋=勝平)。	宮城阿曾次郎・駒澤次郎左衛門(清十郎)、娘深雪・朝顔実ハ深雪(簗助)、乳母浅香(亀松)、萩の祐仙(勘十郎)、岩代多喜太(玉昇)、戎屋徳右衛門(作十郎)。
一九七六	昭和51	2/12~3/10	地方公演 (四国・関東・ 近畿・東海)	生写朝顔話	宿屋の段(文字=道八・琴清介)、大井川の段(嶋=錦糸)。 ※日程は『文楽協会創立二十五周年を記念して一文楽協会』に拠る。	駒澤次郎左衛門(玉昇/作十郎)、朝顔実ハ深雪(清十郎)、岩代多喜太(玉幸)、戎屋徳右衛門(文昇)。
一九七六	昭和51	5/2	兵庫 明石市民会館大ホール	生写朝顔話	宿屋の段(南部=道八・琴清介)、大井川の段(松香=団六)。 ※第36回明石市民会館自主公演。	駒澤次郎左衛門(文雀)、朝顔実ハ深雪(清十郎)、岩代多喜太(玉昇)、戎屋徳右衛門(作十郎)。
一九七六	昭和51	6/3~6	京都 京都府立文化芸術会館	生写朝顔話	明石船別れの段(松香・津駒・文字栄=道八・八介)、島田駅笑い葉の段(英=清介、文字=錦糸)、宿屋の段(越路=弥七・弥三郎)、大井川の段(呂=団六)。	宮城阿曾次郎・駒澤次郎左衛門(玉男)、娘深雪・朝顔実ハ深雪(簗助)、萩の祐仙(玉昇)、岩代多喜太(作十郎)、戎屋徳右衛門(文雀)。
△	一九七六	昭和51	二ツ井戸 自安寺	生写朝顔話	明石船別れ(津駒=松也・琴燕太郎)。 ※第2回若葉会。 ※朝日座筋書(昭和51年7月)に拠る。	
一九七六	昭和51	7/29~8/3	地方公演 (近畿・東海)	生写朝顔話	明石船別れの段(嶋=清治・琴弥三郎)、島田駅笑い葉の段(英=清介、文字=錦糸)、宿屋の段(越路=弥七・琴弥三郎)、大井川の段(小松=団六)。 ※文化庁主催・青少年芸術劇場。	宮城阿曾次郎・駒澤次郎左衛門(玉男)、娘深雪・朝顔実ハ深雪(清十郎)、萩の祐仙(玉昇)、岩代多喜太(作十郎)、戎屋徳右衛門(文雀)。
一九七六	昭和51	8/27~9/18	地方公演 (関東・東海・ 北陸・信越・九 州)	生写朝顔話	島田駅笑い葉の段(松香/英=浅造、文字=錦糸)、宿屋の段(越路=吉兵衛・琴浅造)、大井川の段(小松=叶太郎)。	駒澤次郎左衛門(玉男)、朝顔実ハ深雪(清十郎)、萩の祐仙(勘十郎)、岩代多喜太(小玉)、戎屋徳右衛門(作十郎)。
△	一九七七	昭和52	日立ホール	生写朝顔話	明石船別れの段(貴=清友・琴八介)。 ※第3回若葉会。 ※朝日座筋書(昭和52年4月)に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九七八	昭和53	5/13~27	東京 国立劇場 小劇場	生写朝顔話 通し狂言	大序 大内館の段・多々羅浜の段（文字登、津国、南司、文字栄、三輪、貴、津駒、緑、英＝錦弥、錦市、八介、燕太郎、弥三郎、浅造、松也、清介、清友、勝司）、宇治川蚩狩の段（中 貴／三輪＝弥三郎、奥 呂＝団六）、真葛が原茶店の段（咲＝清介）、岡崎隠れ家の段（中 津駒＝清友、奥 織＝叶太郎）、明石浦船別れの段（南部＝重造・琴 浅造）、弓之助屋舗の段（口 英＝清介、奥 咲＝道八）、小瀬川の段（呂＝団六）、摩耶が嶽の段（中 相生＝勝司、次 小松＝団二郎、切 津＝吉兵衛）、大磯揚屋の段（中 嶋＝勝司、奥 十九＝燕三）、葉売りの段（松香＝勝平）、浜松小屋の段（文字＝錦糸）、嶋田宿笑ひ葉の段（中 緑＝清友、次 伊達路＝勝太郎）、宿屋の段（切 越路＝清治・琴 清介）、大井川の段（嶋＝団二郎）、帰り咲吾妻の路草（深雪＝小松・関助＝相生・ツレ 貴・三輪＝勝平・勝司・清友・松也）。 ※鶴沢燕三＝補曲（「大磯揚屋の段」）。吉村雄輝＝振付（「帰り咲吾妻の路草」）。 ※野沢勝太郎休演のため、「嶋田宿笑ひ葉の段・次」を野沢勝平が代演。	老女荒妙（文雀）、宮城阿曾次郎・駒沢次郎左衛門（玉男）、秋月娘深雪（簗助／清十郎）、乳母浅香（清十郎／簗助）、萩の祐仙（勘十郎）、岩代多喜太（玉昇）、戎屋徳右衛門（作十郎）。
一九七九	昭和54	7/7~22	朝 日 座	生写朝顔話 通し狂言	宇治川蚩狩りの段（阿曾次郎＝緑・月心＝三輪・深雪＝英・浅香＝文字栄・津国・南司＝叶太郎）、明石船別れの段（呂＝道八・琴 八介）、葉売りの段（松香＝清介）、浜松小屋の段（越路＝清治）、島田駅笑ひ葉の段（緑＝清友、織＝重造）、宿屋の段（文字＝錦糸・琴 錦弥）、大井川の段（小松＝勝司）。	宮城阿曾次郎・駒沢次郎左衛門（玉男）、娘深雪・朝顔（簗助）、乳母浅香（清十郎）、萩の祐仙（勘十郎）、岩代多喜太（作十郎）、戎屋徳右衛門（文雀）。
△	一九七九	昭和54	8/19	道頓堀リンドルビル	（生写朝顔話） 船別れの段（文字栄＝燕太郎・琴 燕二郎）。 ※若葉会。 ※朝日座筋書（昭和54年7月）に拠る。	
△	一九七九	昭和54	8/26	京都 京都府立文化芸術会館	（生写朝顔話） 船別れの段（文字栄＝燕太郎・琴 燕二郎）。 ※若葉会。 ※朝日座筋書（昭和54年7月）に拠る。	
	一九八〇	昭和55	2/29~3/1	朝 日 座	生写朝顔話 島田宿笑ひ葉の段（織＝道八、英＝清友）。 ※芸団協主催公演No. VI「上方芸能の真髓」Bプログラム「笑の芸」。	駒沢次郎左衛門（玉男）、萩の祐仙（清十郎）、岩代多喜太（作十郎）、戎屋徳右衛門（文雀）。
	一九八〇	昭和55	3/8	東京 国立劇場 小劇場	生写朝顔話 島田宿笑ひ葉の段（織＝道八）。 ※芸団協主催公演No. VI「上方芸能の真髓」Bプログラム「笑の芸」。素浄瑠璃。	
	一九八二	昭和57	5/31	東京 国立劇場 小劇場	生写朝顔話 明石船別れの段（南都＝燕二郎・琴 団治）。 ※文楽若手発表会。素浄瑠璃。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九八二	昭和57	6/25~28	京都 京都府立文化芸術会館	生写朝顔話	宇治川蚩狩りの段（阿曾次郎一松香・月心一三輪・深雪一津駒・浅香一貴・浪人+鹿内一南司・浪人一文字栄＝勝司）、明石船別れの段（南部＝団六・琴 団治）、薬売りの段（咲＝八介）、島田駅笑ひ葉の段（中 英＝吉之助、次 文字＝勝平）、宿屋の段（切 越路＝清治・琴 八介）、大井川の段（小松＝清友）。	宮城阿曾次郎・駒沢次郎左衛門（玉男）、朝顔実ハ深雪（簗助）、乳母浅香（文昇）、萩の祐仙（勘十郎）、岩代多喜太（作十郎）、戎屋徳右衛門（文雀）。
△ 一九八二	昭和57	7/26	二ツ井戸 自安寺	生写朝顔話	明石船別れ（津梅＝八介・琴 燕二郎）、薬売り（文字栄＝団治）、浜松小屋（前 英＝清友、奥 津国＝清介）、大井川の段（三輪＝浅造）。 ※第8回若葉会。素浄瑠璃。 ※『文楽』第1号に拠る。	
一九八三	昭和58	9/3~18	東京 国立劇場 小劇場	生写朝顔話	笑い葉の段（中 千歳＝燕二郎、次 織＝燕三）、宿屋の段（切 南部＝錦糸・琴 錦弥）、大井川の段（深雪一咲・徳右衛門一緑・関助一津国・川越人足一文字栄＝勝司）。	駒沢次郎左衛門実ハ宮城阿曾次郎（玉松）、朝顔実ハ深雪（簗助）、萩の祐仙（勘十郎）、岩代多喜太（玉幸）、戎屋徳右衛門実ハ古部三郎兵衛（文雀）。
一九八三	昭和58	9/19	東京 国立劇場 小劇場	生写朝顔話	浜松小屋の段（深雪一織美・乳母浅香一文字久・輪抜吉兵衛一津国・里童一研修生＝錦弥）、大井川の段（南都＝燕二郎）。 ※「浜松小屋の段」は素浄瑠璃。 ※文楽若手発表会・第8期文楽研修生発表会。	深雪（簗太郎）、戎屋徳右衛門（玉女）。
一九八四	昭和59	3/11~27	地方公演 （近畿・九州・ 中国・東海・関東）	生写朝顔話	明石船別れの段（深雪一津駒・阿曾次郎一津国／南司・船頭一文字栄／文字久＝錦弥・琴 団治）、島田駅笑ひ葉の段（口 貴＝八介、奥 伊達路＝団六）、宿屋の段（切 文字＝勝平・琴 燕二郎）、大井川の段（小松＝清友）。	宮城阿曾次郎・駒沢次郎左衛門（玉男）、娘深雪・朝顔実ハ深雪（文雀）、萩の祐仙（文吾）、岩代多喜太（一暢）、戎屋徳右衛門（作十郎）。
一九八四	昭和59	6/6~17	国立文楽劇場	生写朝顔話	宇治川蚩狩りの段（阿曾次郎一英・深雪一貴・月心一津国・浅香一南司・浪人一文字久・浪人一織美・鹿内一南都＝浅造）、明石浦船別れの段（嶋＝清介//小松＝富助・琴 八介）、薬売りの段（松香＝錦弥）、浜松小屋の段（呂＝清治）、笑い葉の段（中 津梅＝団治、次 咲＝団七）、宿屋の段（小松＝富助//嶋＝清介・琴 清二郎）、大井川の段（深雪一津駒・徳右衛門一三輪・関助一干歳・川越人足一文字栄＝燕二郎）、帰り咲吾妻の路草（深雪一相生・関助一緑・南都・織美・文字久＝清友・八介・錦弥・団治・清二郎）。 ※野沢勝平＝補曲、吉村雄輝＝振付（「帰り咲吾妻の路草」）。	宮城阿曾次郎・駒沢次郎左衛門（文吾）、娘深雪・朝顔（一暢）、乳母浅香（紋寿）、萩の祐仙（玉松）、岩代多喜太（玉女）、戎屋徳右衛門（玉幸）。
一九八六	昭和61	10/20	国立文楽劇場	生写朝顔話	薬売りの段（松香＝団治）、笑い葉の段（伊達路＝清介）、宿屋の段・大井川の段（相生＝富助・琴 団治）。 ※桐竹紋寿・吉田文吾リサイタル「古典とロック」。	駒沢次郎左衛門（玉女／文吾）、秋月娘深雪（紋寿／簗太郎）、萩野祐仙（文吾／紋寿）、岩代多喜太（玉也／若玉）、戎屋徳右衛門（和生／勘寿）。

「生写朝顔話」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九八九	平成1	7/3~19	国立文楽劇場	生写朝顔話	宇治川蚩狩りの段（中 三輪／貴＝浅造、奥 英＝錦弥）、明石浦船別れの段（小松＝清介・琴 清太郎）、葉売りの段（千歳＝弥三郎）、笑い葉の段（口 津梅＝清二郎、次 伊達＝団七）、宿屋の段（切 住＝燕三・琴 燕二郎）、大井川の段（津駒＝団治）。	宮城阿曾次郎・駒沢次郎左衛門（玉男）、娘深雪・朝顔（簗助）、乳母浅香（文昇）、萩の祐仙（紋寿）、岩代多喜太（玉幸）、戎屋徳右衛門（作十郎）。
一九九〇	平成2	5/12~27	東京国立劇場小劇場	生写朝顔話	明石船別れの段（阿曾次郎一英・深雪一三輪・船頭一南都＝燕二郎・琴 清太郎）、宿屋の段（切 住＝団六・琴 団治）、大井川の段（嶋＝錦弥）。	宮城阿曾次郎後に駒沢次郎左衛門（一暢）、朝顔実ハ娘深雪（簗助）、岩代多喜太（玉女）、戎屋徳右衛門（作十郎）。
一九九〇	平成2	10/8~28	地方公演（東海・関東・北陸）	生写朝顔話	明石船別れの段（千歳＝浅造・琴 団吾）、宿屋の段（咲＝清介・琴 清太郎）、大井川の段（英＝八介）。	宮城阿曾次郎後に二駒沢次郎左衛門（玉男）、朝顔実ハ娘深雪（文雀）、岩代多喜太（玉松）、戎屋徳右衛門（作十郎）。
一九九三	平成5	6/26	富田林市旧杉山邸	朝 顔	生写朝顔話 宿屋の段・大井川の段より（嶋＝清介・喜一朗）。 ※じないまち文楽。	朝顔実ハ娘深雪（簗助）、戎屋徳右衛門（簗二郎）。
一九九三	平成5	6/27	能勢町浄るりシアター	朝 顔	生写朝顔話 宿屋の段・大井川の段より（嶋＝清介・喜一朗）。	朝顔実ハ娘深雪（簗助）、戎屋徳右衛門（簗二郎）。
一九九四	平成6	7/31~8/22	国立文楽劇場	生写朝顔話	宇治川蚩狩りの段（口 三輪＝浅造、奥 咲＝清介）、明石船別れの段（小松＝錦弥・琴 喜一朗）、笑い葉の段（口 千歳＝清二郎、次 住＝燕三）、宿屋の段（切 嶋＝富助・琴 清太郎）、大井川の段（深雪一津駒・徳右衛門一南都・関助一文字栄・川越人足一始＝燕二郎）。 ※国立文楽劇場開場10周年記念。	宮城阿曾次郎・駒沢次郎左衛門（文昇）、娘深雪・朝顔（文雀）、乳母浅香（勤寿）、萩の祐仙（簗助）、岩代多喜太（文吾／玉幸）、戎屋徳右衛門（作十郎）。
一九九四	平成6	9/7	東京国立演芸場	生写朝顔話	明石船別れの段（咲甫＝団吾）、浜松小屋の段（呂勢＝清二郎）、宿屋より大井川の段（津駒＝団治・琴 団吾）。 ※若手素浄瑠璃の会。	
一九九四	平成6	10/29	東京国立劇場小劇場	生写朝顔話	浜松小屋の段（織＝錦弥）。 ※第6回文楽素浄瑠璃の会（第85回邦楽公演）。	
一九九五	平成7	5/13~28	東京国立劇場小劇場	生写朝顔話	宇治川蚩狩りの段（阿曾次郎一松香・深雪一貴・月心一南都・浅香一文字栄・始・咲甫＝弥三郎）、明石浦船別れの段（津駒＝清友・琴 団市）、嶋田宿笑い葉の段（中 三輪＝団吾、次 相生＝団七）、宿屋の段（切 住＝燕三・琴 燕二郎）、大井川の段（英＝団治改め 宗助）。	駒沢次郎左衛門実ハ宮城阿曾次郎（玉男）、朝顔実ハ娘深雪（簗助）、乳母浅香（文昇）、萩の祐仙（文雀）、岩代多喜太（玉幸）、戎屋徳右衛門（作十郎）。
一九九八	平成10	2/28~3/1	ドーンセンター	生写朝顔話	笑い葉の段（口 咲甫＝清志郎、後 千歳＝宗助）、宿屋の段より大井川の段（津駒＝清友・琴 喜一朗）。 ※第5回十色会。	駒沢次郎左衛門（幸助／勤緑）、朝顔（勤弥／文司）、萩の祐仙（勤緑／亀次）、岩代多喜太（文哉／玉勢）、戎屋徳右衛門（勤市）。

「生写朝顔話」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九九八	平成10	5/30~31	愛媛 内子座	生写朝顔話	笑い葉の段（中 咲甫=清志郎、次 相生=団七）、宿屋の段（咲=清介・琴 清志郎）、大井川の段（津駒=宗助）。	駒沢次郎左衛門（玉男）、朝顔実ハ深雪（簗助）、萩の祐仙（文雀）、岩代多喜太（文吾）、戎屋徳右衛門（一暢）。
一九九八	平成10	7/18~8/10	国立文楽劇場	生写朝顔話	明石浦船別れの段（小松=燕二郎・琴 団吾）、笑い葉の段（口 呂勢=清太郎、綱=清二郎）、宿屋の段（切 住=錦糸・琴 清志郎）、大井川の段（呂=団七）。 ※二世桐竹勘十郎十三回忌追善狂言。 ※鶴沢清太郎休演のため、「笑い葉の段・口」を鶴沢清志郎が代演。	宮城阿曾次郎・駒沢次郎左衛門（玉男）、娘深雪・朝顔（簗助）、萩の祐仙（簗太郎）、岩代多喜太（玉幸）、戎屋徳右衛門（文雀）。
一九九八	平成10	9/5~20	東京 国立劇場 小劇場	生写朝顔話	宇治川蚩狩りの段（阿曾次郎一松香・深雪一貴・月心一津国・浅香一南都・浪人一新・浪人一始・鹿内一咲甫=清友）、明石浦船別れの段（小松=燕二郎・琴 清志郎）、浜松小屋の段（呂=富助）、嶋田宿笑い葉の段（中 千歳=宗助、次 咲=団七）、宿屋の段（切 住=錦糸・琴 喜一朗）、大井川の段（津駒=清介）。 ※二世桐竹勘十郎十三回忌追善狂言「嶋田宿笑い葉の段」。	宮城阿曾次郎・駒沢次郎左衛門実は宮城阿曾次郎（玉男）、秋月娘深雪・朝顔実は娘深雪（簗助）、乳母浅香（文昇）、萩の祐仙（簗太郎）、岩代多喜太（玉幸）、戎屋徳右衛門（文雀）。
二〇〇一	平成13	7/7~8	京都 南座	生写朝顔話	宇治川蚩狩りの段（阿曾次郎一三輪・深雪一南都・月心一文字栄・浅香一始・浪人一相子・浪人一つばさ・鹿内一睦=弥三郎）、明石船別れの段（阿曾次郎一松香・深雪一貴・船頭一つばさ=喜左衛門・琴 龍津）、島田駅笑い葉の段（中 文字久=喜一朗、次 咲=団七）、宿屋の段（切 住=錦糸・琴 清志郎）、大井川の段（千歳=富助）。	宮城阿曾次郎後に駒沢次郎左衛門（玉男）、娘深雪後に朝顔（簗助）、乳母浅香（玉英）、萩の祐仙（文吾）、岩代多喜太（玉幸）、戎屋徳右衛門（一暢）。
二〇〇四	平成16	7/17~8/8	国立文楽劇場	生写朝顔話	宇治川蚩狩りの段（阿曾次郎一三輪・深雪一呂勢・月心一津国・浅香一南都・浪人一文字栄・浪人一始・鹿内一相子=宗助）、明石浦船別れの段（嶋=清介・琴 清文）、嶋田宿笑い葉の段（中 文字久=喜一朗、次 咲=燕二郎）、宿屋の段（切 住=錦糸・琴 清志郎）、大井川の段（津駒=寛治）。 ※国立文楽劇場開場20周年特別記念公演。 ※桐竹紋豊休演のため、戎屋徳右衛門を桐竹勘十郎が代演。 *「清文」の文は異体字。	宮城阿曾次郎・駒沢次郎左衛門（玉女）、秋月娘深雪・朝顔（簗助）、乳母浅香（玉英）、萩の祐仙（紋寿）、岩代多喜太（玉也）、戎屋徳右衛門（紋豊）。
二〇〇六	平成18	4/29	国立文楽劇場	生写朝顔話	宿屋の段（津駒=寛治・琴 寛太郎）。 ※第9回文楽素浄瑠璃の会（文楽劇場第28回邦楽公演）。	
二〇〇六	平成18	5/12~28	東京 国立劇場 小劇場	生写朝顔話	明石浦船別れの段（阿曾次郎一松香・深雪一南都・船頭一始=清友・琴 清旭）、宿屋の段（切 嶋=清介・琴 清文）、大井川の段（呂勢=清志郎）。 *「清文」の文は異体字。	宮城阿曾次郎・駒沢次郎左衛門実は宮城阿曾次郎（玉女）、娘深雪・朝顔実は娘深雪（簗助）、岩代多喜太（玉志）、戎屋徳右衛門（勘緑）。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
二〇〇七	平成19	2/2~3	NHK大阪ホール	生写朝顔話	笑い葉の段(中 咲甫=清胤、奥 住=錦糸)、宿屋の段(切 嶋=清介・琴 清丈)、大井川の段(呂勢=喜一朗)。 ※平成18年度「おおさか・元気・文楽」公演一関西元気文化圏共催事業一。 *「清丈」の丈は異体字。	駒澤次郎左衛門(玉女)、朝顔(文雀)、萩の祐仙(簗助)、岩代多喜太(玉輝)、戎屋徳右衛門(玉志)。
二〇〇七	平成19	10/5~22	地方公演 (東海・上越・関東・北海道・東北)	生写朝顔話	明石船別れの段(阿曾次郎一新・深雪一咲甫・船頭一つばさ=宗助・琴 清丈)、宿屋の段(咲=燕三・琴 清丈)、大井川の段(文字久=清志郎)。 *「清丈」の丈は異体字。	宮城阿曾次郎後に駒沢次郎左衛門(清之助)、秋月娘深雪後に朝顔(紋寿)、岩代多喜太(勘緑)、戎屋徳右衛門(玉輝)。
二〇〇八	平成20	3/2~23	地方公演 (中国・九州・近畿・東海・関東・北陸)	生写朝顔話	明石船別れの段(千歳=錦糸・琴 清公)、宿屋の段(咲=清介・琴 清公)、大井川の段(三輪=喜一朗)。	宮城阿曾次郎後に駒沢次郎左衛門(玉女)、秋月娘深雪後に朝顔(和生)、岩代多喜太(玉志)、戎屋徳右衛門(玉輝)。
二〇〇八	平成20	6/21~22	国立文楽劇場	生写朝顔話	宿屋の段(咲甫=清志郎・琴 寛太郎)、大井川の段(睦=清胤)。 ※第8回文楽若手会・国立文楽劇場文楽既成者研修発表会。	駒沢次郎左衛門(幸助)、朝顔実は娘深雪(一輔)、岩代多喜太(玉勢)、戎屋徳右衛門(玉佳)。
二〇〇九	平成21	5/30~31	岐阜相生座	生写朝顔話	宿屋の段~大井川の段(嶋=富助・琴 龍爾)、大井川の段(呂勢=宗助)。 ※第2回相生座文楽。	駒沢次郎左衛門(勘十郎)、深雪・朝顔(簗助)、岩代多喜太(簗二郎)、戎屋徳右衛門(玉也)。
二〇〇九	平成21	7/5	河内長野ラプリーホール	生写朝顔話	宿屋の段(切 住=錦糸・琴 寛太郎)、大井川の段(文字久=燕三)。	駒沢次郎左衛門(玉女)、朝顔(簗助)、岩代多喜太(玉輝)、戎屋徳右衛門(玉志)。
二〇〇九	平成21	7/18~8/5	国立文楽劇場	生写朝顔話	宇治川蚩狩りの段(阿曾次郎一松香・深雪一南都・月心一つばさ・浅香一睦・浪人一文字栄・浪人一呂茂・鹿内一靖=団吾)、明石浦船別れの段(綱=清二郎・琴 寛太郎)、浜松小屋の段(津駒=寛治)、嶋田宿笑い葉の段(中 咲甫=喜一朗、次 住=錦糸)、宿屋の段(切 嶋=富助・琴 清丈)、大井川の段(英=団七)。 ※国立文楽劇場開場25周年記念。 ※桐竹紋寿8月5日休演のため、萩の祐仙を桐竹勘十郎が代演。 *「清丈」の丈は異体字。	宮城阿曾次郎・駒沢次郎左衛門(和生)、娘深雪・朝顔(簗助)、乳母浅香(文雀)、萩の祐仙(紋寿)、岩代多喜太(玉輝)、戎屋徳右衛門(勘寿)。
二〇一〇	平成22	12/21~23	福岡博多座	生写朝顔話	明石船別れの段(英=団七・琴 龍爾)、笑い葉の段(中文字久=団吾、奥 住=錦糸)、宿屋の段(切 綱=清二郎・琴 寛太郎)、大井川の段(津駒=寛治)。	宮城阿曾次郎(幸助)、駒澤次郎左衛門(和生)、娘深雪(一輔)、朝顔実は深雪(簗助)、萩の祐仙(紋寿)、岩代多喜太(玉女)、戎屋徳右衛門(玉也)。

「生写朝顔話」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
二〇一一	平成23	5/7~23	東京 国立劇場 小劇場	生写朝顔話	明石浦船別れの段（阿曾次郎一津国・深雪一咲甫・船頭一文字栄=喜一朗・琴 龍爾）、宿屋の段（切 嶋=団七・琴 寛太郎）、大井川の段（呂勢=清志郎）。 ※竹本津国太夫休演のため、「明石浦船別れの段」阿曾次郎を豊竹睦太夫が代演。	宮城阿曾次郎・駒沢次郎左衛門又は宮城阿曾次郎（玉女）、娘深雪・朝顔又は娘深雪（簗助）、岩代多喜太（勘緑）、戎屋徳右衛門（玉輝）。
二〇一一	平成23	8/21~22	愛媛 内子座	生写朝顔話	笑い葉の段（中 咲甫=団吾、次 咲=燕三）、宿屋の段（切 嶋=団七・琴 清道）、大井川の段（千歳=清志郎）。	駒澤次郎左衛門（玉女）、朝顔又は深雪（文雀、大井川=和生）、萩の祐仙（勘十郎）、岩代多喜太（玉輝）、戎屋徳右衛門（玉也）。
二〇一三	平成25	9/28~10/14	地方公演 （近畿・東北・東海・上越・関東）	生写朝顔話	明石船別れの段（阿曾次郎一松香・深雪一睦・船頭一希=団吾・琴 清公）、笑い葉の段（中 南都=清丈、次 咲=燕三）、宿屋の段（千歳=団七・琴 寛太郎）、大井川の段（咲甫=宗助）。 ※竹本義太夫三百回忌・公益財団法人文楽協会創立50周年記念。 *「清丈」の丈は異体字。	宮城阿曾次郎（玉佳）、駒澤次郎左衛門（玉女）、娘深雪（文昇）、朝顔又は深雪（和生）、萩の祐仙（玉也）、岩代多喜太（玉輝）、戎屋徳右衛門（勘寿）。
二〇一四	平成26	3/1~18	地方公演 （中部・関東・九州・中国・北陸）	生写朝顔話	明石船別れの段（阿曾次郎一睦・深雪一芳穂・船頭一咲寿=喜一朗・琴 錦吾）、笑い葉の段（中 靖=清丈、次 咲=燕三）、宿屋の段（切 嶋=富助・琴 龍爾）、大井川の段（咲甫=錦糸）。 *「清丈」の丈、「芳穂」の芳は異体字。	宮城阿曾次郎（玉佳）、駒澤次郎左衛門（玉女）、娘深雪（文昇）、朝顔又は深雪（和生）、萩の祐仙（紋寿）、岩代多喜太（玉輝）、戎屋徳右衛門（勘寿）。
二〇一五	平成27	7/18~8/3	国立文楽劇場	生写朝顔話	宇治川蛭狩の段（阿曾次郎一三輪・深雪一南都・月心一始・浅香一希・浪人一文字栄・浪人一小住・鹿内一咲寿=喜一朗）、真葛が原茶店の段（松香=清友）、岡崎隠れ家の段（中 靖=清道、奥 千歳=富助）、明石浦船別れの段（津駒=寛治・琴 燕二郎）、菓売りの段（咲甫=錦糸）、浜松小屋の段（呂勢=清治）、嶋田宿笑い葉の段（中 芳穂=清丈、次 文字久=藤蔵）、宿屋の段（切 咲=燕三・琴 清公）、大井川の段（睦=宗助）。 *「清丈」の丈、「芳穂」の芳は異体字。	宮城阿曾次郎・駒沢次郎左衛門（玉男）、秋月娘深雪（一輔）、朝顔（浜松小屋=簗助、宿屋~大井川=紋寿）、乳母浅香（和生）、萩の祐仙（勘十郎）、岩代多喜太（玉志）、戎屋徳右衛門（勘寿）。
二〇一七	平成29	9/2~18	東京 国立劇場 小劇場	生写朝顔話	宇治川蛭狩りの段（中 小住=錦吾、奥 三輪=清友）、明石裏船別れの段（津駒=寛治・琴 燕二郎）、浜松小屋の段（呂勢=清治）、嶋田宿笑い葉の段（口 芳穂=清丈、奥 咲=燕三）、宿屋の段（呂=団七・琴 清公）、大井川の段（靖=錦糸）。 *「清丈」の丈、「芳穂」の芳は異体字。	宮城阿曾次郎・駒沢次郎左衛門（玉男）、秋月娘深雪（一輔）、朝顔（浜松小屋=簗助、宿屋~大井川=清十郎）、乳母浅香（和生）、萩の祐仙（勘十郎）、岩代多喜太（玉志）、戎屋徳右衛門（勘寿）。
△ 二〇一九	平成31	2/19	東京 赤坂区民セン ター区民ホール	生写朝顔話	宿屋の段・大井川の段（呂勢=藤蔵）。 ※赤坂文楽#20 文楽 体験講座と名作鑑賞。 ※チラシに拠る。	

「生写朝顔話」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
二〇一九	令和1	10/2~18	地方公演 (山陽・東海・ 北海道・関東・ 中部・東北)	生写朝顔話	明石船別れの段(芳穂=団吾・琴 清允)、笑い葉の段 (中 小住=寛太郎、次 三輪=団七)、宿屋の段(津駒 =宗助・琴 錦吾)、大井川の段(睦=清丈)。 *「清丈」の丈、「芳穂」の芳は異体字。	宮城阿曾次郎後に駒澤次郎左衛門(文 司)、娘深雪後に朝顔(清十郎)、萩の祐 仙(勘十郎)、岩代多喜太(玉輝)、戎屋 徳右衛門(勘寿)。
二〇二〇	令和2	3/6~21	地方公演 (近畿・九州・ 関東・山陽・東 海)	生写朝顔話	※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため公演中止。	
二〇二〇	令和2	8/22	国立文楽劇場	生写朝顔話	宿屋の段(咲=燕三・琴 燕二郎)。 ※第23回文楽素浄瑠璃の会(文楽劇場第42回邦楽公 演)。	